

猪木正道著作目録

松田 義男 編

改訂 2019年 5月 16日

2005年 3月 25日

目次

- I. 著書（訳書含む）
- II. 共著（編著・共訳・監修含む）
- III. 論文・評論等（新聞・雑誌掲載）
- IV. 評論集初出

凡例

- *著作の形態に応じて、「I 著書・訳書」、「II 編著・共著・共訳・監修書」、「III 新聞・雑誌掲載著作」に分類し、座談・対談・討議・インタビュー形式については著作の形態に関わらず、「IV 座談会」に分類し、それぞれを年次順に配列し、最後に「V 評論集初出一覧」を付した。
- *単行書の再版・増補版は、原則として、初版に一括して[]に注記した。
- *単行書のうち叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- *単行書収録評論について、目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- *単行書のうち、編著・共著・共訳・監修の別については、[]に示した。
- *新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。なお、第二次大戦後の『婦人公論』には、巻次の乱れがあるが、本著作目録では日本近代文学館の巻号表示により1946年を30巻、以後各年を1巻、1954年を38・39巻とし、1955年を40巻、以後各年を1巻とした。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- *東京本社発行版と大阪本社発行版のある全国紙、たとえば『朝日新聞』でいえば、大阪本社発行版のみ『[大阪]朝日新聞』と記した。
- *編者未見の著作については、表題冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録作成に際しては、猪木正道先生古稀祝賀論集刊行委員会編「猪木正道年譜および主要業績目録（『現代世界と政治 猪木正道先生古稀祝賀論集』世界思想社、1988年）を参照したほか、国立国会図書館、日本近代文学館、早稲田大学中央図書館・同現代政治経済研究所・同法律文献情報センター、同志社大学今出川図書館、青山学院大学図書館、防衛大学校図書館、東京大学総合図書館・同大学院経済学研究科経済学部図書館、神戸大学社会科学系図書館、政策研究大学院大学図書館、東京銀行協会銀行図書館、東京都立中央図書館、東京都立多摩図書館、京都府立総合資料館、埼玉県立図書館、農林水産省農林水産政策研究所図書館、国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館、アジア経済研究所、東北原子力懇談会、日本証券経済倶楽部、関西社会経済研究所、防衛大学校同窓会本部、大宅壮一文庫より資料の閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

I. 著書（訳書含む）

1943（昭和18）年

『中小工業経済論』＜日本学術振興会第23小委員会報告 中小工業研究 1＞有斐閣、10月25日[山田文雄著として刊行、実際は猪木政道著。『私の二十世紀 猪木正道回顧録』98頁、参照]

1948（昭和23）年

『ロシア革命史—社会思想史的研究』白晝書院、2月25日[再刊：世界思想社、1951年4月1日。新版：＜現代政治シリーズ＞世界思想社、1967年4月20日。＜歴史文庫 13＞日本ソノ書房、1969年6月11日。『著作集』1収録、再刊：＜中公文庫＞中央公論社、1994年6月10日]

『死と不死について』鬼怒書房、6月25日[ルードヴィヒ・フォイエルバッハ著『死と不死について』(Ludwig Andreas Feuerbach, *Gedanken über Tod und Unsterblichkeit*)の翻訳と「解説」および「フォイエルバッハの生涯」を収録。「解説」および「フォイエルバッハの生涯」は、「フォイエルバッハと死の思想」と改題して『共産主義の系譜』(みすず書房、1949年)第2章、『著作集』1収録]

1949（昭和24）年

『学問と労働者』[ラツサール著]＜世界古典文庫 88＞日本評論社、2月10日[「学問と労働者」(Ferdinand Lassalle, *Die Wissenschaft und die Arbeiter*)と「公開答状」の翻訳と「解説」を収録。改題・再刊：『学問と労働者 公開答状』＜創元文庫 E 11＞創元社、1953年7月30日。「解説」は「ラツサールの生涯と思想」と題して『共産主義の系譜』第3章、『著作集』1収録]

『共産主義の系譜』みすず書房、5月10日[『増訂版 共産主義の系譜』＜角川文庫＞角川書店、1953年6月30日。『増訂新版 共産主義の系譜』＜角川文庫＞角川書店、1959年7月30日。『新增訂版 共産主義の系譜 マルクスから毛沢東まで』角川書店、1970年9月30日。『増補版 共産主義の系譜 マルクスから現代まで』角川書店、1984年4月30日。増補版の第1～6章は『著作集』1に、第7～11章は『著作集』3に収録、増補版の復刊として誤字誤植を訂正した『新版 増補 共産主義の系譜』＜角川ソフィア文庫＞(KADOKAWA、2018年)がある]

『社会の概念と運動法則』[ローレンツ・フォンシュタイン著]みすず書房、3月20日[抄訳：Lorenz von Stein, *Geschichte der sozialen Bewegung in Frankreich von 1789 bis auf unsere Tage*]

『戦う社会民主主義—共産主義との対決—』実業教科書、10月10日[評論集]

1950（昭和25）年

『ドイツ共産党史—西欧共産主義の運命—』＜アテネ新書 4＞弘文堂、1月10日[『著作集』1収録]

『社会思想史』＜アテネ文庫 130＞弘文堂、9月30日

1951（昭和26）年

『スターリン』＜現代教養文庫 12＞社会思想研究会出版部、4月30日[「スターリン」(『中央公論』66-1、1951年1月1日)、「トロッキー主義とチトー主義」(『現代のコミュニズム』＜現代社会思想講座 3＞春秋社、1950年)を収録]

『三つの共産主義 レーニン・トロツキー・スターリン』養徳社、5月30日[評論集]

1952（昭和27）年

『ロシヤ史入門』創文社、7月31日

『戦争と革命』雲井書店、7月20日[再刊：<現代教養文庫 109>社会思想研究会出版部、1953年10月15日。『著作集』4収録]

1953（昭和28）年

『日本の方向 反動に抗して』<フォルミカ選書 4>創文社、1月10日[評論集]

『政治変動論』世界思想社、4月10日

1954（昭和29）年

『民主政治と独裁政治』<教養の書 31>郵政弘済会、1月20日

1955（昭和30）年

『人間尊重のために—西欧に学ぶもの—』<河出新書>河出書房、7月31日[評論集]

1956（昭和31）年

『政治学新講』<有信堂文庫>有信堂、9月15日[『新訂 政治学新講』<有信堂全書>有信堂、1959年10月10日。『増訂 政治学新講』<有信堂全書>有信堂、1962年4月1日]

『国際政治の展開』<有信堂文庫>有信堂、10月25日[評論集]

1957（昭和32）年

『米ソ両国の政治経済情勢と軍縮』<軍縮問題研究シリーズ>日本国際連合協会京都本部、5月10日

1958（昭和33）年

『民主的社会主義のために』<文化新書>有信堂、5月25日[評論集]

『民主政治の再検討』日本国際連合協会京都本部、6月15日

『ソ連社会の変遷』[訳]<時事新書>時事通信社、7月15日

1960（昭和35）年

『政治教育 ABC』<IDE 教育選書 33>民主教育協会、2月20日[再刊：『政治教育 ABC』<日本 PTA 教養文庫 第2集-3>民主教育協会、1961年6月1日]

『民主的社会主義』中央公論社、5月20日[評論集]

『ふたつの民主主義』<IDE教育選書39>民主教育協会、10月15日

『マルクスと現代』[F.シュテルンベルク著]創文社、8月31日[原著:Fritz Sternberg, *Marx und die Gegenwart*, 1955]

*『民主主義と社会主義』<労働文化シリーズ30>労働文化研究所

1961 (昭和36) 年

『議会政治を守るために』<文化新書>有信堂、2月1日[評論集]

『近代化と民主的革命のために 構造改革論をめぐって』<労働文化シリーズ35>労働文化研究所、4月12日

『独裁の政治思想』創文社、9月15日[増訂版:創文社、1984年5月20日、『著作集』2収録。3訂版:創文社、2002年8月20日]

1962 (昭和37) 年

『政治学ノート I - 民族主義と中立主義』<文化新書>有信堂、10月5日[評論集]

『新しい社会思想の流れ マルクス主義の克服』<労働文化シリーズ43>労働文化研究所、12月10日

『社会思想入門』有紀書房、12月25日[『社会思想史』(弘文堂、1950年)、『ドイツ共産党史』(弘文堂1950年)を収録]

1963 (昭和38) 年

『独裁者』<グリーンベルト・シリーズ>筑摩書房、1月30日[『著作集』2収録]

1965 (昭和40) 年

『激動する世界と日本-政治学ノートII』<文化新書>有信堂、6月15日[評論集]

『随想 世界と日本』有信堂、7月20日[評論集]

1966 (昭和41) 年

*『ベトナム情勢・労働運動』<民主社会協会シリーズ>民主社会協会、1月30日[1965年8月10日民主社会協会主催講演会(於北海道岩見沢市)の2つの講演「ベトナム情勢と日本」、「現下の政局と民主的労働運動の在り方」を収録、『民主主義のための講演集』(民主社会協会、1967年)収録]

1967 (昭和42) 年

『日本政治・外交史資料選』[編]<政治学講座 別巻1>有信堂、11月15日

1968（昭和43）年

『政治をみる眼』＜現代政治シリーズ＞世界思想社、2月10日[評論集]

『国際政治をみる眼』＜現代政治シリーズ＞世界思想社、2月10日[評論集]

『ベトナム和平をめぐる世界情勢』＜関西経済研究センター資料 68-11＞関西経済研究センター、5月

『歴史の転換点』文芸春秋、7月5日[評論集]

『チェコの自由化とソ連』＜関西経済研究センター資料 68-27＞関西経済研究センター、11月

1969（昭和44）年

『社会思想史入門』清水弘文堂書房、3月20日[『社会思想史』(弘文堂、1950年)に、「近代革命の理論－プロレタリア革命の理論－」(『近代社会の成立』弘文堂、1951年)を「プロレタリア革命の理論」と改題して収録]

『冷戦と共存』＜大世界史 25＞文芸春秋、6月25日[『著作集』3収録]

『講演 アメリカから帰って』[読売新聞社]国際関係委員会、12月[11月10日講演。『現代政治の虚像と実像』、『著作集』3収録]

1970（昭和45）年

*『新編高等学校政治・経済』[共著]好学社、1月

1972（昭和47）年

『国を守る－熱核時代の日本防衛論』実業之日本社、11月10日[『著作集』5収録]

『防衛を考える』防衛大学校、8月3日[評論集]

『当面するわが国の内政、外交、防衛問題』＜第22回例会講演於八戸グランドホテル＞デーリー東北政経懇話会、12月5日[『現代政治の虚像と実像』収録]

1974（昭和49）年

『現代政治の虚像と実像』＜Sekaishiso seminar＞世界思想社、4月1日[評論集]

1975（昭和50）年

『七つの決断 現代史に学ぶ』実業之日本社、1月20日[『著作集』4収録、付録の「政治思想について」を除き改題・復刊：『日本の運命を変えた七つの決断』＜文春学芸ライブラリー＞(文芸春秋、2015年)]

*『防衛問題、愛国心等について学校教育の現状と今後のあるべき姿』国際情勢研究会、11月

『最近の国際情勢と我国の安全保障』＜安保シリーズ 11＞安全保障推進香川県連合会議、12月[10月4日講演於高松市]

1976（昭和51）年

* 『安全保障問題研究会報告』安全保障問題研究会、7月

1977（昭和52）

『安全を考える』朝雲新聞社、3月30日[評論集]

『平和のなかの守りとは』<討論集会 32>尾崎行雄記念財団、3月25日

1978（昭和53）年

『国際情勢と日本の安全保障』<講演シリーズ 361>内外情勢調査会、1月19日講演(於東京帝国ホテル)

『合同朝礼』防衛大学校、5月20日[講話集]

『日本の安全保障を考える』<講演シリーズ 373>内外情勢調査会、12月4日講演(於東京帝国ホテル)

『評伝吉田茂』[上・中・下]読売新聞社、12月25日、1980年1月25日、1981年9月30日[普及版：[1～4]読売新聞社、1981年11月10日、12月10日。再刊：<ちくま学芸文庫>筑摩書房、1995年1月9日、2月7日。初出は、「吉田茂伝」(『週刊読売』1977年10月15日～1979年11月11日)、「吉田茂」(『正論』1980年1月1日～1981年10月1日)]

1979（昭和54）年

『八〇年代の日本の防衛を考える』<防衛の現状とその将来シリーズ 2>防衛整備協会、7月10日

1980（昭和55）年

『八〇年代の世界と日本』[八日クラブ年次総会記念講演速記]八日クラブ、3月10日講演

1981（昭和56）年

『軍事大国への幻想 真に国を守るには』東洋経済新報社、2月19日[評論集]

『わが国の安全保障について』<講演シリーズ 412>内外情勢調査会、11月6日講演(於久留米市ホテル萃香園)

1985（昭和60）年

『猪木正道著作集 1 共産主義の系譜』力富書房、3月5日

『猪木正道著作集 2 独裁の研究』力富書房、5月5日

『猪木正道著作集 3 冷戦と共存』力富書房、6月5日

『猪木正道著作集 5 国を守る』力富書房、7月5日

『猪木正道著作集 4 歴史・人物・決断』力富書房、7月15日

1986（昭和 61）年

『吉田茂』＜日本宰相列伝 18＞時事通信社、2月15日

『天皇陛下』ティビーエス・ブリタニカ、4月25日

1987（昭和 62）年

『九〇年代に向って 平和でもなく、戦争でもなく』[叙勲記念・非売品]力富書房、2月4日[評論集]

1990（平成 2）年

『歴史の黒白 これだけははっきり言っておく』ネスコ、7月17日

1991（平成 3）年

『政治の文法－日本・アメリカ・ソ連－』＜Sekaishiso seminar＞世界思想社、9月5日[評論集]

1995（平成 7）年

『軍国日本の興亡 日清戦争から日中戦争へ』＜中公新書＞中央公論社、3月25日

2000（平成 12）年

『私の二十世紀 猪木正道回顧録』世界思想社、4月10日[初出は「猪木正道回顧録」『外交フォーラム』12-10～12、13-1～4、1999年10月1日～2000年4月1日]

II. 共著（編著・共訳・監修含む）

1941（昭和16）年

生産力拡充政策[佐藤正樹との共同執筆]『日本戦時経済論』太平洋協会調査部編・経済問題研究会著、中央公論社、2月5日

鉄鉱業『日本戦時経済論』太平洋協会調査部編・経済問題研究会著、中央公論社、2月5日

1946（昭和21）年

ドイツの社会民主主義『民主主義の歴史及原理 下』＜民主主義大講座 2＞日本正学館、9月30日

1947（昭和22）年

民主主義者評伝『民主主義の実践及研究』＜民主主義大講座 3＞日本正学館、6月25日

1948（昭和23）年

マルクス主義思想『社会思想史十講』[社会思想研究会編]社会思想研究会出版部、5月1日[再刊：『社会思想史十講 下巻』＜現代教養文庫 34＞社会思想研究会出版部、1952年9月1日。増訂版：『社会思想史十講』＜現代教養文庫 594＞社会思想研究会、1967年4月15日。『共産主義の系譜』第1章、『著作集』1収録]

リベラリスト・ミリタント『河合栄治郎 伝記と追想』[共編]社会思想研究会出版部、7月1日[『現代評論集』＜現代日本文学体系 97＞(筑摩書房、1973年)、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)収録]

フレデリック・L・シューマン著ソヴェト政治論『The Book Review 第11巻』東洋経済新報社、10月15日

『独仏年誌論集－マルクス・エンゲルス初期論文集－』[マルクス、エンゲルス著・共訳]社会思想研究会出版部、10月20日[改題再版：『原始マルクス主義－独仏年誌論集』＜社会思想名著文庫＞社会思想研究会出版部、1949年10月20日]

1949（昭和24）年

スターリンと共産主義『現代社会思想十講』社会思想研究会、2月25日[再刊：『現代社会思想十講 上』＜現代教養文庫 91＞社会思想研究会出版部、1953年5月5日。「スターリンとソヴィエト共産主義」と改題して『共産主義の系譜』(みすず書房、1949年)第4章収録。「スターリンとスターリン主義」と改題して『三つの共産主義』(養徳社、1951年)、増訂版『共産主義の系譜』(角川書店、1953年)第6章収録]

ロシヤ革命の特殊性－社会思想史的に見たる－『労組読本 第2巻』三元社、5月10日

社会科学とマルクス主義『社会科学入門』みすず書房、10月15日[『三つの共産主義』(養徳社、1951年)付録に収録]

1950（昭和25）年

社会『どんな本をどう読むべきか』＜教養の書＞郵政省人事部訓練課編、社会思想研究会出版部、3月10日

日[『現代教養文献解題』<現代教養文庫 29 何を読むべきか 第1輯>(社会思想研究会出版部、1952年5月20日)収録]

トロッキー主義とチトー主義『現代の Kommunismus』<現代社会思想講座 3>春秋社、11月10日[『スターリン』<現代教養文庫 12>(社会思想研究会出版部、1951年4月30日)収録]

『社会主義とはなにか』弘文堂、11月15日[共同討議：木村健康、高島善哉、千種義人、土屋清、西沢富夫]

1951 (昭和 26) 年

近代革命の理論—プロレタリア革命の理論—『近代社会の成立』<社会科学講座 4>弘文堂、1月30日
[「プロレタリア革命の理論」と改題、『社会思想史入門』(清水弘文堂書房、1969年3月20日)収録]

ヘーゲルからマルクスへ—マルクスのヘーゲル批判—『法思想の潮流』<法哲学四季報 7・8>朝倉書店、2月5日

スターリン『社会問題と社会運動』<社会科学講座 6>弘文堂、3月30日

西欧危機の根底にあるもの『西欧の危機』<現代社会思想講座 別巻 2>春秋社、5月5日

社会思想史『社会科学を学ぶために』創元社、6月30日

河合教授とその頃の私『抵抗の学窓生活』要書房、9月30日

1952 (昭和 27) 年

『読書の伴侶』基督教学徒兄弟団、4月10日[共同討議：森信三、高坂正顕、西谷啓治、寿学文章、伊吹武彦、松村克己、伏見康治、矢内原伊作、久山康。改訂増補：1956年、新版：1964年7月15日。『読書』<現代教養全集 14>(筑摩書房、1959年10月20日)抄録]

暴力『道徳の危機』<新倫理講座 1>創文社、4月30日

ローザ・ルクセンブルクについて[解説]『獄中からの手紙』ローザ・ルクセンブルク著・秋元寿恵夫訳、世界文学社、5月1日

革命『世界と国家』<新倫理講座 5>創文社、9月15日

1953 (昭和 28) 年

近代国家の危機『危機に立つ近代』<現代史講座 1>創文社、6月15日[『政治学新講』第2章に収録]

コミンテルンと世界革命『廿世紀の展望』<現代史講座 2>創文社、7月25日

マルキシズムと社会変革『基督教と社会変革』日本基督教団社会委員会編、内外協力会、9月20日

ゲオルク・ルカッチ『明日への課題』<現代史講座 5>創文社、11月25日

社会主義と革命『社会主義』<経済学新大系 10>河出書房、12月15日

1954 (昭和 29) 年

『政治学事典』平凡社、5月18日[執筆項目：「一党独裁」、「政治史」、「政治的危機」、「組織問題」、「ツァーリ

ズム」、「ドイツ社会民主党」、「ドイツの政党」、「独裁」、「ボリシェヴィズム」、「レーニン」]

ソ連とはどんな国か『ソ連邦』[編著]毎日新聞社、9月20日

ソ連の政治『ソ連邦』[編著]毎日新聞社、9月20日

ソ連の外交『ソ連邦』[編著]毎日新聞社、9月20日

権力政治と労働党『社会改革の新構想 新フェビアン論集』<社会思想選書>社会思想研究会出版部、3月10日[訳:Denis Healey, Power politics and the Labour Party, R.H.S. Crossman (ed.), *New Fabian Essays*, 1952]

『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』東京創元社、12月5日 [既発表評論9編を収録]

1955 (昭和30) 年

自由主義と社会主義『人生とイデオロギー』<河出新書 現代人生論 2>河出書房、4月25日

『現代史事典』[共編著]<現代史講座VI>創文社、6月30日

解説『河合栄治郎全集 12 学生に与う』<現代教養文庫 67>社会思想社、8月5日[新版1969年4月15日]

暴力『人生の苦悩と解放』<河出新書 現代人生論 6>河出書房、8月31日

ヘルマン・ヘラー「国富論」について『Staatslehre, Hermann Hheller, herausgegeben von Gerhart Niemeyer』<別冊>みすず書房、9月15日

革命『経済学大辞典 第三巻』東洋経済新報社、12月25日

1956 (昭和31) 年

唯物論と社会主義『唯物論』<現代哲学講座 2>河出書房、1月20日

『社会思想辞典』[共編]<現代教養文庫 130>社会思想研究会出版部、1月30日

経済的自由と政治的自由—ドイツ社会民主主義の世界観—『思想と哲学の社会主義』<社会主義講座 3>河出書房、3月20日

『近代日本とキリスト教 明治篇』久山康編、基督教学徒兄弟団、4月18日[共同討議: 山谷省吾、高坂正顕、小塩力、亀井勝一郎、椎名麟三、武田清子、隅谷三喜男、北森嘉蔵、久山康]

ドイツ・オーストリアの社会党『社会主義の理論と歴史』<社会主義教科書第1巻 原理編>民主社会主義連盟編、春秋社、4月20日[「オーストリアの社会党」と改題『民主的社会主義のために』収録]

社会主義から共産主義への漸次的移行『「経済学教科書」の問題点 下』中央公論社、4月25日[『民主的社会主義のために』収録]

政治史・政治思想史『社会科学入門』<現代科学叢書>みすず書房、6月10日

議会を通じての革命—社会民主主義の革命論—『革命と行動の社会主義』<社会主義講座 3>河出書房、6月29日[『民主的社会主義のために』収録]

ロシヤ革命以後『第六回夏季大学講座テキスト』[高知県教育委員会・高知市教育委員会、8月]

『近代日本とキリスト教 大正・昭和編』久山康編、基督教学徒兄弟団、11月15日[共同討議: 山谷省吾、高坂正顕、小塩力、亀井勝一郎、椎名麟三、武田清子、隅谷三喜男、北森嘉蔵、久山康]

「あんけいと 一 私の作る番組 二 民放の長所と短所」『ABC 創業五周年記念』朝日放送、11月11日
ロシアにおける革命の問題『現代の思想的状況』<岩波講座現代思想 1>岩波書店、11月25日

1957 (昭和 32) 年

深く高く 摩羅羅女像(三十三間堂)『続京都の仏像』<河出新書>京都新聞社編集局編、河出書房、1月15日

社会民主主義の成立と発展—ドイツ、オーストリアを中心として『新しい社会』<岩波講座現代思想 4>岩波書店、1月25日

独裁の政治過程『独裁の研究』[編著]創文社、4月25日[『独裁の政治思想』補論第2章、『著作集』2収録]

河合教授とその頃の私『わが学生の頃』大河内一男・清水幾太郎編、三芽書房、11月30日[『著作集』4収録]

1958 (昭和 33) 年

歴史悪をめぐって『悪について』<講座現代倫理 2>筑摩書房、2月20日[共同討議:久野収、古在由直、鈴木成高][『平和・権力・自由』<久野収対話集 戦後の渦の中で 2>(人文書院、1973年)収録]

革命の技術と倫理『上と下の倫理』<講座現代倫理 3>筑摩書房、3月20日

ロシア革命『転換期の倫理思想(世界)』<講座現代倫理 10>筑摩書房、10月25日

1959 (昭和 34) 年

政治篇『ソビエト連邦』日本国際連合協会京都本部、5月20日

資本主義と社会主義『人間と歴史』清水幾太郎編、有斐閣、9月20日[「資本主義と社会主義—社会体制と人間」と改題、『民主的社会主義』収録]

知識人の偏向を克服[推薦]『近代日本思想史講座』[出版内容見本]筑摩書房、1959年配本開始

1960 (昭和 35) 年

『安保条約改定問題』について『安全保障体制の研究 下』<時事新書>時事通信社、1月20日

二大政党と社会主義政党『日本における民主社会主義の課題』<第1回民主社会主義研究会議報告書>民主社会主義研究会議編・刊、2月20日

社会主義社会への道はいかにして可能か『理想の社会に至る道 革命と国内改革』<現代 7つの課題 2>筑摩書房、10月10日

民主社会主義と平和の問題『民主社会主義とはなにか』民主社会主義研究会議編、社会思想社、10月30日[共同討議:武藤光朗、蠟山政道、中村菊男、土井章、土屋清、和田耕作、関嘉彦]

ベトログラード1917年(N.N.スハノフ著)[共訳:Nikolai Nikolajevich Sukhanov, *The Russian Revolution, 1917*]『世界ノンフィクション全集 9』筑摩書房、11月10日

解説『世界ノンフィクション全集 9』筑摩書房、11月10日

1961 (昭和 36) 年

民主政治の理想と現実[1961年2月20日於大阪府農林会館]『公明選挙研究協議会の記録(第七回)』公明選挙連盟編・刊、3月30日

日本における中立論の批判『中立主義の研究 下』<国際研究 2>日本国際問題研究所、4月15日

東南アジア『中立及び中立主義』日本国際連合協会京都本部、6月25日[「東南アジアの中立主義」と改題、『民族主義と中立主義』、『著作集』3収録]

政治学から見た日本国憲法『研修叢書 昭和35年度』日本弁護士連合会、7月10日

『戦後日本精神史』基督教学徒兄弟団、7月15日[共同討議：西谷啓治、高坂正顕、亀井勝一郎、椎名麟三、武藤一雄、北森嘉蔵、隅谷三喜男、武田清子、遠藤周作、久山康]

『現代日本のキリスト教』基督教学徒兄弟団、11月15日[共同討議：西谷啓治、高坂正顕、亀井勝一郎、椎名麟三、武藤一雄、北森嘉蔵、隅谷三喜男、武田清子、久山康]

1962 (昭和 37) 年

第一次大戦の政治的結果『大戦間時代』<世界の歴史 16>筑摩書房、3月5日[新訂版：1979年12月10日]

座談会 大戦間時代『大戦間時代』<世界の歴史 16>筑摩書房、3月5日[新訂版：1979年12月10日。座談会：石上良平、竹内好、遠山茂樹、林健太郎]

現代世界と転向『共同研究 転向 下』思想の科学研究会編、平凡社、4月20日[共同討議：鶴見俊輔、荒正人、加藤周一、久野収、古在由重、高島通敏、竹内好、藤田省三、本多秋五、丸山真男、南博。『社会とは何だろうか』<鶴見俊輔座談 9>(晶文社、1996年)収録]

レーニン『民族解放の星』<20世紀を動かした人々 12>講談社、10月18日

監修者序『ソビエトと世界政治』監修：フィリップ・E・モーズリー著(山川雄巴・木村汎訳)、論争社、1962年10月25日[Philip E. Mosely, *The Kremlin and world politics : studies in Soviet policy and action*, 1960]

レーニン主義と毛沢東思想『ソ連と中共 第三回共産圏研究国際会議報告上巻』欧ア協会編訳・刊、1962年11月30日

Leninism and Mao Tse-tung's ideology, Kurt London ed., *Unity and contradiction; major aspects of Sino-Soviet relations*, Praeger

1963 (昭和 38) 年

デ・ヤングによるタイ農村の研究[John E. deYoung, *Village life in modern Thailand*, 1958の要約]『タイ・ビルマの社会経済構造』[編著]<研究参考資料 38>アジア経済研究所、1月31日

カウフマンによるバンクワッドの研究[Howard Keva Kaufman, *Bangkhuad: a community study in Thailand*, 1960の要約]『タイ・ビルマの社会経済構造』[編著]<研究参考資料 38>アジア経済研究所、1月31日

キングスヒルによるクー・デーンの研究[Konrad Kingshill, *Ku Daeng : the red tomb : a village study in northern Thailand*, 1960の要約]『タイ・ビルマの社会経済構造』[編著]<研究参考資料 38>アジア経済研究所、1月31日

先生と私[「追想録」]『滝川幸辰 文と人』滝川幸辰先生記念会編・刊、11月16日[『ある生涯 瀧川幸辰 文

と人』(世界思想社、1965年11月20日)収録]

The communist view of freedom, Clarence Perry Oakes ed., *Education and freedom in a world of conflict : guidelines for teaching about communism*, Chicago , H. Regnery Co.

1964 (昭和 39) 年

第二次世界大戦後の共産主義と社会主義『社会科学と哲学』<講座哲学大系 5>人文書院、1月30日

*ギリシア悲劇の現代版『新潮社版トロッキー伝』[出版内容見本]新潮社、1月配本開始

福祉国家実現の担い手はだれか『福祉国家を実現しよう』<第5回民主社会主義全国研究会議報告書>民主社会主義研究会議編・刊、4月30日[分科会報告、討議：音田正巳・武藤光朗・和田春生・野田福雄]

第二次大戦後の世界『現代の世界』[共編]<世界歴史 7>人文書院、5月20日

多極化から多元化へ『現代の世界』[共編]<世界歴史 7>人文書院、5月20日

国際社会と地方経済『地方経済の将来』<新聞資料編集 9>日本新聞協会、7月10日[座談会：(司会)中村正吾、寺尾威夫]

矢内原先生の思い出『矢内原忠雄全集 第20巻 月報 20』岩波書店、10月12日[『矢内原忠雄』(岩波書店、1968年8月3日)収録]

独裁『現代思想事典』清水幾太郎編、講談社<講談社現代新書>、11月16日

民主的社会主義『現代思想事典』清水幾太郎編、講談社、11月16日

Civil Bureaucracy and the political modernization of Japan, Robert E. Ward & Dankwart A. Rustow (eds.), *Political modernization in Japan and Turkey*, Princeton University Press

1966 (昭和 41) 年

はしがき『政治学 2 政治思想史』<法律学ハンドブック>[共編]高文社、9月1日

三民主義『政治学 2 政治思想史』<法律学ハンドブック>[共編]高文社、9月1日

毛沢東『政治学 2 政治思想史』<法律学ハンドブック>[共編]高文社、9月1日

第一次大戦『歴史よもやま話 西洋篇』文芸春秋、9月1日(<文春文庫>文芸春秋、1982年) [1962年8月10日NHK放送、座談会：池島信平、茂木政、村瀬興雄]

上野への郷愁『伊賀上野』上野市編、淡交新社、9月10日

Introduction, Masamichi Inoki ed., *Japan's future in Southeast Asia*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

Japan and the national and social revolutions in Southeast Asia: A political proposal, Masamichi Inoki ed., *Japan's future in Southeast Asia*, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

1967 (昭和 42) 年

クーデタ『事典 現代を考える』読売新聞社、1967年3月10日

監修者あとがき『現代のマルクス主義 二十世紀に挑戦する思想家たち』監修：M.M. ドラーシコヴィッチ編(木村汎訳)、社会思想社、3月15日[M. M. Drachkovitch ed., *Marxism in the modern world*, 1966]

レーニン『現代世界ノンフィクション全集 5』筑摩書房、4月25日[共訳：Louis Fischer, *The life of Lenin* 抄訳。再刊：『世界ノンフィクションヴェリタ 24 5』筑摩書房、1978年3月30日]

西川論文に関連して[「学会報告」]『現代日本の政党と官僚—保守合同以後—』<年報政治学 1967>日本政治学会編、岩波書店、5月30日

三猿主義は無理[「アジア平和国際会議を終って」]『アジア平和国際会議関係資料・論文集』読売新聞社、6月

ルイス・フィッシャー著『レーニン』[上・下]筑摩書房、6月25日、11月30日[新装版：1988年5月25日][共訳：Louis Fischer, *The life of Lenin*, Harper & Row, 1964]

解説『河合栄治郎全集 第14巻』社会思想社、9月20日

アナキズムとの出会い[「アナキズム思想とその現代的意義」]『ブルードン・バクーニン・クロボトキン』<世界の名著 42>中央公論社、11月20日[再刊：<中公バックス>中央公論社、1980年1月]

個人主義的アナキズム—ブルードン[「アナキズム思想とその現代的意義」]『ブルードン・バクーニン・クロボトキン』<世界の名著 42>中央公論社、11月20日[再刊：<中公バックス>中央公論社、1980年1月]

日本におけるアナキズム[「アナキズム思想とその現代的意義」]『ブルードン・バクーニン・クロボトキン』<世界の名著 42>中央公論社、11月20日[再刊：<中公バックス>中央公論社、1980年1月]

ロシア革命とアナキズム『ブルードン・バクーニン・クロボトキン』付録 21<世界の名著 42>中央公論社、11月20日[鼎談：荒畑寒村、勝田吉太郎]

Marxism socialism in the Far East in Nicholas Lobkowitz ed., *Marx and the western world*, University of Notre Dame Press

1968 (昭和 43) 年

社会主義用語の解説『現代用語の基礎知識 1968』自由国民社、1月1日

日本の政治は悪いか『現代日本の政治 分析と展望』[共編]<講座日本の将来 2>潮出版社、1月15日

戦後の政治・経済・思想『現代』<日本歴史シリーズ第22巻>世界文化社、2月20日

動乱の時代[解説]『現代世界ノンフィクション全集 8』筑摩書房、2月25日

監修者のことば『政治的時代 革命的世界とその構造』[監修]<現代人の教養 11>ハーバー・フィラー著(進藤栄一・北島寅雄訳)、エンサイクロペディアブリタニカ日本支社、4月20日[John Harvey Wheeler, *Democracy in a revolutionary era : the political order today*, 1968]

多党制下の権力状況[討議：大谷恵教、結束博治、芹沢功、中村勝範、中村菊男]『現代日本の革新の方向 国民的合意を求めて』民主社会主義研究会編・刊、1968年5月20日

社会学者としての小泉信三氏『小泉信三全集 2 月報 18』文芸春秋、9月10日

チェコスロバキアの悲劇—自由化と軍事占領—『それでもチェコは戦う 二千語宣言署名者は訴える』番町書房、11月30日

軍国主義『社会科学大事典 5』鹿島出版会、12月25日[『著作集』5収録]

1969 (昭和 44) 年

社会主義用語の解説『現代用語の基礎知識 1969』自由国民社、1月1日

1970（昭和45）年

社会主義用語の解説『現代用語の基礎知識 1970』自由国民社、1月1日

70年代の展望 経済成長と政治的不安定『70年代の日本と世界 国連 25周年記念』日本国際連合協会九州ブロック、11月30日

社会主義用語の解説『現代用語の基礎知識 1971』自由国民社、12月1日

1971（昭和46）年

ソ連邦共産党史第三版について[解説]『ソヴェト連邦共産党史 上』ベ・エヌ・ポノマリヨフ他編・早川徹訳、読売新聞社、6月1日

1972（昭和47）年

序『榎乃實－榎智雄先生追想集』防衛大学校同窓会榎記念出版委員会、11月10日

1973（昭和48）年

祖国について『人生というもの』<人間の世紀 7>潮出版社、12月5日[『軍事大国への幻想』、「私の祖国愛」と改題して『著作集』5収録]

軍国主義『ブリタニカ国際大百科事典 6』ティビエス・ブリタニカ、3月1日[『著作集』5収録]

1974（昭和49）年

まえがき『共産圏諸国の政治経済の動向』創文社、11月25日

チェコの自由化とソ連『共産圏諸国の政治経済の動向』創文社、11月25日

1975（昭和50）年

日本の安全保障『世界のなかの日本』鹿島平和研究所編、鹿島出版会、6月25日

「討議のまとめ」を読んで『わが国の防衛を考える』防衛を考える会事務局編、朝雲新聞社、9月30日[座談会：堂場肇、おおば比呂司、伊藤圭一]

1976（昭和51）年

吉田茂と日本の安全保障『防衛開眼－平和ボケからの脱出－』<1975年9月第1回防衛トップセミナー 討論・講演集>隊友会、3月3日[『安全を考える』収録]

日本人の防衛意識と青少年教育『続防衛開眼 平和ボケからの脱出』<1976年6月第2回防衛トップセミナー 討論・講演集>隊友会、6月1日[『安全を考える』収録]

1977（昭和52）年

**Revolutionsfurcht und Entmodernisierung in Zwei zaghafte Riesen? : Deutschland und Japan seit 1945*, hrsg. von Arnulf Baring und Masamori Sase (Belsner Verlag, 1977)

1978 (昭和 53) 年

ロシア革命『革命の研究』林健太郎編、高木書房、4月24日[座談会：内村剛介、勝田吉太郎、志水速雄、林健太郎]

はじめに『現代の世界』[共著]〈世界の歴史 25〉講談社、11月20日

冷戦とアジア『現代の世界』[共著]〈世界の歴史 25〉講談社、11月20日

共存から緊張緩和へ(1)『現代の世界』[共著]〈世界の歴史 25〉講談社、11月20日

1979 (昭和 54) 年

韓日相互理解における知識人の役割『韓日間の相互理解』亜細亜政策研究院編〈亜政研究叢書 5〉亜細亜政策研究院出版部、6月15日[ハングル・日本語併記]

報告 民主社会主義の政治[第20回民主社会主義全国研究会議第2部会]『なぜ民主社会主義を選ぶか』〈民社研資料シリーズ 2〉民主社会主義全国研究会議、9月15日

討議 民主社会主義の政治[第20回民主社会主義全国研究会議第2部会]『なぜ民主社会主義を選ぶか』〈民社研資料シリーズ 2〉民主社会主義全国研究会議、9月15日[共同討議：林卓男、堀江湛、田中良一、ジェームズ・スチュアート]

1980 (昭和 55) 年

Foreword, *The common security interests of Japan, the United States, and NATO*, (Cambridge, Mass.: Ballinger Pub. Co.), Oct[平和・安全保障研究所、米国大西洋会議編『日本、米国、NATOに共通する安全保障の諸問題』英語版]

1981 (昭和 56) 年

日本の防衛『国際関係』〈体系民主社会主義 6〉文芸春秋、1月20日[『著作集』5収録]

日本は「拒否力」を持って『東西軍事力 ソ連脅威論の虚と実』毎日新聞社外信部編、築地書館、10月20日

解説 タテの紀行文「炎は流れる」—はじめもなければ終わりもない—『炎は流れる 4 明治と昭和の谷間—幕末の人間像』〈大宅壮一全集 27〉蒼洋社、12月25日

From Utopian Pacifism to Utopian Militarism, Tadae Takubo et al., *Japan's defense debate*, Foreign Press Center[Rev. ed., 1986][「空想的平和主義から空想的軍国主義へ」(『中央公論』95-11、1980年9月1日)の英訳]

1982 (昭和 57) 年

蠟山先生と新制大学『追想の蠟山政道』蠟山政道追想集刊行会、5月15日

日本防衛の緊急課題—まえがきにかえて『日本の安全保障と防衛への緊急提言』[共編]〈21世紀の日本学〉講談社、6月15日

戦争と平和『道 昭和の一人—話集 4』上山義雄編、中統教育図書、9月23日

1983 (昭和 58) 年

今上天皇 国民統合の立憲君主『新生日本の立役者』〈日本のリーダー14〉ティビーエス・ブリタニカ、4

月 25 日[『著作集』4 収録]

1984 (昭和 59) 年

ワンマン宰相吉田茂『昭和史 14 講和・独立』毎日新聞社、10 月 30 日

1985 (昭和 60) 年

二十世紀の遺産と教訓—価値、伝統および環境の破壊『二十世紀の遺産』永井陽之助編、文芸春秋、11 月 25 日

1989 (昭和 64) 年

御挨拶『(財)平和・安全保障研究所創立 10 周年記念講演』<RIPS 特別報告 1>平和・安全保障研究所、2 月

1993 (平成 5) 年

昭和二十九年、イタリアとドイツでの辻君『回想の辻清明』辻清明追想集刊行会編、中央公論事業出版、6 月 30 日

1996 (平成 8) 年

衛藤瀋吉さんのこと『改訂増補版』衛藤瀋吉先生 人と業績』東方書店、8 月 31 日

1998 (平成 10) 年

丸山眞男と私『丸山眞男座談 月報 5』岩波書店、8 月

1999 (平成 11) 年

ヒトラー独裁の政治過程(一九三三—一九三八)『京都大学法学部創立百周年記念論文集 第 1 巻 基礎法学・政治学』京都大学法学部百周年記念論文集刊行委員会編、有斐閣、2 月 28 日[『独裁の政治思想[三訂版]』収録]

2001 (平成 13) 年

まえがき『黙っちゃおれん』小西俊博著、文芸社、12 月 15 日

2005 (平成 17) 年

序文『日本の将来を考える—混迷する日本への提言集—』[監修]日本の将来を考える会、3 月 3 日

Ⅲ. 論文・評論等（新聞・雑誌掲載）＜1668 篇＞

1940（昭和15）年

日本信託業の回顧『信託協会会報』14-1、2、2月28日、4月30日
生産力拡充政策の発展『信託協会会報』14-3、4、6月30日、8月25日
投資信託の一考察『信託協会会報』14-6、12月24日

1941（昭和16）年

独逸戦争経済の基柱『信託協会会報』15-1、2、2月28日、4月30日
生産力拡充政策の反省『統制経済』3-2、8月1日

1943（昭和18）年

中小工業政策の進路『中央公論』58-3、3月1日
現在中小工業は多すぎないか[「転廃業者とわれわれの共同使命」]『中央公論』58-4、4月1日
戦力増強への挺身隊[「転廃業者とわれわれの共同使命」]『中央公論』58-4、4月1日
米国造船業の概況[「特別調査」]『本邦財界情勢』181、9月25日

1944（昭和19）年

米国の軍需生産[「特別調査」]『本邦財界情勢』189、6月13日
米英独ソの戦争経済政策[「特別調査」]『本邦財界情勢』192、193、9月13日、10月13日

1947（昭和22）年

私たちの新憲法『白鳥』1-1、1月1日
教育の混迷—民主主義への道—『生活教育研究』2、12月10日

1948（昭和23）年

創立趣意書『社会思想研究会月報』1、9月10日[山田文雄・長尾春雄・木村健康・土屋清・石上良平・関嘉彦との連名]
戦闘的民主社会主義『社会思想研究会月報』3、11月25日[「戦闘的民主主義」と改題、『戦う社会民主主義』収録]
暴力・ファシズム・共産主義『中央公論』63-12、12月1日[『戦う社会民主主義』、中島岳志編『現代の反逆としての保守』＜リーディングス 戦後日本の思想水脈7＞(岩波書店、2017年)収録]

1949 (昭和 24) 年

- 松田智雄氏へ 今年こそ先輩達の呪縛を断て[松田智雄との往復書簡「新たなる思考の基盤 若き読者層を分析する」]『日本読書新聞』472、1月5日
- 命令なき服従『思索』20、3月1日[『戦う社会民主主義』収録]
- 堅持する実証的精神 “政治の脱皮”に不可欠の前提[蠟山政道著『日本における政治意識の諸様相』の書評]『日本読書新聞』483、3月23日
- 共産主義と社会の進化『経営者』3-4、4月1日
- 共産主義・反共産主義『思索』21、4月1日[『戦う社会民主主義』収録]
- 社会民主主義の使命と運命『中央公論』64-4、4月1日[『戦う社会民主主義』収録]
- 魂の自由を求めてーキリスト教と共産主義ー『婦人公論』33-4、4月1日[座談会：荒正人、赤岩榮、出隆]
- 革命期の知識階級ーその任務についてー『思索』22、5月1日[松田智雄との対談]
- 山本映佑著「風の子」[「このごろ出たよい本」]『少年少女』2-4、5月1日
- 社会党は右派を切つて真の労働党になれ！『社会思想研究会月報』9、5月25日[「社会党は労働党になれ」と改題、『戦う社会民主主義』収録]
- 共産主義・反共産主義『社会の動き』4-6、6月1日[『思索』21から転載]
- 共産主義のロシア的性格 ソ連とは思想が軍隊を持つ国だ 東羅馬の世界救済思想を継承す『講演』672、7月1日
- ドイツ共産党の悲劇ー現代史への試みー『知性』2-7、7月1日
- 戦争とマルキシズム『展望』43、7月1日[「戦争とマルクス主義」と改題、『戦う社会民主主義』収録]
- 共産主義の強制輸出『日本週報』126、7月1日
- 戦う社会民主主義ーオーストリア社会党に学ぶー『評論』34、7月1日[「戦うオーストリア社会党ーリンツ綱領に学ぶー」]と改題、『戦う社会民主主義』収録]
- 何を読むべきかー政治・経済・歴史・社会篇ー『婦人公論』34-7、7月1日[丸山真男との対談。『丸山真男座談 1946-1949年』(岩波書店、1998年)収録]
- 古典の熟読を[「学ぶべき読むべき」]『図書新聞』3、7月9日
- 社会民主主義の墮落『朝日評論』4-8、8月1日[『戦う社会民主主義』収録]
- 共産主義の真理と誤診ー小泉信三とヒストリカスー『思索』25、8月1日[『戦う社会民主主義』収録]
- 共産主義の暴力性『展望』44、8月1日[『戦う社会民主主義』、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)、『著作集』1収録]
- ロシアコンミュニズムの再検討『読書倶楽部』4-7、8月1日[山本新との対談]
- 誰がヒットラーをたすけたか？ー社会ファシズム論の帰結ー『表現』2-7、8月1日[『戦う社会民主主義』収録]
- ファシズムと共産主義『あさあけ』4-6、9月15日
- 現代社会における大衆『世紀』1-7、10月1日[鼎談：田中耕太郎、丸山真男][『丸山真男座談 1946-1949年』(岩波書店、1998年)、『丸山真男座談セレクション 上』<岩波現代文庫>(岩波書店、2014年)収録]

マルクスの場合[「人間をどう見たか」]『ニューエイジ』1・10、10月1日

暴力を生むもの『婦人公論』33・10、10月1日

四つの革命観 二十世紀に対決するもの[「特集 ロシア革命への回顧」]『学園新聞』145・146、11月7日

ファシズムの生態—ヒットラーが政権をとるまで—[講演要旨於新大阪学芸サロン]『夕刊新大阪』11月10～12日

1950（昭和25）年

民主政治の擁護[「綱領の研究」]『社会思想研究』2-1、1月15日

国際共産党『社会思想研究』2-2、2月15日

愛国と売国『文芸春秋』28-3、3月1日

キンゼイ報告「人間に於ける男性の性行為」について『中央公論』65-4、4月1日[合評会：飯島衛、島崎敏樹、日高六郎]

敵はなすべきことを教える[「私はこう考える 二つの立場 小泉 田中の新刊[小泉信三「私とマルクス主義」、田中耕太郎「共産主義と世界観」]について」]『図書新聞』39、4月5日

共産主義問答『改造』31-5、5月1日[『三つの共産主義』(養徳社、1951年)付録、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)収録]

日本民主化の可能性『社会思想研究』2-5～7、5月15日、6月15日、7月15日[討議：土屋清、関嘉彦、安藤英治、板垣与一、小原敬士、草薙正夫、長谷川松治、佐々木斐夫、矢田俊隆、愛川重義]

プロレタリア国際主義の変貌『社会思想研究』2-6、6月15日

*トロツキーの『裏切られた革命』—社会主義学派とマルクスとの対決点『自由国民』29、6月[トロツキー『裏切られた革命』と題して『マルクスに代る学説・二十集』(自由国民社、1950年11月10日)収録。一部を削除し「トロツキーとトロツキズム」と改題して『三つの共産主義』(養徳社、1951年)、増訂版『共産主義の系譜』(角川書店、1953年6月30日)、『著作集』1収録]

平和問答『人間』5-7、7月1日[『三つの共産主義』(養徳社、1951年)付録に収録]

ソヴェト民主主義とソヴェト全体主義『読売評論』2-7、7月1日

社会思想史『郵政』2-8～12、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日

R・フィッシャー スターリンとドイツ共産主義[書評]『日本政治学会年報 政治学』<1950年度日本政治学会年報>10月20日

亜流の革命論 教訓多い“戦争規格版”[H.ラスキ『現代革命の考察』の書評]『学園新聞』198・199、11月6日

恐るべき好戦主義『展望』60、12月1日

1951（昭和26）年

独裁と自由—ソヴェト・ロシアにおける—『思想』319、1月1日

スターリン—評伝—[「世界を動かす人々」]『中央公論』66-1、1月1日[『スターリン』(社会思想研究会出版部、1951年)、『スターリン・毛沢東・ネール』(要書房、1951年)収録]

架橋への努力 2つの世界を結ぶもの『日本読書新聞』574、1月1日

酒と民主主義『実践国語』2-12、3月1日

自由主義者シュトレゼマン—党派政策か国民協同体か—『世界』64、4月1日[『国際政治の展開』、『著作集』4収録]

赤色革命政策[「特集ソ連の世界政策」]『中央公論』66-4、4月1日

“学問の自由”に生きよ—迫る戦争の未然防止を—『学園新聞』600・601、5月14日

毛沢東と中国革命—竹内好「毛沢東評伝」を読む『人間』6-6、6月1日[『日本の方向』、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)収録]

反動問答 敗戦日本の運命『改造』32-8、7月1日[『日本の方向』、『戦後の政治』<現代教養全集23>(筑摩書房、1960年9月10日)、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)収録]

ロシヤ小史 キエフ公国よりソヴェトまで[「1章ソヴェト体制のはなし」]『自由国民』38<特集『講和の背後に迫るソヴェトの真相読本』>、8月20日

毛沢東とスターリン[「都論壇」]『都新聞』8月23日

敗戦国の講和問題『新大阪』8月28~30日

政治・法律[「付録 戦後教養文献解題」]『中央公論』66-10、10月1日[『現代教養文献解題』<現代教養文庫29 何を読むべきか 第1輯>(社会思想研究会出版部、1952年5月20日)収録]

内乱『中央公論』66-13、12月1日[『日本の方向』収録]

この数年間民主主義は日本において進歩しつつあるか『郵政』3-12、12月1日[『日本の方向』収録]

マーク・ゲインのニッポン日記[「読書」]『新大阪』12月21日

1952 (昭和27) 年

『反共十字軍』と『米英撃滅』—新春の不安—『新大阪』1月5日

大小説家になる夢[「一九五二年に実現したい“ゆめ”」]『学園新聞』633・634、1月14日

インテリの逃亡[「都論壇」]『都新聞』1月22日

日本・中国・ロシア『改造』33-3、2月1日[『日本の方向』収録]

政治法律『国鉄』[戦後教養文献改題特集号]36、2月29日

米ソ協調のカギはどこにあるか[2月15日講演要旨於京都商工会議所。文責在記者]『日本講演』4-6、3月15日[『日本の方向』収録「アメリカとソヴェトはどういうわけで協調できないのか」の講演要旨]

革命と道徳[「文明時評」]『群像』7-4、4月1日[『日本の方向』、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)収録]

日本の方向—民族主義と国際連帯主義—[「特集 日本の民族主義の方向」]『中央公論』67-4、4月1日[『日本の方向』収録]

革命と大学[「文明時評」]『群像』7-5、5月1日[『日本の方向』、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)収録]

アメリカ民主主義とソヴェト共産主義とに、いかに対処すべきか『理想』228、5月1日

平和論争の盲点『新大阪』5月9～11日[『日本の方向』収録]

私の愛国心『教育技術』7-3、6月1日[『日本の方向』、『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)、『著作集』5収録]

革命と暴力[「文明時評」]『群像』7-6、6月1日[『日本の方向』収録]

河合栄治郎全集刊行の辞[山田文雄、木村健康、土屋清、関嘉彦、外山茂との連名]『社会思想研究』4-5、6月15日

思想の争いは必ず戦争になるか『郵政』4-7、7月1日[『日本の方向』収録]

本格的と娯楽的と 好みと能力に合う高峰を目指せ[「私の読書案内」]『日本読書新聞』653、7月16日

革命問答『改造』33-11、8月1日[『日本の方向』収録]

ロシアにおける政治権力の崩壊と形成『日本政治学会年報 政治学』<1952年度日本政治学会年報>9月10日[「ロシアにおける政治権力の変革」と改題、『政治変動論』第2章収録]

政党は政権亡者の集り 議会以外に救い求める国民[「戦争と平和の岐路に立つ日本 総選挙特集」]『学園新聞』663・664、9月22日

まず政治意識の高揚 民主政治は青年の手で[「総選挙と青年の責任」]『神戸新聞[夕刊]』9月23日

ひとつとではない『地上』6-10、10月1日[『日本の方向』収録]

政治[「付録 教養文献解題」]『中央公論』67-11、10月1日[『最近の教養文献』<現代教養文庫 111 何を讀むべきか 第2輯>(社会思想研究会出版部、1954年)収録]

総選挙を顧みて 左派社会党の進出[「学芸」]『大阪毎日新聞』10月6日[『日本の方向』収録]

社会民主主義と国会の保守性『社会思想研究』4-8、10月15日[『日本の方向』収録]

政治と政党を切る『北海道新聞』10月23日[座談会：辻清明、尾形典男]

関嘉彦著現代国家における自由と革命ーラスキ研究入門[書評]『日本読書新聞』667、10月27日

就職する学生に与う『学園新聞』671・672、11月3日

観光京都が泣く[「都論壇」]『都新聞』12月5日

三度目の京都[「随想」]『京都新聞』12月28日

総合雑誌の一年間[「学芸」]『大阪毎日新聞』12月29日

ソビエトの外交[書評]『大阪読売新聞』12月30日

1953 (昭和28) 年

ソヴェト外交の二断面 世界革命と安全保障の両立『改造』34-1、1月1日

強国の底知れぬ愚かさ ヨーロッパに局限された作者の眼[ランドロフ・ロバン『さかさまの世界ーもしドイツが勝っていたらー』の書評]『日本読書新聞』676、1月1日

政治権力の変革過程『法学論叢』58-4、1月1日[『政治変動論』第1章、『独裁の政治思想』補論第1章収録]

議会主義に徹せよ 党員五百万人の実現へ[「わが国の社会主義政党」]『朝日新聞』1月9日

ソ連の世界政策『社会思想研究』5-1、1月15日

日本政治の動き[1月20日講演於大阪府立図書館、文責在記者]『日本講演』5-3、2月1日

のどもと過ぎれば熱さを忘れる『福音と世界』8-2、2月1日

ストライキは暴力か『理想』237、2月1日

尾上正男著『ソヴェートの外交政策』[「批評と紹介」]『季刊法律学』14、2月10日

すぐれた政治史だが伝記としては魅力に乏しい[アイザック・ドイッチャー『スターリン』の書評]『日本読書新聞』684、3月2日

巨人の死 レーニンとスターリン『日本読書新聞』686、3月16日

君子豹変するなかれ 堅持して欲しい改革の理想[「特集 卒業する人々へ」]『学園新聞』686、3月23日

スターリンなきロシア『中央公論』68-4、4月1日[『増訂版 共産主義の系譜』(角川書店、1953年)第6章「スターリンとスターリン主義」の「付」に収録]

私生活を描く「叔父スターリン」「同土愛にみちたスターリン」[ヤロスラウスキー『スターリン』、ブドウ・スワニーゼ『叔父スターリン』の書評]『日本読書新聞』691、4月20日

革新政権実現遠からず[「総選挙の結果をこう思う」]『学園新聞』692、4月27日

総選挙問答『改造』34-6、5月1日

ソ連の内政『社会思想研究』5-5、5月15日

書評『社会思想研究』5-6、6月15日

戦後日本の政治過程一年報政治学 1953年特集[書評]『東京大学新聞』158、6月15日

ソ連を見る眼『改造』[「自由の眼は語る 改造臨時増刊」]34-9、6月25日[『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』(東京創元社、1954年)収録]

J・リシヤール・ブロック 共産主義の人間スターリン[書評]『日本読書新聞』703、7月13日

共産主義と共産主義運動について—共産主義運動の性格—『現代人』1-7、8月1日

知識人の場合[「戦争から何を学んだか」]『芽』8、8月1日[座談会：鶴見俊輔、武谷三男。『戦争とは何だろうか』<鶴見俊輔座談 7>(晶文社、1996年)収録]

E・H・カー著清水幾太郎訳『新しい社会』[書評]『図書』47、8月5日

独裁の心理と論理—恐怖心の連鎖反応—『日本週報』255、8月5日[「ベリヤ事件に思う(I)—独裁の心理と論理—」と改題、『国際政治の展開』収録]

学生の選挙権を奪うな 自治庁のバカげた通達『朝日新聞』8月19日

ベリヤ事件に思う それでも平和攻勢は変わらない!『改造』34-11、9月1日[「ベリヤ事件に思う(II)—それでも平和攻勢は変わらない!—」と改題、『国際政治の展開』収録]

共産主義と共産主義運動について—共産主義思想の要素—『現代人』1-8、9月1日

社民主義と社会主義革命—マルクス主義との相違点—[「学芸」]『中央大学新聞』366、9月10日

政治[「教養文献解題」]『中央公論』68-11、10月1日[『最近の教養文献』<現代教養文庫 111 何を読むべきか 第2輯>(社会思想研究会出版部、1954年)収録]

回顧録に拓く独自の領域 ノーベル文学賞に輝くチャーチルの著作『[大阪]毎日新聞』10月17日

マルクス主義との対決 完全なドイツ・マニアとなる[「私の読書遍歴」]『日本読書新聞』720、11月9日

1954 (昭和 29) 年

- ヒットラア・ドイツにおける抵抗運動の一考察『法学論叢』60-1・2、5月1日[『国際政治の展開』収録]
英国議会の傍聴する『毎日新聞』7月7日[「イギリス議会の傍聴する」と改題、『人間尊重のために』収録]
ヨーロッパ便り『郵政』6-8~10、8月1日、9月1日、10月1日[『人間尊重のために』収録]
西ドイツの学生生活『学園新聞』777、11月1日[『人間尊重のために』収録]
欧州と日本の間 独・英遊学記『改造』35-12、12月1日[「私が会った学者たち」と改題、『人間尊重のために』収録]
今後の政治に何を望む？—各界の識者にきく—『[大阪]朝日新聞』12月8日[座談会：中野正永、東谷敏雄、田中俊介、村山リウ]
左へゆれた浮動票 革新勢力進出の背景とその限界[「論壇」]『朝日新聞』12月14日
内閣更迭と今後の政局『京都新聞』12月14日

1955 (昭和 30) 年

- ドイツ社会民主党はなぜ弱いか『中央公論』70-1、1月1日
敗戦ドイツ女性の恋愛と結婚『婦人公論』40-1、1月1日
高く評価さるべき史観 正しい意味の『マルクス主義批判』[「林健太郎著『明日への歴史』をめぐって」]『図書新聞』279、1月15日
共産党の戦術転換[「論壇」]『[大阪]朝日新聞』1月22日[『政治学新講』「付録」収録]
ソ連と日本—修交に独自の自立体制を—[「中日評論」]『中部日本新聞』1月31日
何がアメリカを政治的に強くしているか—アメリカの国内政治について—『現代人』3-1、1955. 2月1日[座談会：ルドニー・モット、大石義雄、須貝修一、井伊亞夫]
ドイツ社会民主党から学ぶもの—世界観とマルクス主義—『民主社会主義』22、2月1日[『人間尊重のために—西欧に学ぶもの—』収録]
平和攻勢も限界か[「マレンコフ辞任」]『[大阪]読売新聞』2月9日
民主政治の前途に光明あり—革新勢力の着実な成長—[「論壇」]『[大阪]朝日新聞』3月1日[『政治学新講』「付録」収録]
日本再建と民主主義『経営者』9-3、3月1日
国家理論の水準示す[グレーゼルマン『ソヴェト社会主義国家』、前芝鶴三『ソヴェトの政治』の書評]『日本読書新聞』787、3月7日
ヨーロッパにおける東西の対立『社会思想研究』7-3、5、6、3月15日、5月15日、6月15日[『人間尊重のために—西欧に学ぶもの—』収録]
日ソ交渉の問題点[「時評」]『[大阪]読売新聞』3月24日[『国際政治の展開』収録]
苦もんする保守政党『京都新聞』3月25~27日[『政治学新講』「付録」に収録]
ヨーロッパにおける保守と革新『郵政』7-4、4月1日[『人間尊重のために』収録]
チャーチルの消えた世界[「時評」]『[大阪]読売新聞』4月7日[『国際政治の展開』収録]

日本における社会主義の将来『社会思想研究』7-4、6、4月15日、6月15日[座談会：音田正巳、関嘉彦、土屋清、長尾春雄、山田文雄]

超反動勢力の基盤と革新勢力の活路 日本における保守と革新『知性』2-5、5月1日[「日本における保守と革新」と改題、『日本の二大政党』(法律文化社、1956年)収録]

平和共存の思想的基盤[「時評」]『[大阪]読売新聞』5月6日[『国際政治の展開』収録]

中立化を推進するソ連外交[「時評」]『[大阪]読売新聞』5月17日[『国際政治の展開』収録]

保守合同と社会党の統一『京都新聞』5月23日

英労働党の敗因とその将来[「時評」]『[大阪]読売新聞』5月28日[『国際政治の展開』収録]

西ドイツ[「最近の政治学の動向」]『机』6-6、6月1日

ソ連とユーゴ[「論壇」]『[大阪]朝日新聞』6月3日[『国際政治の展開』収録]

日本中立化は問題となるか[「時評」]『[大阪]読売新聞』6月7日[『国際政治の展開』収録]

ソ連の平和戦略『京都新聞』6月13～17日[座談会：前芝確三、田畑茂次郎]

日ソ交渉と思想文化『東京新聞』6月22、23日

ソ連の平和攻勢『講演時報』799、6月25日[座談会：前芝確三、田畑茂次郎]

自動車地獄[「随筆随想」]『新大阪』6月27日

マルクス主義と暴力『世界』115、7月1日[『国際政治の展開』]

巨頭会談とドイツの将来『[大阪]読売新聞』7月17日[『国際政治の展開』収録]

建設にうちこんだ四十年—ソ連の生い立ち—『法政』4-8、8月1日

野坂氏が責任とる？[「巧みな演出 平和劇 日共三幹部の出現」]『[大阪]読売新聞』8月12日

強硬な対ソ平和条約草案[「時評」]『[大阪]読売新聞』8月13日[『国際政治の展開』収録]

巨頭会談後の世界『社会思想研究』7-8、8月15日[『国際政治の展開』収録]

日本共産党どこへ行く—余りにも日本人的—[「時評」]『[大阪]読売新聞』8月20日[『政治学新講』「付録」、『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

教養文献解説 社会『郵政』7-9、9月1日

日韓関係打開の道『大阪新聞』9月10日[『国際政治の展開』収録]

ソ連・西独会談の成果[「時評」]『[大阪]読売新聞』9月15日[『国際政治の展開』収録]

オーストリア社会党に学ぶ—その組織と綱領—『社会思想研究』7-9、8-1、9月15日、1956年1月15日

統一社会党の綱領草案を見て[「論壇」]『[大阪]朝日新聞』9月19日[『政治学新講』「付録」に収録]

統一社会党に望む『民主社会主義』30、10月1日[「統一社会党に注文する」と改題、『政治学新講』「付録」に収録]

独ソ関係の根は深い[「世界の動き」]『京都新聞[夕刊]』10月1、3日[『国際政治の展開』収録]

共産主義と宗教『中外日報』10月2日

アルジェリア問題の意味するもの 皮肉な西欧帝国主義の敗退[「時評」]『[大阪]読売新聞』10月6日[『国

際政治の展開』収録]

民主主義を防衛せよ 憲法擁護を第一義に[「統一社会党に望む」]『[大阪]朝日新聞』10月12日(憲法擁護を第一義に[「統一社会党に望む」]『朝日新聞』10月12日)[「統一社会党に望む」と改題、『政治学新講』「付録」収録。「統一社会党に与う」と改題、『新訂 政治学新講』収録]

[「統一社会党に何を望むか」]『社会思想研究』7-10、10月15日

社会党の統一を繞って『社会思想研究』7-10、10月15日[9月26日座談会：伊藤好道、河野密、土屋清、武藤光朗、関嘉彦]

比較政治史的に考察[H・セイトン・ワッソン『近代共産主義運動史』の書評]『日本読書新聞』821、10月31日

河合栄治郎ー民主主義的社會主義の先覚者『中央公論』70-11、11月1日[「河合栄治郎ー民主的社會主義の先覚者」と改題、『民主的社會主義のために』収録。「河合栄治郎」と題して、荒正人編『近代日本の良心』(光書房、1959年)収録]

新保守党論[「時評」]『[大阪]読売新聞』11月14日(民族の長所を守れー保守新党に望むー『読売新聞』11月14日)[「政治学新講」「付録」、『新訂政治学新講』「付録」に収録]

二大政党制に望む『京都新聞』11月18日[「政治学新講」「付録」、『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

[「アンケート」]『文学』23-12、12月10日

1956 (昭和 31) 年

1956年[「随筆随想」]『新大阪』1月8日

米ソ両国の政治的神話を分析[山本新『現代の政治的神話』の書評]『日本読書新聞』830、1月9日

ブルガーニンの対米友好条約提案 ソ連の国論統一がねらい[「時評」]『[大阪]読売新聞』1月31日[『国際政治の展開』収録]

岡義武著「国際政治史」[「書評」]『思想』380、2月1日

ドイツ及びオーストリアの社会党に学ぶ『社会思想研究』8-2、2月15日

フルシチョフ報告を読んで 自信を強めたソ連首脳部[「時評」]『[大阪]読売新聞』2月15日[『国際政治の展開』収録]

変容するソ連 ミコヤン演説の意義『京都新聞』2月20日[『国際政治の展開』収録]

ミコヤン演説 振捨てられた“重荷” [「ソ連両首脳演説の意味」]『[大阪]読売新聞』2月20日[「ソ連両首脳演説の意味」と改題、『国際政治の展開』収録]

危機をはらむ二大政党対立『中央公論』71-3、3月1日[座談会：辻清明、中村哲]『日本の二大政党』(法律文化社、1956年)収録]

貧困からの解放ー東洋に於ける自由ー『法政』5-3、3月1日

スターリン主義の崩壊とソ連の新路線ーソ連共産党第二十回大会をかえりみてー『社会思想研究』8-3、3月15日

評伝チトー『中央公論』71-4、4月1日[「チトー」と改題、『国際政治の展開』(有信堂、1956年10月25日)、竹内好編『世界の七つの顔』(拓文館、1957年4月10日)、『変貌する世界』<現代教養全集25>(筑摩書房、1960年11月15日)収録。「チトーとチトー主義」と改題して『増訂新版 共産主義の系譜』

第7章、『著作集』3収録]

政治権力と社会階級『法学論叢』62-1、4月1日[『独裁の政治思想』補論第3章、『著作集』2収録]

対ソ外交の再検討[「時評」]『[大阪]読売新聞』4月2日[『国際政治の展開』収録]

ソ連は民主化されるか 条件は国の内外にそろっている[「月曜評論」]『中部日本新聞』4月9日[『国際政治の展開』収録]

最近の国際情勢について『なにわ』4月9日

共産主義の発展不均等—コミンフォルムの解散—[「時評」]『[大阪]読売新聞』4月19日[「コミンフォルムの解散」と改題、『国際政治の展開』収録]

英ソ会談・成果は今後[「時評」]『[大阪]読売新聞』4月29日[『国際政治の展開』収録]

真の主権者として成長するために[「憲法記念日所感 教師におくる言葉」]『教育技術』11-2、5月1日

問題は何か—フルシチョフ・ミコヤンの発言をめぐる—『世界』125、5月1日[座談会：前芝確三、小椋広勝、野々村一雄、岡倉古志郎]

敗戦デモクラシーの運命『中央公論』71-5、5月1日

民主的社会主義の明日の展望『民主社会主義』37、5月1日[座談会：音田正巳、山崎宗太郎、永末英一]

平和的共存の限界『郵政』8-5、5月1日

日ソ国交の新展開 漁業条約調印の後に来るもの『講演時報』833、5月23日[座談会：前芝確三、田畑茂二郎、岡倉古志郎]

国民感情と日ソ交渉『学園新聞』859、5月24日

世界の共産主義と日本の共産主義—日本は共産主義の適地か—『知性』3-7、6月1日[「共産主義の発展不均等—その適地と不適地—」と改題、『国際政治の展開』収録]

ドイツ式考え方『PHP』98、6月1日

にじみ出る愛情—イギリス的な最良の伝記[E.H.カー『カール・マルクス』の書評]『日本読書新聞』852、6月11日

社会主義と政治権力『社会思想研究』8-6、6月15日

ソ連の政策転換と小選挙区制について『社会思想研究』8-6、6月15日[座談会：音田正巳、木村健康、関嘉彦、山田文雄]

二院制と二大政党[「参院選挙の問題点」]『[大阪]読売新聞』6月18日[『政治学新講』・『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

選挙と政治『講演時報』838、7月1日[対談：金森徳次郎]

日本の平和革命論[「時評」]『[大阪]読売新聞』7月3日[『政治学新講』「付録」に収録]

日本における社会民主主義と共産主義『世界』128、8月1日[座談会：伊藤好道、岡田春夫、志賀義雄、清水慎三]

日本の外交に望む『中央公論』71-8、8月1日[『国際政治の展開』]

動態的把握を試む 多分野の成果を立体的に総合[石田雄『近代日本政治機構の研究』の書評]『日本読書新聞』860、8月6日

『独仏年誌』四論文 青年マルクス、エンゲルスの気魄[「わたくしの古典」]『日本読書新聞』861、8月13

日

個人臆拝とマルクス・レーニン主義『中央公論』71-9、8月15日[「マルクス・レーニン主義と個人臆拝」と改題、『国際政治の展開』]

ソ連はなぜ強引に出るか?『大阪読売新聞』8月15日

スターリン批判後の共産主義世界『婦人公論』41-9、9月1日[『国際政治の展開』収録]

社会[「教養文献解説 この一年間の新刊書をどう読むべきか」]『郵政』8-9、9月1日

[「アンケート 日ソ交渉いかにふみ切るか」]『新政経』82、10月1日

米の極東外交『京都新聞』10月11、12日[座談会：田畑茂次郎、須貝修一]

平和的競争と日本[「日本の課題」]『朝日新聞』10月16日

人間虐待[「随想」]『京都新聞』10月19日

西洋の古典に親しめ[「若き日の読書」]『京都新聞』10月30日

東欧の政変とその背景『エコノミスト』34-45、11月10日

チトー・ゴムルカ主義の将来『東京大学新聞』278・279、11月15日

東欧反乱の背景[「世界は動く」]『新政経』84、12月1日[『民主的社会主義のために』収録]

中国はソ連とどう違うか『中央公論』71-12、12月1日[討議：中西功、本橋渥、宍戸寛]

野心的な労作 篠原一『ドイツ革命史序説』[書評]『図書新聞』376、12月1日

世界を動かす実力者『週刊読売』15-52、12月2日[座談会：大宅壮一、蠟山芳郎、嬉野満州雄、金久保編集部長]

現代史の一つの鍵 マルクスレーニン主義+アルファの秘密[貝塚茂樹『毛沢東伝』の書評]『日本読書新聞』879、12月17日

1957 (昭和32) 年

変貌する二つの世界『経営者』11-1、1月1日

味覚ノート『公済時報』8-1、1月1日

チトー 民族共産主義の英雄『知性』4-1、1月1日

共産主義独裁の問題性—東欧の動乱について私はこう思う—『法政』6-1、1月1日

国連連盟と日本の進路『講演時報』863、1月8日[座談会：田畑茂二郎、ロバート・ワード]

混沌たる世界情勢と日本の立場『社会思想研究』9-1、1月15日[座談会：木村健康、関嘉彦、土屋清、三宅正也、山田文雄]

協同の倫理と個人の倫理[「庶民の倫理」]『キング』33-2、2月1日

日本社会党に期待する『中央公論』72-2、2月1日

かけがえのない人間の生命の無視[「国際情勢の核心をつく三つの争点 第一問 共産主義政治におけるヒューマニズムについて」]『婦人公論』42-2、2月1日[『民主的社会主義のために』収録]

誇りうる独創的な業績 丸山真男著『現代政治の思想と行動』上巻[「読書展望」]『中央公論』72-3、3月1

日

マルクス主義と大衆意識『年報政治学 1957 国家体制と階級意識』3月20日[「マルクス革命・独裁理論の修正—マルクス主義と大衆意識—」と改題、『独裁の政治思想』第4章、『著作集』2収録]

日本的虚栄心の根—内面倫理と外面倫理—『キング』33-4、4月1日

中国問題の調整 岸首相の訪米に望む[「時評」]『読売新聞』4月6日

プロレタリア独裁反対にプラス 処女作『ロシア革命史』[「私の著作」]『学園新聞』882、4月12日

民主的社會主義の二問題『社会思想研究』9-4、4月15日 [『民主的社會主義のために』収録]

*赤貝と香落『季刊真珠』22、4月

擬似社會主義と真性社會主義『群像』12-5、5月1日

現実的な良識—回答を読んで—[「岸首相訪米に期待するもの アンケート」へ回答の総評]『新政経』89、5月1日

高校社会科「社会」教育の問題点『社会思想研究』9-5、5月15日[座談会：塩尻公明、木村健康、松本俊雄、朝倉義雄、柿本健一郎、音田正巳]

国際政治の底流[講演要旨]『新政経』90、6月1日

人生あれこれ『社会思想研究』9-6、6月15日[4月30日座談会於東京神田学生会館：土屋清、木村健康、山田文雄、関嘉彦、音田正巳、江上照彦]

地球は広い[「石筆」]『東京新聞』7月7日

ノルウェー労働党[「石筆」]『東京新聞』7月14日

福祉国家とアル中患者[「石筆」]『東京新聞』7月21日

ソ連政変と西独総選挙『[大阪]読売新聞』7月25、26、28日[25日付「恐怖の満場一致 少数派にない言論の自由」を『民主的社會主義のために』収録]

自由化か全体化か—ソビエトの変化をめぐる論争—『読売新聞[夕刊]』7月26日

インテリの阿片[「石筆」]『東京新聞』7月28日 [『民主的社會主義のために』収録]

世界は注目している[「石筆」]『東京新聞』8月4日

戦線を統一して新理論を[「大会を顧みて」]『[大阪]毎日新聞』8月7日(労働者の成長示す[「総評大会を顧みて」]『毎日新聞』8月7日)[「総評大会批判」と改題『民主的社會主義のために』収録]

サービス過剰[「石筆」]『東京新聞』8月11日

「ソ連社会の変化」について イギリスにおけるソ連研究会議に出席して[7月30日講演要旨於日本文化自由会議]『社会思想研究』9-8、8月15日

知識人の今後の課題『東京新聞[夕刊]』8月15～17日

日本の宿[「石筆」]『東京新聞』8月18日

ビールの味[「石筆」]『東京新聞』8月25日

ヨーロッパから見たソ連と中国—ソ連研究会議に出席して—『中央公論』72-11、9月1日 [『民主的社會主義のために』収録]

ドイツの総選挙[「石筆」]『東京新聞』9月1日

人種と民族[「石筆」]『東京新聞』9月8日[『民主的社會主義のために』収録]
アメリカの黒人問題[「石筆」]『東京新聞』9月15日[『民主的社會主義のために』収録]
国民性について[「石筆」]『東京新聞』9月22日
コロンビア大学[「石筆」]『東京新聞』9月29日
経済学と政治学『経済セミナー』8、10月1日
乱学事始『中央公論』72-12、10月1日[座談会：大宅壮一、高木健夫、中屋健一]
ソ連の現実をどう考えるか『文芸春秋』35-10、10月1日[座談会：松田道雄]
国連総会を傍聴する『京都新聞[夕刊]』10月6、7日[『民主的社會主義のために』収録]
ボストン便り『京都新聞[夕刊]』10月8日[『民主的社會主義のために』収録]
フルシチョフ路線の形成過程とその矛盾『外交季刊』2-4、10月10日
ミシガン、イリノイ両大学を訪ねて[「アメリカ通信」]『京都新聞[夕刊]』11月4日[『民主的社會主義のために』収録]
アーマスト大学を訪ねて『東京新聞[夕刊]』11月15、16日[「徹底した人格教育—アーマスト大学を訪ねて」と改題、『民主的社會主義のために』収録]
人工衛星と米ソの新路線『京都新聞[夕刊]』11月18、20～24日[座談会：前芝確三]
マルクス主義の理論と現実—十二ヵ国共産党の共同宣言を読んで—『朝日新聞』12月2日[『民主的社會主義のために』収録]
国際政治論の貧しさ 新年号のなかで光る辻清明氏の論文[「論壇時評」]『読売新聞[夕刊]』12月19日
米外交の転換を期待 NATO 声名とグロムイコ演説を読んで[「時評」]『[大阪]読売新聞』12月23日[『民主的社會主義のために』収録]

1958（昭和33）年

人工衛星の描く波紋『新政経』96、1月1日[インタビュー]
米ソのリーダーシップ シーソーゲームの連続か[「特集 米ソ対決の新展開 政治」]『エコノミスト』36-1、1月4日[『民主的社會主義のために』収録]
[「解散いつがよいか 本社アンケート」]『読売新聞』1月6日
騒音の悩み解消 道にゆったり牛車[「科学者の初夢 京都」]『京都新聞[夕刊]』1月11日
社会主義の再検討 印象的な林健太郎と原子林二郎の論文[「論壇時評」]『読売新聞[夕刊]』1月16日
今年のソ連—ホンモノの社会主義への道はけわしい[「学芸」]『[大阪]朝日新聞』1月28日[『民主的社會主義のために』収録]
面白いダレス演説 巨頭会談の特集二つは突込み不足[「論壇時評」]『読売新聞[夕刊]』2月17日
社会党大会に注文する 政権受入れ体制確立せよ『[大阪]朝日新聞』2月23日(社会党大会にのぞむ 政権受入れ体制整えよ『朝日新聞』2月23日)[「社会党大会批判」と改題『民主的社會主義のために』収録]
日本デモクラシイの運命をかけて—来るべき総選挙の意味—『世界』147、3月1日[『民主的社會主義のために』収録]

立ちすくむ日本外交 打開の道は中国にある[「時評」]『読売新聞』3月2日[『民主的社会主義のために』収録]

オールブラックスの強さ[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』3月3日

修道院で過ごした二日間 セントルイス 『東京新聞[夕刊]』3月6日[『民主的社会主義のために』収録]

鉢巻はやめよう[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』3月10日

世代の交代[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』3月17日

光る“世界旅行記”(松本重治)[「論壇時評」]『読売新聞[夕刊]』3月17日

昔は軍隊、いまは総評[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』3月24日

フルシチョフ独裁『[大阪]読売新聞[夕刊]』3月28日[『民主的社会主義のために』収録]

昔は軍部、今は日経連[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』3月31日

ソ連との協定は無意味か一日ソ中立条約をふりかえって[「ソ連不信問題をめぐって」]『世界』148、4月1日[『民主的社会主義のために』収録]

独裁の概念『法学論叢』64-1、4月1日[『独裁の政治思想』第1章、『著作集』2収録]

花見のけんか[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』4月7日

フルシチョフ独裁の前途[「私の意見」]『毎日新聞』4月9日

楽しい花見[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』4月14日

独裁の論理『社会思想研究』10-4、4月15日

5月の総合雑誌から 注目すべき久野の日本型保守主義批判[「論壇時評」]『読売新聞[夕刊]』4月17日

自由な総選挙[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』4月21日

今総選挙の意義『京都新聞』4月28日[「今総選挙の意義」と改題『議会政治を守るために』収録]

次悪から次善へ[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』4月28日

一・五大政党から二大政党へ 総選挙の意義[「時評」]『[大阪]読売新聞』4月30日[『議会政治を守るために』収録]

フルシチョフ新体制と頂上会談[4月7日報告於民社連思想委員会]『民主社会主義』61、5月1日

憲法改正案の思想 世界の歴史に学ぶ能力のない改憲論『平和と民主主義』172、5月3日

右翼の身辺録的反省の書[津久井龍雄『私の昭和史』の書評]『日本読書新聞』950、5月12日[「私の昭和史」を読んで 公式的でない客観性も」と題して『国論』6-5、6月1日に転載]

不可解な学生スト[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』5月12日

社会科社会をめぐる問題点『社会思想研究』10-5、5月15日[座談会：関嘉彦、音田正巳、木村茂夫、松本俊雄、山下重一]

一・五大政党から二大政党へ[「政治時評」]『社会思想研究』10-5、5月15日

集団サギを防止しよう[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』5月19日

選挙の好論文そろそろ六月号の総合雑誌から―[「論壇時評」]『読売新聞[夕刊]』5月19日

なぜ社会党は足ぶみしたか『[大阪]産業経済新聞』5月24日[『議会政治を守るために』収録]

中選挙区制は素晴らしい[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』5月26日

フルシチョフとスターリンとはどこが違うか『婦人公論』43-6、6月1日[「フルシチョフとスターリン」と改題『増補版 共産主義の系譜』、『著作集』3収録]

新内閣に望む『[大阪]毎日新聞[夕刊]』6月13日(知識人を敵にするな—岸内閣への期待—『毎日新聞』6月14日)[『主要新聞社説集と時事論文』(竜南書房、1958年8月)、「新自民党内閣に望む」と改題『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

社会党に与う—三分の一の壁を突破するために[「時評」]『社会思想研究』10-6、6月15日

ナジ処刑の思想的意義 教条のサビを落とせ 社会主義と資本主義の再検討を[「社会科学」]『週刊読書人』232、7月7日

敵失でかせぐソ連外交—米外交の奮起を望む—[「私の意見」]『毎日新聞』7月23日

チトー主義の問題性—ソ連はなぜユーゴの「修正主義」を弾劾するか—『世界』152、8月1日

国連緊急総会と日本 あくまで正論をはけ[「山陽時評」]『山陽新聞』8月11日

米英の中東政策[「政治時評」]『社会思想研究』10-8、8月15日

アイザック・ドイッチャー著変貌するソヴェト 自信に満ちた分析 水準の高い示唆的な研究『週刊読書人』240、9月8日

勤評闘争を現地に見て 福岡『読売新聞』9月15日

議会政治と社会主義政党[6月21日法学会総会記念講演、「法学会記事」中]『立命館法学』26、9月30日

社会[「教養文献解説—この一年間に市販された良書の手引き—」]『郵政』10-10、10月1日

政治評論のあるべき姿 これまでの型の盲点と弱点をつく 藤原弘達著保守独裁論『週刊読書人』245、10月13日

われわれの運命をわれわれの手へ—米中紛争と日本の立場—『世界』155、11月1日

民主主義の再検討—どうすれば実力行使はなくなるか?—[講演要旨]『日本講演』10-28、11月1日

世論に耳を傾けよ[「変則国会を救う道」]『北海タイムズ』11月1日

民主主義の再検討『社会思想研究』10-11、12、11月15日、12月15日

日本社会党の進路—反対党から統治党へ—『全労』5、11月15日

1959 (昭和 34) 年

政党の公約 “静観”ではすまされぬ日中関係『大阪新聞』1月1日[『議会政治を守るために』収録]

法と政治—ワイマル憲法の場合—『ジュリスト』169、1月1日

59年 “時のすがた”『[大阪]読売新聞』1月1日[座談会：四宮恭二、伊吹武彦]

二大政党党首論『朝日新聞』1月3日[『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

国際政局から見た一九五九年 “日本の運命”『週刊読売』18-1、1月4日

政治[「特集 日本の焦点 1959年」]『[大阪]毎日新聞』1月10日

外交[「特集 日本の焦点 1959年」]『[大阪]毎日新聞』1月10日

1959年の日本の課題『学園新聞』959、1月12日

社会党の理論闘争 蟻山・向坂両論文を読んで[「時評」]『[大阪]読売新聞』1月17日[『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

社会党の進む道 階級的国民政党か院内団体か[「私の意見」]『[大阪]毎日新聞』1月21日[『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

自民党に望む—新総裁を選び直せ—『[大阪]毎日新聞』1月27日(総裁公選制の再検討を—世論と遊離した「岸再選」)[「私の意見」]『毎日新聞』1月27日[『新訂 政治学新講』「付録」に収録]

*世界の動きと日本『[島根大学教育学部]同窓会誌』9、1月[『文化講演集』(島根大学教育学部同窓会編・刊、1988年)収録]

権力への責任—共和国崩壊と社民党の立場—『思想の科学[第4次]』2、2月1日[「権力への責任—ワイマール共和国の崩壊と社会民主党の立場」と改題、『民主的社会主義』収録]

内外の政治情勢『なにわ』2月1日

一九五九年の世界と日本—東西両陣営の関係—『外交時報』959、2月10日

日本の中立—その現実性と可能性—『世界』160、4月1日[座談会：都留重人、入江啓四郎、小幡操、久野収]

大学生 成績 合格答案が少ない『学園新聞』968、4月20日

改定をかさねて廃棄へ[「安保条約改定砂川判決 どう思うか 京大教官に聞く」]『学園新聞』969、4月27日

日本の外交について イデオロギーからの解放『朝日新聞』5月1日

[「私の関西案内」]『婦人之友』53-5、5月1日

地方選挙から参議院選挙へ『中部日本新聞』5月12日[『議会政治を守るために』収録]

学生生活の向上を[「京大明日への指針」]『学園新聞』972、5月18日

独裁の政治思想『法学論叢』65-3、6月1日[「独裁の政治思想」第2章、『著作集』2収録]

足ぶみする社会党『京都新聞』6月4日[『議会政治を守るために』収録]

*自民党に望む『産業経済新聞』6月5日[『議会政治を守るために』収録、ただし掲載を確認できない]

社会党に直言する[「焦点」]『河北新報』6月18日[『議会政治を守るために』収録]

社会党に直言する[「山陽時評」]『山陽新聞』6月18日

統治の責任を担う政党へ[「三分の一の壁をどう破るか」]『月刊社会党』25、7月1日

すべてがグラグラしている 臨時国会と社党性格論争[「時評」]『[大阪]読売新聞』7月5日[「臨時国会・社党性格論争—何もかもグラグラしている—」と改題『議会政治を守るために』収録]

家永三郎・丸山真男ほか共編の近代日本思想史講座[「書評」]『読売新聞[夕刊]』7月23日

南原繁著フィヒテの政治哲学 政治理論の自己主張『週刊読書人』285、7月27日

安保改定の問題と社会党『社会思想研究』11-8、8月15日

全学連のあり方 解けぬ 二つの疑問 その精神病理について[「意見と異見」]『読売新聞[夕刊]』8月26日

全学連のあり方 「科学」の盲信[「意見と異見」]『読売新聞[夕刊]』9月8日

統治能力ある反対党へ 社会党大会に望む『東京新聞』9月12日[『議会政治を守るために』収録]

向坂理論は孤立化への道[「時評」]『[大阪]読売新聞』9月13日[『議会政治を守るために』、『著作集』2収録]

社会党大会をみて『京都新聞』9月16日[『議会政治を守るために』収録]

リーダーシップを欠く鈴木委員長と浅沼書記長[「西尾新党をどう見る」]『産経新聞』9月16日[「社会党大会を見てー鈴木・浅沼両氏は完全失格ー」と改題『議会政治を守るために』収録]

学問と政治との関係 正常化への傾向を示す[『ソ連邦共産党史』の書評]『図書新聞』519、9月19日

社会[「教養文献解説ーこの一年間に出版された良書の手引きー」]『郵政』11-10、10月1日

リーダーシップ[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月3日

国際政治の衝撃と日本の政治 イデオロギーで割り切る悪いくせ[「時評」]『[大阪]読売新聞』10月4日

日本の民主主義『神戸新聞』10月10日[『議会政治を守るために』収録]

社会党の派閥争い[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月10日

フルシチョフの矛盾ー党専制と自由化をどう調和させるか『朝日ジャーナル』1-31、10月11日

社会党大会を見て『社会思想研究』11-10、10月15日[9月15日NHKラジオ・テレビ放送特別番組。向坂逸郎との対談。『民主的社会主義』収録]

社会党大会に重ねて望む『東京新聞』10月16日[『議会政治を守るために』収録]

中央集権の害毒[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月17日

社会党と西尾新党の将来『京都新聞』10月19日[『議会政治を守るために』収録]

西尾派脱党と二大政党の転機『毎日新聞』10月20日[『議会政治を守るために』収録]

就職は好調だが…[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月24日

「ドイツ問題」の底にあるもの『外交季刊』4-4、10月25日[『民族主義と中立主義』収録]

居は気を移す[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月31日

文盲は少ないが…[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月7日

西尾新党の方向『[大阪]読売新聞』11月7～9日[西尾末広との対談。『民主的社会主義』収録]

平和的戦争[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月14日

二つの世界と平和への道[講演要旨]『時事通信 内外教育版』1091、11月17日

理性と偏見[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月21日

国会と地方議会[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月28日

ナチ勃興の前夜 ドイツ革新新政党にみる『京都大学新聞』1000、11月30日

*西尾新党の将来『コウロン』12月1日[『民主的社会主義』収録]

日本政治の病理現象『なにわ』12月1日、1960年1月1日[『議会政治を守るために』収録]

現実からの解放[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月5日

西欧革新新政党の課題 カーシー、猪木両氏に聞く『京都新聞』12月8、9日[社会主義インターナショナル書記長アルバート・カーシーとの対談。「西欧民主的社会主義政党の課題」と改題、『民主的社会主義』

収録]

カーシー氏の意見[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月12日

日本の政治は異常か 多数の横暴と少数の暴力[「時評」]『[大阪]読売新聞』12月13日[『議会政治を守るために』収録]

現下の国際情勢と日本政界の現状[講演]『愛媛新聞』12月15日

十八年前の古傷[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月19日

国内平和共存へ[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月26日

1960（昭和35）年

雪どけ 世界と日本『愛媛新聞』1月1日[座談会：松本重治、辻清明、林三郎]

独裁に関する覚書『自由』2、1月1日[『民主的社会主義』収録]

“座して死を待つ” [「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月9日

統治党としての責任—二大政党と社会主義政党—『週刊社会新聞』14、1月12日

無気味な中国の影[「時評」]『読売新聞』1月12日

社会主義と政治権力『社会思想研究』12-1、1月15日

民主社会党に望む『全労』19、1月15日[『民主的社会主義』収録]

理想の大学[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月16日

孤立をどうするか[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月23日

民社新党に望む『東京新聞』1月24日[『議会政治を守るために』収録]

カギは若い世代にある[「時評」]『[大阪]読売新聞』1月25日[『議会政治を守るために』収録]

民主社会主義とは何か『神戸新聞』1月23～26日[座談会：蠟山政道、関嘉彦、菅田正巳、内海洋一、嘉治隆一(司会)]

“人種的偏見” [「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月30日

神話からの解放『日本労働協会雑誌』2-2、2月1日[『民主的社会主義』収録]

施政演説をきいて『京都新聞』2月2日

住宅について[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』2月8日

中・ソの政治関係[1959年9月4日第3回欧ア協会公開講演会「共産圏研究セミナー」の報告]『季報ソ連問題』3-4、2月10日[『民族主義と中立主義』収録]

猪木氏報告の質疑応答[1959年9月4日第3回欧ア協会公開講演会「共産圏研究セミナー」]『季報ソ連問題』3-4、2月10日[質疑：丹羽晴喜、尾上正男、迫間真次郎、高橋正雄、関嘉彦、山田淳治、天羽英二、山本登丸毛忍]

日米に立場の相違 調整点をはっきりと示せ[「安保論争をこう見る」]『京都新聞』2月13日

新党を青年の党に[「アンケート民主社会党に要望する」]『全労』20、2月15日

石橋処分論と自民党 日ソ、日中関係悪化は放置できぬ [「時評」]『[大阪]読売新聞』3月13日[『議会政治

を守るために』収録]

小型の無法者[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』3月14日

レーニン、スターリンにおけるプロレタリアート独裁理論の発展『スラヴ研究』4、3月15日[『独裁の政治思想』第5章、『著作集』2収録]

都会的な思想と生活[林健太郎著『移りゆくものの影』の書評]『東京新聞』3月15日

戦前派をタナ上げせよ 社会党大会に訴える『東京新聞』3月23日

社会党の進路[「時評」]『[大阪]読売新聞』3月26日[『議会政治を守るために』収録。「社会党に望む一三分の一の壁をどう破るか?」と改題『民主的社會主義』収録]

「日本とドイツ」[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』3月29日

IPIと国際政治—東京総会参加者を京都に迎えて—『京都新聞』3月30日

日本の目指す社会主義—本当の社会主義はこうして建設される—『経済往来』12-4、4月1日[座談会：土屋清、関嘉彦]

世論と秩序[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』4月5日

ノルウェーから学ぶ[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』4月12日

社会主義のプログラム『社会思想研究』12-4、4月15日[座談会：土屋清、関嘉彦。『議会政治を守るために』収録]

民主社会主義とは何か—その思想と理論—『民主社会主義研究』1、2、4月15日、5月10日[共同討議：関嘉彦、和田耕作、土屋清、中村菊男、武藤光朗]

奇妙な日本女性たち[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』4月19日

奇妙な論理[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』4月26日

輸送革命[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』5月2日

居は気を移す[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』5月3日

最近の内政と外交について[講演要旨、文責在記者]『なにわ』5月5日

東西首脳会談の背景と見通し『京都新聞』5月9日[対談：前芝確三]

韓国の青年[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』5月10日

世論こそ決定者 議会主義の堅持が必要[「民社党はどうすべきか 安保審議拒否問題」]『東京新聞』5月13日

[公述人意見]『第34回国会衆議院 日米安全保障条約等特別委員会公聴会議録』2、5月14日

フラッシュとライト[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』5月17日

首脳会談の決裂と東西関係『京都新聞』5月19日

冷戦派の立場強まる 首脳会談の決裂と東西関係[「山陽時評」]『山陽新聞』5月19日

夢破れた東西会談『愛媛新聞』5月20日

『若さのエネルギー』と学生運動[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』5月23日

権道はいけない[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』5月24日

相互協力と安保[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』5月31日

明らかに暴力ビケ 説得と団結を示すものではない『週刊社会新聞』34、6月3日

護憲運動展開せよ[「実力乱用」で議会主義は守れぬ]『東京新聞』6月3日[「実力乱用」で議会主義は守れぬ]と改題、『議会政治を守るために』収録]

議会政治と実力行使 議会政治擁護内閣をつくれ[「時評」]『[大阪]読売新聞』6月5日[「議会政治を守るために』収録]

日本政治のナゾ[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』6月7日

民主社会主義とは何か—その思想と理論—『民主社会主義研究』3、6月10日[共同討議：関嘉彦、中村菊男、和田耕作、稲葉秀三、土屋清、土井章、武藤光朗]

国際キリスト教大学の功績[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』6月13日

外国のことはわからない[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』6月14日

期待は新内閣に じっくり内外政の再建を[「新安保条約自然承認に寄せる」]『京都新聞』6月19日

国際共産主義の陰謀[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』6月21日

崩壊した平和共存 米、ソ両国の冷戦派が演じた役割[「論壇時評」]『東京新聞[夕刊]』6月23日

インテリの同意見 考えさせるロベルト・ユンクの忠言[「論壇時評」]『東京新聞[夕刊]』6月24日

安保条約の段階的解消を 新条約批准反対三条五条は削除せよ[「衆院安保委の公聴会から」]『国会月報』140、6月

この暴挙は許せない[「特集 国民は承服しない」]『世界』175、7月1日[「議会政治を守るために』収録]

護憲内閣で政局收拾を『中央公論』75-7、7月1日[「議会政治を守るために』収録]

レーニン主義と毛沢東思想『法学論叢』67-4、5、7月1日、8月1日[「独裁の政治思想』第6章、『著作集』2収録]

白鳥の湖[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』7月5日

東西問題の悪化と日本外交『民主社会主義研究』4、7月10日

民主社会主義とは何か—その思想と理論—議会制民主主義について『民主社会主義研究』4、7月10日[共同討議：土屋清、関嘉彦、中村菊男、和田耕作、武藤光朗]

経済の繁栄と学生の貧困[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』7月12日

J・H・プリンメル著『東南アジアの共産主義』[「書評」]『アジア経済』1-2、7月15日

悪循環を避けよう[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』7月19日

池田内閣の発足[「時評」]『[大阪]読売新聞』7月24日[「議会政治を守るために』収録]

集団ヒステリー[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』7月26日

札幌から苫小牧まで[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』7月30日

政治と教育『総合教育技術』15-7、8月1日

政治的危機の底にあるもの『中央公論』75-9、8月1日[「議会政治を守るために』、『著作集』2収録]

日本の中立は可能か？—民衆のムード・中立主義—『文芸春秋』38-8、8月1日[「民族主義と中立主義』、『著作集』5収録]

自己満足は危険だ[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』8月2日
八月九日[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』8月9日
若い頭脳を尊重しよう[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』8月16日
小坂外交の進路[小坂外相インタビュー]『京都新聞』8月18～20日
生命は厳肅である[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』8月23日
新築の楽しみと苦しみ[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』8月23日
オリンピック大会への疑問[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』8月30日
民主社会主義とは何かー日本におけるその運動形態 日本社会党批判『民主社会主義研究』6、9月10日[共同討議：土屋清、土井章、和田耕作、中村菊男、武藤光朗]
新しいものほどよくない[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』9月13日
ニューヨークの共産圏会談[「あすへの話題」]『日本経済新聞[夕刊]』9月20日
社会[「教養文献解説ーこの一年間に出版された良書の手引きー」]『郵政』12-10、10月1日
中ソ関係の展望『京都大学新聞』1036、10月10日
日本社会党に望む 浅沼委員長の死をいたんで『京都新聞』10月13日[『議会政治を守るために』収録]
速かに立法措置 連鎖反応を抑えよ[「政治的テロを排す 浅沼委員長の遭難に思う」]『読売新聞』10月13日[「政治的テロを排すー浅沼委員長の遭難に思うー」と改題『議会政治を守るために』収録]
根本史料による研究 選挙法改正をめぐる立法・政治過程[横越英一『近代政党史研究』の書評]『日本読書新聞』1076、10月24日
暴力を肯定する人は落とせ[「総選挙を見守る本社アンケート」]『読売新聞』10月26日
暴力と結ぶ議員追放 格差成長も保・革の争点[「総選挙」]『京都新聞』10月28日
現代知識人の責任ー三池争議の完敗におもうー『自由』12、11月1日[『議会政治を守るために』、『著作集』2収録]
現代の象徴「無法者の国」怒りの爆発を恐れる『東京新聞』11月6日[「怒りの爆発を恐れる」と改題『議会政治を守るために』収録]
十一月総選挙の意義ー最大の争点は中立論争ー『南日本新聞』11月7日[『議会政治を守るために』収録]
私はこの党を支持する 民社党『毎日新聞』11月17日[『議会政治を守るために』収録]
政治と世代 “四十三歳”は若すぎない『朝日新聞』11月21日
三党に望むー国民の審判をみてー『[大阪]産業経済新聞』11月22日(『産業経済新聞[夕刊]』11月22日)[『議会政治を守るために』収録]
政局の進路と希望 保革の激突避けよ 民社にほしい “苦節十年”『京都新聞』11月23日[『議会政治を守るために』収録]
衰へた法の力『国会』13-12、12月1日
テロを封じよう[「特集 暗殺と政治」]『世界』180、12月1日
なぜ急ぐのか[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』12月17日[『随想 世界と日本』収録]
沖縄に学ぶ『[大阪]読売新聞』12月18日[『民族主義と中立主義』収録]

共産圏の平和競争的挑戦－現状固守主義では対抗できない『読売新聞[夕刊]』12月19日

多い総選挙の分析と評価[「論壇時評」]『朝日新聞』12月21日[「総選挙の分析と評価」と改題『民族主義と中立主義』収録]

ボールド氏の良識 国際問題道徳主義を排す[「論壇時評」]『朝日新聞』12月22日[『民族主義と中立主義』収録]

1961（昭和36）年

小選挙区制は是か否か[「天眼鏡」]『新政経』128、1月1日

脈打つ沖縄の祖国愛[「東京論壇」]『東京新聞』1月8日

独裁者[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』1月13日

東南アジアにおける政治的不安定『アジア経済』2-1、1月15日

モスクワ声名に問題点四つ ケネディ論にも収穫[「論壇時評」]『朝日新聞』1月17日[「脱皮するマルクス主義者－モスクワ声名に問題点四つ－」と改題『民族主義と中立主義』収録]

専門外では単純素朴[「論壇時評」]『朝日新聞』1月18日[「中国革命と東欧革命」と改題『民族主義と中立主義』収録]

経済成長と構造改革[「天眼鏡」]『新政経』129、2月1日

東南アの民族主義を見る『読売新聞』2月8日[「東南アジアの民族主義を見る」と改題『民族主義と中立主義』収録]

東南アジアの独裁政治－タイとビルマとを比較して－『[大阪]朝日新聞』2月14日[『国際政治をみる眼』収録]

日中関係に好論文[「論壇時評」]『朝日新聞』2月25日[『民族主義と中立主義』収録]

光るスノーの「中国報告」松本重治氏のアメリカ論も[「論壇時評」]『朝日新聞』2月26日[「優れた中国報告（エドガー・スノー）－松本氏のアメリカ論も－」と改題『民族主義と中立主義』収録]

狂信的な暴力を究明－福田氏のインテリ批判－[「論壇時評」]『朝日新聞』2月27日[『民族主義と中立主義』収録]

専門家を尊重しよう[「天眼鏡」]『新政経』130、3月1日

民主政治の理想と現実『公明選挙時報』243、3月15日

言論の自由と暴力 科学的究明が説得力[「論壇時評」]『朝日新聞』3月18日[『民族主義と中立主義』収録]

中国革命への恐怖感 毛沢東会見記にみる重大な示唆[「論壇時評」]『朝日新聞』3月19日[「中国革命の恐怖感－宇都宮論文と毛・周会見記－」と改題『民族主義と中立主義』収録]

日本の革命は可能か[「東京論壇」]『東京新聞』3月19日[『政治をみる眼』収録]

見られぬ建設的提案 テロ防止策発想妨げる全体論[「論壇時評」]『朝日新聞』3月20日[「社会科学から社会工学へ」と改題『民族主義と中立主義』収録]

改良主義はなぜ悪いのか[「天眼鏡」]『新政経』131、4月1日

日米間のずれ わが国の論壇は全くのんきなものだ[「論壇時評」]『朝日新聞』4月26日[「生き残りへの執念」と改題『民族主義と中立主義』収録]

- 日本観是正要件 日米のずれを早くなくすため[「論壇時評」]『朝日新聞』4月27日[「まず日本観是正一日米のずれをなくするには」]と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 日米国家観のちがいがい こちらのゆがみを直そう[「論壇時評」]『朝日新聞』4月29日[「確立せぬ国家観—現代日本のゆがみ—」]と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 国家とは何か? [「天眼鏡」]『新政経』132、5月1日
- ニューヨークタイムズ[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』5月13日
- 完全な肩すかし キューバ、アルジェリア、ラオス問題[「論壇時評」]『朝日新聞』5月23日[「機動性を欠く—国際問題と総合雑誌—」]と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 米の画期的な脱皮 核限定戦からゲリラ戦へ [「論壇時評」]『朝日新聞』5月24日[「ゲリラ戦の重視へ—アメリカの戦術転換—」]と改題『民族主義と中立主義』収録]
- “太田新路線”に注目 観念的の革命論へ痛烈な批判[「論壇時評」]『朝日新聞』5月25日[「革新陣営の反省—闘争の結晶・太田論文—」]と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 右側通行[「天眼鏡」]『新政経』133、6月1日
- 批評と現代 中ソ心酔型とアメリカ型『読売新聞[夕刊]』6月15、16日[『政治をみる眼』収録]
- チェリウスさんを送る[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』6月17日[「ツェリウスさんを送る」と改題、『随想 世界と日本』収録]
- 池田首相を送る『信濃毎日新聞』6月18日[『政治をみる眼』収録]
- 日米共同声明を読んで『京都新聞』6月24日[『政治をみる眼』収録]
- あいかわらず“不毛” 革新インテリの発想 [「論壇時評」]『朝日新聞』6月25日[「革新インテリの不毛性—安保改定一年後も変わらぬ—」]と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 建設的な論文も目立つ 説得力ある福田・尾高・松下氏ら[「論壇時評」]『朝日新聞』6月26日[「生産的・創造的な視角—福田・尾高・松下各氏の力作—」]と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 退歩的文化人の害毒 断然光る保守エリートの発言[「論壇時評」]『朝日新聞』6月27日[「観念的エリートの不毛性・実務的エリートの退歩性」と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 総裁公選制への疑問[「天眼鏡」]『新政経』134、7月1日
- わが青春『[大阪]読売新聞[夕刊]』7月3日[『随想 世界と日本』収録]
- *中ソ関係の新段階? 『読売新聞』7月12日[『国際政治をみる眼』収録、ただし掲載は確認できない]
- 日本を代表する人間[「時のレーダー」]『ユネスコ新聞』335、7月15日[『随想 世界と日本』収録]
- ベルリン危機に備う ソ・中・朝軍事同盟のねらい[「時評」]『[大阪]読売新聞』7月16日
- ケネディ外交に注目 鋭い茂木・三好両論文[「論壇時評」]『朝日新聞』7月19日[「世界危機と米外交」と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 日本経済の“ゆがみ” 見逃せぬ半面を衝く[「論壇時評」]『朝日新聞』7月20日[「日本経済のゆがみ」と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 必要な福祉国家の理念 公・私経済のズレに問題[「論壇時評」]『朝日新聞』7月22日[「公私経済部門間のアンバランスをつく」と改題『民族主義と中立主義』収録]
- 後進国の民族革命とアメリカ『エコノミスト』39-30、7月25日[『民族主義と中立主義』、『著作集』3収録]

大臣の配給制[「天眼鏡」]『新政経』135、8月1日

ソ連新綱領草案を読んで[「時評」]『大阪読売新聞』8月3日[『国際政治をみる眼』収録]

国際情勢と米の威信『京都新聞(夕刊)』8月4～8日[S.K.バドナーとの対談]

なぜ経済はよいか、政治は悪いか?[「時評」]『社会思想研究』13-8、8月15日

ベルリン危機の本質 戦争ゲーム解明する三論文[「論壇時評」]『朝日新聞』8月19日[「戦争ゲームから戦争心理へ」と改題『民族主義と中立主義』収録]

敗戦十六周年の反省 ナショナリズムの欠如つく岡発言[「論壇時評」]『朝日新聞』8月20日[「公正・正直な外交を一大局誤る民族主義の貧困」と改題『民族主義と中立主義』収録]

国民的反省に好材料 上山氏の太平洋戦争史観分析[「論壇時評」]『朝日新聞』8月21日[「四つの史観掘り下げ―大東亜戦争“戦後”も含め考察―」と改題『民族主義と中立主義』収録]

ソ連の現実と青写真―新綱領草案を手がかりとして―『朝日ジャーナル』3-35、8月27日[座談会：法眼晋作、野々村一雄、森恭三]

*なぜ振るわぬ先進国の革新政党『東京新聞』8月27日[『国際政治をみる眼』収録、ただし掲載を確認できない]

ゲルマンとスラブの闘争 ベルリン危機の背後にあるもの『毎日新聞』8月31日[『国際政治をみる眼』収録]

旅行の苦しみ[「天眼鏡」]『新政経』136、9月1日

国連総会と米国および日本『大分合同新聞』9月18日[『国際政治をみる眼』収録]

見当たらず東欧問題 竹山・勝田論文に希少価値[「論壇時評」]『朝日新聞』9月19日[「稀少価値もつ竹山・勝田論文―わが論壇のゆがみについて―」と改題『民族主義と中立主義』収録]

米外交のナゾを解く『アメリカ人の危機意識』(世界) [「論壇時評」]『朝日新聞』9月20日[「米外交硬直のナゾ―ニクソン氏中心の対談“危機意識”を突く―」と改題『民族主義と中立主義』収録]

中級国家として日本 方向づけを試みた松本論文[「論壇時評」]『朝日新聞』9月21日[「中級国家として日本の方向づけ―松本論文と森発言―」と改題『民族主義と中立主義』収録]

緊張増大化の第16回国連総会『国連京都』94、9月25日[8月31日座談会：田畑茂二郎、石川敬介、中島清]

新聞報道への注文『京都新聞』10月1日[座談会：堀江保蔵、寿岳文章、辻修二、野田研助]

日本の近代化『新政経』137、10月1日

幻想的虚構から解放 ネール演説と竹山論文[「論壇時評」]『朝日新聞』10月19日[「虚構からの解放」と改題『民族主義と中立主義』収録]

新フルシチョフ時代「基調演説」をめぐって『読売新聞』10月19日[出席者：加瀬俊一、寺沢一]

ソ連と西独を見直す[「論壇時評」]『朝日新聞』10月20日[『民族主義と中立主義』収録]

権力政治と日本の道[「論壇時評」]『朝日新聞』10月21日[「権力政治と日本の途―森・三木・カー氏も示唆多い発言―」と改題『民族主義と中立主義』収録]

第一セッション討論[ソ連共産党新綱領草案第1部について]『月刊共産圏問題』5-5、11月1日[討論：尾上正男、広田洋二、関嘉彦、村松祐次、気賀健三、和田敏雄、村山七郎、加藤寛]

第二セッション討論[ソ連共産党新綱領草案第2部第1章および第2章について]『月刊共産圏問題』5-5、

11月1日[討論：気賀健三、加藤寛、安平哲二、村松祐次、和田敏雄、天羽英二]
 第三セッション報告[ソ連共産党新綱領草案第2部第三章ないし第七章について]『月刊共産圏問題』5-5、
 11月1日
 第三セッション討論[ソ連共産党新綱領草案第2部第三章ないし第七章について]『月刊共産圏問題』5-5、
 11月1日[討論：村松祐次、気賀健三、関嘉彦、安平哲二、尾上正男、天羽英二、松下輝雄、加藤寛]
 憲法を尊重しよう[「天眼鏡」]『新政経』138、11月1日
 外国の理想化[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』11月10日
 民社党発展のためにわれら何をなすべきか『民社新聞』104、11月10日
 憲法問題再び焦点に 改憲めぐる決戦はこれから[「論壇時評」]『朝日新聞』11月16日[「すぐれた憲法論議—
 改正めぐる勝負はこれから—」と改題]『民族主義と中立主義』収録]
 国際情勢の認識不足 改憲の是非より深刻な問題[「論壇時評」]『朝日新聞』11月17日[「国際認識の欠如と
 戦争体験—スポールディング・久野論文の示唆するもの—」と改題]『民族主義と中立主義』収録]
 影ひそめた紋切り型 独創的な日本・ソ連・米国論[「論壇時評」]『朝日新聞』11月18日[「独創的な日本・
 米・ソ連—本年度のベスト・スリー—」と改題]『民族主義と中立主義』収録]
 自称現実主義者よりも現実的 東西の狂信とたたかうラッセル『朝日新聞[夕刊]』11月28日
 共産主義の発展不均等[「時評」]『読売新聞』12月13日[「国際政治をみる眼」収録]
 民族主義の行くえ『東京新聞[夕刊]』12月14～16日[『民族主義と中立主義』、『国際政治をみる眼』、『著
 作集』3収録]

1962（昭和37）年

国家は死滅するか[1961年10月17日欧ア協会主催講演会講演要旨]『月刊共産圏問題』6-1、1月1日[『民
 族主義と中立主義』収録]
 「問題」の持続と蓄積『週刊読書人』406、1月1日
 憲法の尊重について[「今月の言葉」]『中央公論』77-1、1月1日
 労働運動と中間階級の政治意識『日本労働協会雑誌』4-1、1月1日
 学生運動の暴走について まず大学の授業を充実させることが先決である『PHP』164、1月1日
 スターリンとフルシチョフ—そのちがいは暴政か全体的独裁か—『文芸春秋』40-1、1月1日
 [『民族主義と中立主義』収録]
 イデオロギーでは割り切れない—1962年の国際関係—『毎日新聞[夕刊]』1月1日
 戦争と平和『[大阪]読売新聞』1月1日
 62年の世界と日本[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』1月5日
 一九六二年の憲法問題 改憲論の危険性『新護憲』13、1月15日[「政治をみる眼」収録]
 京都市長選におもう『京都新聞』1月17日
 1961～1962年の問題『国連京都』98、1月25日[座談会：井伊壱夫、田畑茂二郎、石川敬介]
 日本ナショナリズムを論ず—はたして間接侵略に耐え得るか『論争』4-1、2月1日[対談：前芝確三]

日本の政治家『産経新聞[夕刊]』2月2、3日[『政治をみる眼』収録]

思想・精神史で新生面—高坂さんのこと—『読売新聞』2月11日

民主政治を破壊するもの[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』3月1日[『随想 世界と日本』収録]

日本の民族主義は可能か『自由』4-3、3月1日[『民族主義と中立主義』、『激動する世界と日本』、『著作集』3収録]

農業問題に苦しむソ連[「時評」]『[大阪]読売新聞』3月8日[『国際政治をみる眼』収録]

B・ハットン著北見一郎訳「暴虐の人スターリン」[書評]『東京新聞[夕刊]』3月21日

教育の機会均等[「時のレーダー」]『ユネスコ新聞』360、3月25日

米ソの平和競争—どちらが有利な立場にあるか?—『新気流』16、4月1日[『民族主義と中立主義』収録]

新しい欧州と日本の孤立感[「欧州共同市場と日本」]『中央公論』77-5、4月1日[『民族主義と中立主義』、『激動する世界と日本』収録]

妥協の能力—日本近代化の盲点[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』4月9日

日本政治の病理『朝日新聞』4月12、13日[『政治をみる眼』収録]

不幸だった石橋首相の退陣[「転換点をこう見る」]『朝日ジャーナル』4-18、5月6日

政策本位の政治を[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』5月7日[「まず国家観を確立」と改題『政治をみる眼』収録]

冷遇されるお医者さん[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』5月7日[『随想 世界と日本』収録]

参院選に思う[「随想」]『読売新聞[夕刊]』5月8、14、21、28日

国際主義とベルリン『京都新聞』5月9日[アイヒラーとの対談]

訪ソ文化人の旅行記を見る—巨大な被写体への対決—『図書新聞』654、5月12日

自民党への注文『世界と議会』12、5月15日

参院選に思う 随想執筆者座談会『読売新聞』5月30日[座談会：池田潔、秋山ちえ子]

国際緊張と日本の進路『自警』44-6、6月1日

私の憲法擁護論[「憲法問題特集」]『世界』198、6月1日

国際緊張と日本の進路『なにわ』6月1日

苛酷なヴェ条約が致命傷 ワイマル憲法の没落『京都大学新聞』1109、6月11日

私の大学[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』6月16日[『随想 世界と日本』収録]

私の大学[「随感」]『愛媛新聞[夕刊]』6月20日

老人支配と日本の政党[「特集 日本の保守政党」]『中央公論』77-8、7月1日[『激動する世界と日本』収録、ドイツ語訳 Die Herrschaft der Alten und die politischen Parteien Japans 『KAGAMI』2-2、1963/64]

“一・五大政党制”の行くえ 参院選挙の結果を見て『朝日新聞[夕刊]』7月3日[「日本型一・五大政党の将来」と改題『政治をみる眼』収録]

私の消夏法[「学芸」]『毎日新聞[夕刊]』7月7日

重大な政党の責任[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』7月9日[「議会政治の発展のために」と改題『政治をみる眼』収録]

日本は変わった『東京新聞[夕刊]』8月13、14日[『政治をみる眼』収録]

ドイツは変わった『読売新聞』8月15、17、18日[『国際政治をみる眼』収録]

“長すぎる裁判”[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』8月27日[「司法制度の改革について」と改題『政治をみる眼』収録]

ヨーロッパ合衆国なるか『新政経』147、9月1日[『激動する世界と日本』収録]

激動するヨーロッパ『京都新聞』9月11～13、15、16日[インタビュー]

トルコと日本 政治的近代化の国際会議に出席して『産経新聞[夕刊]』10月6日[『政治をみる眼』収録]

旅に病んで[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』10月10日[『随想 世界と日本』収録]

新ビジョン求めて手さぐりする社会党[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』10月15日[「日本社会党の新政策」と改題『政治をみる眼』収録]

ドイツと日本[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』10月24日[『随想 世界と日本』収録]

自由こそ未来の道「人づくり」に寄せて[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』11月19日[「新しい“未来像”への道」と改題『政治をみる眼』収録]

非同盟主義の概念を導き出した要因『月刊共産圏問題』6-12、12月1日

憲法テレビ討論会[12月8日フジテレビ特別番組「憲法問題討議会」要旨]『新護憲』24、12月15日[出席者：片山哲、勝間田清一、潮田江次、西清子、矢部貞治、中河幹子、早川崇、大石義雄、和田清好]

アメリカの学者たち[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』12月20日[『随想 世界と日本』収録]

法とドイツ人[「西独の司法制度について」]『法の支配』7、12月20日

*ソ連はどこへ行く？『読売新聞』12月24日[『国際政治をみる眼』収録、ただし掲載を確認できない]

1962年の国際政局『国連京都』109、12月25日[座談会：田畑茂二郎、日高為政、野田研助、中島清]

1963（昭和38）年

日米関係の将来を思う『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1月7、8日[『毎日新聞[夕刊]』1月21、22日。『国際政治をみる眼』収録]

中ソ対立と日本『毎日新聞』1月16日[『国際政治をみる眼』収録]

多元化する国際政治[「日本の動き 世界の動き」]『[大阪]朝日新聞』1月21日(民主的確立が課題 多元化時代の指導性[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』1月21日)[『国際政治をみる眼』収録]

日本社会党に関する覚書—緩慢ながら脱皮しつつある—『自由』5-2、2月1日[『激動する世界と日本』収録、ドイツ語訳 Ein Memorandum über die sozialistische Partei Japans 『KAGAMI』2-2、1963/64]

戦争と革命—両者の政治力学的関係について—[「特集・戦争とは何であるか」]『中央公論』78-2、2月1日[『激動する世界と日本』収録]

嵐の中の共産主義『文芸春秋』41-3、3月1日[対談：野々村一雄]

大西洋偏向の米国 重くなる日本の責任[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』3月18日[『国際政治をみる眼』収録]

アメリカの大学院生[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』4月13日

大きい世論の動き 米の黒白紛争に思う[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』5月27日[「バーミングハムの白黒紛争に思う」と改題『国際政治をみる眼』収録]

日本の民主主義—過去、現在、将来—『日米フォーラム』92、6月1日[座談会：鶴見俊輔、エドウィン・O・ライシャワー、坂田吉雄、オテス・ケーリ][『民主主義とは何だろうか』<鶴見俊輔座談 8>(晶文社、1996年)収録]

他山の石 アメリカの学者造り『毎日新聞[夕刊]』7月2日[「青年の国アメリカ」と改題『随想 世界と日本』収録]

アメリカの黒人革命『[大阪]読売新聞』7月2日[『国際政治をみる眼』収録]

あぶない曲りカド 西独の冷戦派の動き[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』9月9日

基本線を着実に進め[「これからの日本外交」]『読売新聞』9月15日[「日本外交方針の変遷—基本線を着実に進め—」と改題『政治をみる眼』収録]

成長したアメリカ人『毎日新聞[夕刊]』9月16、17日[「成長したアメリカ国民」と改題『国際政治をみる眼』収録]

先進国すれすれ日本論『中央公論』78-10、10月1日[座談会：大宅壮一、林健太郎]

三冊の本[「時のことば」]『京都新聞[夕刊]』10月5日[『随想 世界と日本』収録]

社会主義と科学・技術革命『毎日新聞』10月15日[『国際政治をみる眼』収録]

選挙制改革に進め “三木答申” 実現への道[「日本の動き 世界の動き」]『朝日新聞』10月21日[「政治の近代化と選挙制度改革の必要性」と改題『政治をみる眼』収録]

選挙と国民『京都新聞』10月26日

半強国日本『自由』5-11、11月1日[『激動する世界と日本』収録]

不安列島を診断する『中央公論』78-11、11月1日[座談会：大宅壮一、坂西志保]

自民、猛省のとき 敗北の社党は脱皮せよ[「総選挙 わたしはこう判定する」]『産経新聞』11月23日[「総選挙を判定する」と改題『政治をみる眼』収録]

取り返しつかぬ損失 暗殺は全人類に対する犯罪[「ケネディ暗殺の報に接して」]『朝日新聞』11月24日

“民主制” 守護への警鐘[「ケネディの死に思う」]『毎日新聞』11月28日[「暗殺と民主政治—ケネディの死に思う—」と改題『国際政治をみる眼』収録]

共産主義と国家の問題—国際共産主義の解体—[「特集・現代の共産主義」]『中央公論』78-12、12月1日[『激動する世界と日本』収録]

一九六四年の世界『文芸春秋』41-12、12月1日[『激動する世界と日本』収録]

国会正常化の条件『読売新聞』12月2日[『政治をみる眼』収録]

民社党に望む『同盟』66、12月15日

ケネディ特集に見る[「論壇時評」]『朝日新聞』12月24日

戦争体験と「日本の発見」[「論壇時評」]『朝日新聞』12月25日

ケネディ暗殺事件と国際政局への影響『国連京都』121、12月25日[座談会：田畑茂二郎、日高為政、林正、石川芳次郎、中島清]

1964 (昭和 39) 年

- 世界は動く—一九六四年の展望—『新政経』161、1月1日[『激動する世界と日本』収録]
- 国際政局と日本の立場『神戸新聞』1月1日[『国際政治をみる眼』収録]
- 東南アジアの現状と日本『中外日報』1月1日
- 国際政局と日本の立場『山陽新聞』1月5日
- アメリカ一九六四年 軍縮と後進国革命にどう対処するか『毎日新聞[夕刊]』1月21日[『国際政治をみる眼』収録]
- 鋭い小林のソ連観察眼[「論壇時評」]『朝日新聞』1月22日
- 吉田茂観の総決算[「論壇時評」]『朝日新聞』1月23日
- 外交の基本姿勢[「アジアと日本」]『毎日新聞』2月15日[「アジアと日本—外交の基本姿勢」と改題『国際政治をみる眼』収録]
- 少壮学徒の鋭い“挑戦”[「論壇時評」]『朝日新聞』2月25日
- 防衛、中共問題に特色[「論壇時評」]『朝日新聞』2月26日
- 平和国家[「日本の理想」]『読売新聞』2月29日、3月2日[『随想 世界と日本』、『著作集』5収録]
- 文化国家 創造力の育成[「日本の理想」]『読売新聞』3月3日[『随想 世界と日本』、『著作集』5、「創造力の育成」と改題『日本の理想』(春秋社、1966年2月15日)収録]
- 危険な徴候『京都新聞[夕刊]』3月12日[『随想 世界と日本』収録]
- 東西関係はどう動く『国際問題』48、3月15日[『激動する世界と日本』収録]
- 日本の民主主義『山陽新聞』3月17～20、22～24、26～28日[『随想 世界と日本』収録]
- 核武装と自主外交の関連[「論壇時評」]『朝日新聞』3月25日
- 中共革命に深い省察[「論壇時評」]『朝日新聞』3月26日
- In the magazines『Japan Quarterly』11-1(Jan.-March)、3月
- アジア外交の基本線『新政経』164、4月1日
- 極東の緊張緩和のために[「アンケート 日韓会談に関する私の意見」]『世界』220、4月1日
- 日米民間人会議から『中国新聞』4月6日[座談会：マックス・ミリガン、ルシアン・パイ、長谷川周重、川田侃]
- 中ソ対立の将来と日本『読売新聞』4月22日[『国際政治をみる眼』収録]
- 積極面への評価欠く 近代化論分析[「論壇時評」]『朝日新聞』4月24日
- 独創的な日本社会論[「論壇時評」]『朝日新聞』4月25日
- The responsibility of today's intellectuals『Journal of Social and Political Ideas in Japan』2-1、4月[訳載「現代知識人の責任—三池争議の完敗におもう—」『自由』12、1960年11月1日]
- マルクス政治理論の形成と発展『法学論叢』75-2、5月1日
- 宮沢・我妻・高柳の三論文[「論壇時評」]『朝日新聞』5月21日
- 高柳の「憲法調査会七年の回顧」[「論壇時評」]『朝日新聞』5月22日

アジアと日本—近代化を中心として—『同盟』72、6月15日[『激動する世界と日本』収録]

ケナン博士と日本の知識人『大阪毎日新聞[夕刊]』6月20日[『政治をみる眼』収録]

力作、二つの池田首相論[「論壇時評」]『朝日新聞』6月21日

いまや「中国問題」の一環[「論壇時評」]『朝日新聞』6月22日

[「感銘をうけた本」]『図書新聞』763、6月27日

過去3カ年における米国アジア学会年次総会報告『東南アジア研究』1-4、6月30日[相良惟一、岩村忍との共著]

Александр А. Губер, Библиография о возможности Аз. Дореволюционная и советская литература на русском языке орциальная и переводная. Издательство восточной литературы, Москва, 1960, 212p. [「図書紹介」]『東南アジア研究』1-4、6月30日

In the magazines 『Japan Quarterly』11-2(April-June)、6月

「近代化論」の役割『東京新聞[夕刊]』7月4、5日[『政治をみる眼』収録]

自民党総裁選に思う『大阪読売新聞』7月7日[『政治をみる眼』収録]

世界と日本『熊本日日新聞』7月7～29、30日、8月1～30日、9月1～11、13～22、24～30日、10月1～18日[『随想 世界と日本』収録]

戦後史をめぐり対立[「論壇時評」]『朝日新聞』7月21日

ILO 批准急げ 沖縄の施政権返還に全力[「池田改造内閣に望む」]『京都新聞』7月21日[「池田改造内閣に望む」と改題『政治をみる眼』収録]

「戦後教育」評価で対立[「論壇時評」]『朝日新聞』7月22日

原水禁京都大会をみて『読売新聞[夕刊]』8月4日

高坂氏の「海洋国家日本の構想」[「論壇時評」]『朝日新聞』8月19日

日本の近代化を解明[「論壇時評」]『朝日新聞』8月20日

[「私の言葉」]『週刊新潮』9-35、8月31日

東京オリンピック[「随想」]『読売新聞[夕刊]』9月7、14、21、28日

注目をひいたベトナム問題[「論壇時評」]『朝日新聞』9月19日

革新三党の国際路線批判[「論壇時評」]『朝日新聞』9月20日

臨時行政調査会の答申[「時評」]『読売新聞』9月30日[「行政の近代化と具体策—臨時行政調査会の答申をめぐって」と改題『政治をみる眼』収録]

In the magazines 『Japan Quarterly』11-3(July-Sept.)、9月

選考座談会 代表論文を選ぶ『中央公論』79-10、10月1日[座談会：伊東光晴、白井吉見、江藤淳、桑原武夫、武田泰淳、永井道雄、永井陽之助、橋川文三、綿貫讓治]

フルシチョフ時代終末[「論壇時評」]『朝日新聞』10月21日

武者小路氏が好論文[「論壇時評」]『朝日新聞』10月22日

日本の安全保障について『[大阪]毎日新聞[夕刊]』10月23、24日[『政治をみる眼』収録]

中ソ対立と日本の将来『旭の友』18-11、11月1日

中ソ対立と日本の将来『なにわ』11月1日

時局と展望[10月17日NHK放送「急変する国際情勢」からの要約]『日本講演』469、11月1日[座談会：加瀬俊一、田中信太郎]

地域別の国際機構 援助を政治の具にするな[「世界平和推進会議 三委員会の基調報告 南北問題」]『読売新聞』11月11日

フルシチョフ失脚をめぐって[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』11月23日

中国の核実験と日本の立場[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』11月24日

南北問題と世界平和[「特集 世界平和推進のために」]『自由』6-12、12月1日[『激動する世界と日本』収録]

スターリンとフルシチョフフルシチョフの失脚に思うー[「特集・激動する世界と日本」]『中央公論』79-12、12月1日[『激動する世界と日本』収録]

空想主義は正の新風 価値ある高坂・福田論文[「64年をふりかえる 論壇」]『朝日新聞[夕刊]』12月12日

Bernard B. Fall, The two Viet-nams, a political and military analysis Frederick, A Praeger, New York, 1963[図書紹介]『東南アジア研究』2-2、12月19日

In the magazines 『Japan Quarterly』11-4(Oct.-Dec.)、12月

*オーストリアの政情『オーストリア』1、月日未詳[『激動する世界と日本』収録]

1965 (昭和40) 年

中ソ関係の新段階ー接近するが、和解せずー『月刊共産圏問題』9-1、1月1日

激動する世界と日本ー一九六四年から六五年へー『新政経』172、1月1日

精神面の再建 20年後の日本の中堅幹部のために[「特集・20年後の日本」]『PHP』200、1月1日

「明治」の世界史的意義[「特集 明治天皇」]『文芸春秋』43-1、1月1日[『激動する世界と日本』収録]

新日本への道『京都新聞』1月3～10日[鎌倉昇、野田研助との鼎談]

世界の中の日本[「“新生日本”の道」]『信濃毎日新聞』1月5、6日[『政治をみる眼』収録]

激動する世界とわが知識人『中日新聞[夕刊]』1月5、6日

激動する世界と日本の知識人『東京新聞[夕刊]』1月8、9日[『政治をみる眼』収録]

タイ国紀行ー東南アジア一九六五年の希望ー『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1月9日[『国際政治をみる眼』収録]

沖縄とアメリカのアジア政策『沖縄タイムズ』1月21日[『国際政治をみる眼』収録]

国連を語る『国連京都』134、1月25日[座談会：田畑茂二郎、日高為政、野田研助、石川芳次郎、中島清]

広告と政治『月刊広告』203、2月1日[天野祐吉編『広告』<日本の名随筆 別巻23>(作品社、1993年)収録]

In the magazines 『Japan Quarterly』 12-1(Jan.-March)、3月

選挙の浄化について『朝日新聞』4月1〜4、6、7日[『政治をみる眼』収録]

資本論百年の逆説 マルクス理論の結論を歴史現象で評価する『潮』58、4月1日[『歴史の転換点』、『著作集』4収録]

アメリカの東南アジア政策―一つの評価―[「特集・日本はアジアで何をなすべきか」]『中央公論』80-4、4月1日[『歴史の転換点』、『著作集』3収録]

近代化進む東南アジア『朝日新聞[夕刊]』4月16日[座談会：飯島茂、高坂正堯、本間武、岩村忍、川口桂三郎、西占貢]

タイムリーな呼びかけ[「私はこう思う」]『朝日新聞』4月21日

東南アジアにおける日本の将来―日本の責任を考える―[「特集・当面するアジア外交への提言」]『自由』7-5、5月1日[『歴史の転換点』収録。ドイツ語訳 Japans Zukunft in Südostasien 『KAGAMI』3-2、1965]

漱石から社会科学へ[「読書とわたし」]『読売新聞』5月31日

ベトナム戦争はいつ終わるか?[「特集・ベトナム戦争に関する25の質問」]『中央公論』80-6、6月1日

*選挙区改革案をめぐる―小選挙区比例代表制を―『政経時報』6月3日[『政治をみる眼』収録]

変動する東南アジアの将来『[大阪]読売新聞』6月5日[『国際政治をみる眼』収録]

全国区を比例代表制に[「提言」]『中日新聞』6月28日[「参議院選挙と選挙制度」と改題、『政治をみる眼』収録]

概説 社会主義『現代のエスプリ』14、7月1日

民主的社会主義『現代のエスプリ』14、7月1日[『民主的社会主義』(中央公論社、1960年)から収録]

参院選を前に 政党化は当然『西日本新聞』7月1日[『政治をみる眼』収録]

丸山真男 師にして友人[「現代日本の一〇〇人」]『文芸春秋』43-7、7月1日

私の信条[「現代日本の一〇〇人」]『文芸春秋』43-7、7月1日

公正な国民の審判『京都新聞』7月6日[『政治をみる眼』収録]

日本の進路を考える―参議院選挙後の内政と外交―『山陽新聞』7月11〜15日[『政治をみる眼』収録]

日本の平和と安全保障『社会思想研究』17-7、7月15日

新しいアジアと日本の役割『読売新聞』7月16日[座談会：石川忠義、鎌倉昇、関嘉彦、山本登]

アジアにおける日本の使命『潮』62、8月1日

チャンコロから偉大なる中国まで 日本人の中国観の変遷について『文芸春秋』43-8、8月1日[「日本人の中国観」と改題、『歴史の転換点』収録]

“屈辱の時代”[「20年の教訓戦後歴代首相にきく 特集戦後20年」]『産経新聞』8月6日[『政治を見る眼』、東久邇稔彦―見事な終戦処理』著作集』4収録]

自由主義に試練[「20年の教訓戦後歴代首相にきく 特集戦後20年」]『産経新聞』8月7日[『政治を見る眼』、「石橋湛山―自由主義に試練」と改題』著作集』4収録]

苦悩する理想主義[「20年の教訓戦後歴代首相にきく 特集戦後20年」]『産経新聞』8月8日[『政治を見る眼』、「片山哲―苦悩する理想主義」と改題』著作集』4収録]

不幸な時代[「20年の教訓戦後歴代首相にきく 特集戦後20年」]『産経新聞』8月12日[『政治を見る眼』、「岸信介ー不幸な時代」と改題『著作集』4収録]

合理主義の登場[「20年の教訓戦後歴代首相にきく 特集戦後20年」]『産経新聞』8月13日[『政治を見る眼』、「池田勇人ー合理主義の登場」と改題『著作集』4収録]

「第二次大戦」がよい 大東亜戦争肯定論に反対する[「あの戦争を何と呼ぶべきか 敗戦二十年をむかえて」]『産経新聞[夕刊]』8月14日[「あの戦争を何と呼ぶべきかー敗戦二十年をむかえてー」と改題『政治を見る眼』収録]

きびしい現実政治[「20年の教訓戦後歴代首相にきく 特集戦後20年」]『産経新聞』8月15日[『政治を見る眼』、「吉田茂ーきびしい現実政治」と改題『著作集』4収録]

スターリン批判のこだま[「戦後史の人々」]『朝日新聞[夕刊]』8月20日[「論争二十年」と改題『国際政治をみる眼』収録]

日本は何をなすべきか『読売新聞』9月22日[座談会：川島正次郎、椎名悦三郎、中山伊知郎]

インドシナ三国の印象 プノンペンからサイゴンまで『熊本日日新聞』9月28～30日、10月1、2日[『国際政治をみる眼』、『著作集』3収録]

シンポジウム「東南アジアにおける日本の将来」『東南アジア研究』3-2、9月30日

韓国政府の管轄権こそ問題[「評壇」]『読売新聞』10月2日[「日韓条約をめぐってー韓国管轄権を明確にー」と改題、『政治をみる眼』収録]

新聞と国民感情ーライシャワー米大使の批判に寄せて『朝日新聞』10月18日[『政治をみる眼』収録]

日米関係の将来[「評壇」]『読売新聞』10月31日[「日米関係の将来と中国問題」と改題『国際政治をみる眼』収録]

革命と国家権力ー十月革命前後のレーニンー『展望』83、11月1日

国連と中国[「評壇」]『読売新聞』11月27日[『国際政治をみる眼』収録]

アジアの政治的不安定と日本ーわが国の「脚下を照顧」しなければ大いに危い『潮』66、12月1日[矢野暢との共同執筆]

日本の国際的地位[「評壇」]『読売新聞』12月11日[「日本の国際的孤立」と改題『国際政治をみる眼』収録]

日韓友好への道ー条約承認に寄せてー『京都新聞』12月12日[「日韓条約承認に寄せて」と改題『政治をみる眼』収録]

内閣制度八十年の教訓[「評壇」]『読売新聞』12月19日[『政治をみる眼』収録]

中国の姿勢、鋭く分析[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』12月20日[『著作集』4収録]

インドシナ三国の印象『東南アジア研究』3-3、12月20日

対立する中国革命観[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』12月21日[『著作集』4収録]

ハワイの夢 東と西を結ぶ研究所 [「評壇」]『読売新聞』12月30日

1966（昭和41）年

被害妄想の「第二黄禍論」 中共の“脅威”とアジアの不安定[「あすのアジアを思う」]『産経新聞』1月1日（『[大阪]産経新聞』1月1日）

現代の経済と政治『社会思想研究』18-1、1月15日[1965年10月15日共同討議：音田正巳、熊谷尚夫、安井琢磨]

日米学者ハワイ座談会 中国をめぐるアジア情勢『[大阪]読売新聞』1月1日[座談会：ジョージ・E・テイラー、フランツ・シューマン、石川忠雄]

ソ連との友好に思う[「評壇」]『読売新聞』1月20日[『政治をみる眼』収録]

米中対決の本質つく[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』1月25日[『著作集』4収録]

毛戦略と核武装の間[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』1月26日[『著作集』4収録]

アジアの近代化は自力で[「私の提言」]『東京新聞』1月31日[『国際政治をみる眼』収録]

持ちこたえ作戦を「ベトナム」で米の活路[「評壇」]『読売新聞』2月6日[「[「ヴェトナム」での米の活路]と改題、『国際政治をみる眼』収録]

蠟山政道著新日本のビジョン 七つの条件を提示 その学風から生れた未来像『週刊読書人』611、2月7日

自主外交の道を分析[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』2月21日[『著作集』4収録]

審議会の欠陥にメス[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』2月22日[『著作集』4収録]

スターリン批判十周年[「評壇」]『読売新聞』2月24日[『国際政治をみる眼』収録]

日本安全保障について[3月3日講演要旨、文責在記者]『国連』45-3、4、3月1日、4月1日

クーデターの時代 近代化の期待は疑問[「評壇」]『読売新聞』3月19日

競ってソ連に焦点[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』3月21日[『著作集』4収録]

大学の使命を問う[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』3月22日[『著作集』4収録]

共産党独裁の将来 プレジネフ報告を読んで[「きょうの評論」]『中日新聞』4月1日[『国際政治をみる眼』収録]

マルクスの革命理論とアジアの社会主義思想『法学論叢』79-1、4月1日[加筆して『新增訂版 共産主義の系譜』第9章収録]

暴力は一時世を支配[以下略][「勇気ある言葉」]『毎日新聞』4月3日[「[「勇気あることば」]（毎日新聞社、1967年）収録]

英労働党の勝利と日本社会党 統治能力、リーダーシップの教訓[「評壇」]『読売新聞』4月10日[「[「英労働党大勝の教訓—社会党にほしい統治能力—」]と改題『国際政治をみる眼』収録]

移行社会の民主主義—フラスカーティ会議に出席して—『読売新聞[夕刊]』4月19日[『国際政治をみる眼』収録]

防衛論議が本格化[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』4月22日[『著作集』4収録]

インドネシア論活発[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』4月23日[『著作集』4収録]

人生とは別れることか—三人娘を嫁がせて—『随筆サンケイ』13-5、5月1日

話しあいの基盤 最近とはげとげしていた対話が[「特集・話しあってみれば」]『PHP』216、5月1日

内閣改造に望む[「評壇」]『読売新聞』5月3日[『政治をみる眼』収録]

中国の水爆実験と日本—安保理事会への巨大な一歩—『[大阪]毎日新聞』5月11日[『国際政治をみる眼』収録]

アメリカ外交の反省 マック・ジョージ・バンディ氏と会って[「きょうの評論」]『中日新聞』5月17日[『国際政治をみる眼』収録]

勢力均衡論への批判[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』5月25日[『著作集』4収録]

明治百年の行過ぎ反省[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』5月26日[『著作集』4収録]

日米会議と中国代表権問題[「評壇」]『読売新聞』5月31日[『国際政治をみる眼』収録]

マルクスと西方世界—ノートルダム大学のシンポジウムに参加して『新政経』188、6月1日

盛んな「中国の整風」論[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』6月22日[『著作集』4収録]

収穫あった「日米関係」[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』6月23日[『著作集』4収録]

“幻想の自由”にメス 武藤光朗著 現代代日本の精神状況[「読書」]『読売新聞[夕刊]』6月23日[「書評再録」(『創文』42、1966年9月1日)に再録]

米のアジア政策 バンディ国務次官補にきく『読売新聞』7月9日[インタビュー]

ドゴール外交の背景[「評壇」]『読売新聞』7月19日[『国際政治をみる眼』収録]

経済の進路をさぐる[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』7月22日[『著作集』4収録]

現実主義、正しく評価[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』7月23日[『著作集』4収録]

捕虜で誤算重ねるな[「評壇」]『読売新聞』7月24日

世界の情勢と日本の立場[6月19日信濃教育会創立八十周年記念講演於開智小学校]『信濃教育』957、8月1日[『現代政治の虚像と実像』収録]

戦後二十一年を顧みて—わが政党の功罪—[「評壇」]『読売新聞』8月13日[『政治をみる眼』収録]

政治 勇断をもって政界浄化[「昭和40年代・日本の課題 終戦記念日に寄せて」]『産経新聞』8月15日[「戦後二十一年の政治を概観して」と改題『政治をみる眼』収録]

“信頼への賭”には条件[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』8月22日[『著作集』4収録]

独裁者の支配想起—大島論文[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』8月23日[『著作集』4収録]

中共の全体主義独裁 “紅衛兵の夜”に思う[「きょうの評論」]『中日新聞』8月28日[『国際政治をみる眼』収録]

ドゴールとシアヌーク[「評壇」]『読売新聞』9月1日

毛沢東化と非毛沢東化『産経新聞』9月3日[「中国文化大革命の進路—毛沢東化と非毛沢東化—」と改題『国際政治をみる眼』収録]

明治百年とロシア革命五十年[「時評」]『社会思想研究』18-9、9月15日

近代化と非近代化 日本と中国とを比較して[「きょうの評論」]『中日新聞』9月17日[『政治をみる眼』収録]

神話の国際政治学 「力の均衡」坂本論文に答える『朝日新聞』9月19日[『国際政治をみる眼』、『著作集』5収録]

中ソの比較論にズレ[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』9月29日[『著作集』4収録]

“中国の矛盾”をつく[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』9月30日[『著作集』4収録]

国連とヴェトナム問題[「評壇」]『読売新聞』10月1日[『国際政治をみる眼』収録]

二大政党の猛省を促す[「評壇」]『読売新聞』10月13日[『政治をみる眼』収録]
ヴェトナム戦争の曲がりかど ジョンソン大統領の太平洋諸国歴訪[「きょうの評論」]『中日新聞』10月15日[『国際政治をみる眼』]
新聞の政治批判[「評壇」]『読売新聞』10月25日[『政治をみる眼』収録]
文化大革命へ一致点[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』10月25日[『著作集』4収録]
権力者の腐敗をつく[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』10月26日[『著作集』4収録]
政治的危機に思う 日本と西独を比較してみると…[「きょうの評論」]『中日新聞』11月8日[『国際政治をみる眼』収録]
政治責任不在の総裁選挙[「評壇」]『[大阪]読売新聞[夕刊]』11月22日[『政治をみる眼』収録]
腐敗への抵抗力評価[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』11月28日[『著作集』4収録]
社会党の責任を問う[「論壇時評」]『朝日新聞[夕刊]』11月29日[『著作集』4収録]
奇妙な自民総裁選挙 内閣の機能を復活させよ『読売新聞』11月29日
改造内閣の課題『京都新聞』12月5日[『政治をみる眼』収録]
解散・総選挙に思う『神戸新聞』12月28日[『政治をみる眼』収録]

1967（昭和42）年

1967年の国際情勢『熊本日日新聞』1月1日[『国際政治をみる眼』収録]
左側通行に統一せよ[「五〇〇字提言」]『PHP』224、1月1日
中国とソ連を対比する『文芸春秋』45-1、1月1日[『歴史の転換点』収録]
国民も政党ももう一度考え直そう『読売新聞』1月1日[座談会：蠟山政道、鶴飼信成、御手洗辰雄]
総選挙こう考える『産経新聞』1月3、4日(『[大阪]産経新聞』1月3、4日)[座談会：唐島基智三、犬養道子]
中ソの革命独裁を比較する[「学芸」]『毎日新聞[夕刊]』1月17日[『国際政治をみる眼』収録]
拡大続くヴェトナム戦争[「きょうの評論」]『中日新聞』1月20日[『国際政治をみる眼』収録]
自民党が野党になる日『自由』9-2、2月1日[『歴史の転換点』収録]
総選挙と政局[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』1月31日、2月1日[『政治をみる眼』収録]
中共の“非毛沢東化”[「きょうの評論」]『中日新聞』2月7日[『国際政治をみる眼』収録]
市民の運命がかかっている『京都新聞』2月25日[『政治をみる眼』収録]
沖繩問題の焦点 九十五万同胞の人権を守ろう[「きょうの評論」]『中日新聞』2月25日[『政治をみる眼』収録]
共産圏諸国の政党『国際時評』23、3月1日
文化大革命の行くえ『産経新聞[夕刊]』3月3日[『国際政治をみる眼』収録]
核拡散防止と日本の安全『読売新聞』3月14日[座談会：寺沢一、佐伯喜一]
『現代のマルクス主義』一監修するにあたってー『社会思想研究』19-3、3月15日

地方政治に望む[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』3月20日[『政治をみる眼』収録]

非毛沢東化と非スターリン化『中央公論』82-4、3月21日[『歴史の転換点』、『増補共産主義の系譜』、『著作集』3収録]

核拡散防止条約と日本[「きょうの評論」]『中日新聞』3月22日[『政治をみる眼』収録]

社会主義国家と合法性[「文化」]『[大阪]朝日新聞[夕刊]』3月27日[『国際政治をみる眼』収録]

中ソ論争の焦点、1963-64年(上)『スラヴ研究』11、3月28日

アジアの混乱どう解消する『読売新聞』4月12日[座談会：K・バーンバウム、M・ハワード、T・B・ミラー、堂場肇]

美濃部都知事に望む 伏魔殿を清掃せよ[「潮流」]『[大阪]産経新聞[夕刊]』4月19日(新都知事に望む[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』4月19日)[『政治をみる眼』収録]

新学問のすすめ[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』4月22日[『政治をみる眼』収録]

日米関係を深めよう 講和条約十五年に思う[「きょうの評論」]『中日新聞』4月23日[『政治をみる眼』収録]

社会主義の変貌『潮』83、5月1日[『歴史の転換点』収録]

「京都会議」を聞いて『朝日新聞』5月9日

ワシントンの印象[「きょうの評論」]『中日新聞』5月9日[『国際政治をみる眼』収録]

ヴェトナムの悪夢『オブザーバー』14、5月14日[『国際政治をみる眼』収録]

政党と政治資金規正[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』5月15、16日(『[大阪]産経新聞[夕刊]』5月15、16日)[『政治をみる眼』収録]

安保条約に期限はあるか『[大阪]読売新聞[夕刊]』5月20日[『政治をみる眼』収録]

奇跡のナゾをとこう[「審査員のこぼし」]『産経新聞』6月1日(募集によせて[「日本の近代化と今後の進路 学生懸賞論文を募集」]『[大阪]産経新聞』6月1日)

三つの“相互依存” “地上の平和” 会議に出席して[「きょうの評論」]『中日新聞』6月16日

中東戦争と国際政局『京都新聞』6月18日[『国際政治をみる眼』収録]

“地上の平和” 第二回会議に出席して[「学芸」]『毎日新聞[夕刊]』6月20日[『国際政治をみる眼』収録]

“地上の平和” 会議[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』6月23、24日(『[大阪]産経新聞[夕刊]』6月23、24日)[『国際政治をみる眼』収録]

ドイツ統一問題の難しさー “地上の平和” 第二回会議に出席してー 『オブザーバー』20、6月25日[『国際政治をみる眼』収録]

米ソ首脳会談の成果『京都新聞』6月27日[『国際政治をみる眼』収録]

[「新委員長・民社党に望む」]『改革者』88、7月1日

*中国との平和共存『中日新聞』7月16日[『政治をみる眼』収録、ただし掲載を確認できない]

ロシア革命50年に思う[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』7月24、25日(『[大阪]産経新聞[夕刊]』7月24、25日)[『国際政治をみる眼』収録]

平和と民主社会主義『改革者』89、8月1日

国際危機と平和の条件―“地上の平和”第二回会議に出席して―『自由』9-8、8月1日[『歴史の転換点』収録]

国家の姿勢 はちきれんばかりに成長した日本経済力を背景に[「政治を大事にしよう」]『PHP』231、8月1日

黒人暴動を考える[「きょうの評論」]『中日新聞』8月9日[『国際政治をみる眼』収録]

終戦記念日を迎えて[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』8月14、15日(『[大阪]産経新聞[夕刊]』、8月14、15日)[『政治をみる眼』収録]

ソ連展を見て[「文化」]『[大阪]読売新聞』8月14日

江上照彦著「会議は躍る」[書評]『社会思想研究』19-8、8月15日

立ち直りの“好機” 古いイデオロギー断て[「社会党の前途」]『京都新聞』8月22日

アジアからみたソ連の外交政策『月刊共産圏問題』11-9、9月1日

ナショナリズムと共産主義『国際時評』29、9月1日[『歴史の転換点』、『著作集』3収録]

資本論百年とロシア革命五十年『社会思想研究』19-9、9月15日[座談会：音田正巳、内海洋一、熊谷尚夫]

革命五十周年のソ連[「きょうの評論」]『中日新聞』9月22日[『国際政治をみる眼』収録]

ソ連の印象[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』9月27、28日(『[大阪]産経新聞[夕刊]』9月27、28日)[『国際政治をみる眼』収録]

暴力と狂気の時代 言語道断の羽田事件『産経新聞』10月9日[「暴力と狂気の時代 現状の全面否定 “教育不在”に育った学生」]談と題して『[大阪]産経新聞』10月9日]

学生運動の暴走に思う『京都新聞』10月13日[『政治をみる眼』収録]

自民党の猛省を促す[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』10月19、21日(選挙法改正を真剣に『[大阪]産経新聞』10月19、20日)[『政治をみる眼』収録]

中ソ対立と吉田茂[「きょうの評論」]『中日新聞』10月31日[『政治をみる眼』収録]

著者と語る『河合栄治郎全集』第十四巻『学生に与う・国民に懇う』『改革者』92、11月1日[インタビュー]

共産主義の多元性『現代のエスプリ』28、11月1日[『現代政治の虚像と実像』収録]

革命五十年の評価[「特集・ロシア革命から五十年」]『自由』9-11、11月1日[『歴史の転換点』収録]

自社の退潮は必至―10年後を展望する―『読売新聞』11月6日(『[大阪]読売新聞』11月6日)

世界史におけるロシア革命『[大阪]産経新聞[夕刊]』11月7日[『国際政治をみる眼』収録]

米戦略の転換迫れ 首相訪米に望む『中日新聞』11月12日[「佐藤首相訪米に望む」と改題『国際政治をみる眼』収録]

日米首脳会談に望む『[大阪]読売新聞』11月12日[『政治をみる眼』収録]

河合先生と第二次世界大戦について[10月5日河合栄治郎全集刊行記念講演]『社会思想研究』19-11、11月15日[『著作集』4収録]

共同声明を読んで『読売新聞[夕刊]』11月16日[「ジョンソン・佐藤共同声明を読んで」と改題『政治をみる眼』収録]

無法者を排除しよう 暴力と自由とは決して両立しない[「きょうの評論」]『中日新聞』11月19日[「暴力と自由」と改題『政治をみる眼』収録]

ソ連の進路を考える『読売新聞[夕刊]』11月25日(『[大阪]読売新聞』11月28日)[『国際政治をみる眼』収録]

防衛問題の考え方[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』11月29、30日(『[大阪]産経新聞[夕刊]』11月29、30日)[『政治をみる眼』収録]

国民の運命 人間の能力を発揮させるもの それは政治の力だ[「政治を大事にしよう」]『PHP』235、12月1日

大学をどうするか 大学と大学院とに分割せよ[「きょうの評論」]『中日新聞』12月5日

「吉田氏以後」に独特な史眼[「ことしの回顧 ベスト5 論壇」]『朝日新聞[夕刊]』12月12日

1967年をふりかえる[「潮流」]『産経新聞[夕刊]』12月27、28日(『[大阪]産経新聞[夕刊]』12月27、28日)[『国際政治をみる眼』収録]

日本の将来『世界思想』1、夏[月日未詳]

1968 (昭和43) 年

政治指導者の条件—日本におけるその可能性をさぐる—『別冊潮』8、1月1日[『歴史の転換点』収録]

日米ソ三国の“良識”が率直に語る アジア平和解決策はある『読売新聞』1月1日(『[大阪]読売新聞』1月1日)[座談会：H. A. キッシンジャー、G. ジェーコフ、B. マエフスキー、神谷不二]

日本の近代化と今後の進路『産経新聞』1月10日[座談会：エドウィン・O・ライシャワー、大河内一男、中山伊知郎、林健太郎、和歌森太郎、臼井吉見、土屋清]

日本とドイツとの比較『学会会報』698、1月15日

近代化と非近代化—明治百年をふりかえって—[「学芸」]『毎日新聞[夕刊]』1月16日

日米ソ協調のために『読売新聞』1月17日[対談：永井陽之助]

国会の審議に期待する[「潮流」]『[大阪]産経新聞[夕刊]』1月26、27日(『産経新聞[夕刊]』1月27、29日)

日ソ共産党会談に思う『中日新聞』1月29日

悪循環を断ち切ろう 政治ということばには二つの意味があることを認識して[「政治を大事にしよう」]『PHP』237、2月1日

予算委員会に望む 野党は安全保障の代案を出せ『[大阪]読売新聞』2月7日

“総合化”時代の社会科学『週刊読書人』717、3月18日[対談：長洲一二]

アジアの安定へ大国の自制促す『読売新聞』3月31日(アジアの安定は大国の自制から『[大阪]読売新聞』4月1日)[座談会：川田侃、寺沢一]

こんごの日本と新局面を迎えるアジア『読売新聞』4月2日(アジアの平和と今後の日本の進路『[大阪]読売新聞』4月2日)[座談会：ベンジャミン・H. ブラウン、ドワイト・H. パーキンズ、衛藤瀧吉]

ソ連はどう出るか 今こそ“共存”生かせ[「アジアの平和と日本 日米専門家会議に想う」]『読売新聞』4月3日(“共存”を生かす時 ベトナム和平とソ連『[大阪]読売新聞』4月3日)

双方の信頼性回復 もう“逆戻り”はすまい[「ハノイの柔軟性 和平こんどこそ」]『読売新聞』4月4日

知識層と外交『国際時評』37、5月1日[『歴史の転換点』、『現代政治の虚像と実像』、『著作集』5収録]
建設的な代案を われわれは批判にばかり熱心であってはならない[「政治を大事にしよう」]『PHP』240、
5月1日
野放しより悪質 国民の期待、完全に裏切る[談「政治献金」]『産経新聞』5月3日
ベトナム和平と日本の進路『社会思想研究』20-5、5月15日[座談会：土屋 清、関 嘉彦]
大国主義 内からの崩壊[「特集 大国支配時代の終焉」]『自由』10-6、6月1日[『歴史の転換点』収録]
どう変わる米国のアジア政策『文芸春秋』46-6、6月1日[『歴史の転換点』収録]
歴史の転換点[「わが著書を語る」]『出版ニュース』771、8月11日
明治の指導者たち そこに私は政治を大事にした姿を見るのである[「政治を大事にしよう」]『PHP』244、
9月1日
パウル・フレリーヒ著伊藤成彦訳「ローザ・ルクセンブルク」ーその思想と生涯ー『社会思想研究』20-9、
9月15日
共産諸国の自由ー共産主義と自由とは両立しないー『国際時評』42、10月1日[『現代政治の虚像と実像』
収録]
再スターリン化？ーソ連軍のチェコ占領に思うー『自由』10-10、10月1日[『現代政治の虚像と実像』
収録]
ソ連侵入のバランスシート『文芸春秋』46-10、10月1日[座談会：長洲一二、大宅壮一、原子林二郎]
甘い期待許さぬニクソン政権 各界の識者に聞く『読売新聞』11月7日[座談会：愛知揆一、勝間田清一、
長谷川周重]
自民総裁選に望む 国民と話し合う人を『読売新聞』11月26日
“ニクソン政権下の米国と日本” [11月22日定例午餐会講演要旨]『国連京都』181、12月25日
民主主義社会における教育の政治的中立について[講演要旨]『教育委員会月報』20-9、12月

*A Japanese view of communist China 『SAIS Review』

1969 (昭和 44) 年

安保問題をどう考えたらよいか『現代』3-1、1月1日[三島由紀夫との対談。三島由紀夫『若きサムライ
のために』(日本教文社、1967年)収録]
新しい年と世界の動き『東レ時報』17-1、1月10日
外交を大事にしよう 輸送ルートを失ったとき海洋国家は弱体である[「政治を大事にしよう」]『PHP』248、
1月1日
日米両国の学生運動を考察するー情勢が好転するほど反乱は起りやすいー『社会思想研究』21-4、4月15
日
警察を大事にしよう 時代遅れの“警察アレルギー” [「政治を大事にしよう」]『PHP』252、5月1日[『な
にわ』168、6月1日に転載]
自由の価値ーチェッコ問題に学ぶ[「日本はいかに生きるべきか」]『政策研究』40、5月
その力を政治にも[「アポロに思う」]『読売新聞[夕刊]』7月18日

アメリカ知識人の沖縄観『諸君』1-2、8月1日[『現代政治の虚像と実像』、『著作集』3収録]

ベトナム戦争でアメリカ悪玉論多い[講演要旨]『読売新聞』11月11日

アメリカは変わったか『読売新聞[夕刊]』11月12～14、17日

「開いた社会」のゆがみ『諸君』1-6、12月1日[『現代政治の虚像と実像』収録]

最近の米国と日本[12月15日午餐会講演要旨]『国連京都』193、12月25日

1970（昭和45）年

警察を大事にしよう—時代遅れの“警察アレルギー”—『旭の友』24-1、1月1日

反米ナショナリズムを排す『改革者』118、1月1日[『現代政治の虚像と実像』収録]

日本も主役になれる 70年代世界は相互依存時代『読売新聞』1月1日[座談会：ウォーナー・R・シリング、ビクトル・V・マエフスキー、神谷不二]

日本は平和国家[「東風西風」]『読売新聞』1月9日

議会政治の危機[「東風西風」]『読売新聞』1月16日

幻想の革命家レーニン[「東風西風」]『読売新聞』1月23日

核防条約の調印[「東風西風」]『読売新聞』1月30日

強迫観念からの解放を 日米共同声明と日本の知識人『諸君』2-2、2月1日[『現代政治の虚像と実像』収録]

マルクス主義と終末論『自由』12-2、2月1日[『変革期のなかの自由』〈自由選書〉(自由社、1971年3月15日)、『現代政治の虚像と実像』収録]

“革新”という不吉な言葉[「東風西風」]『読売新聞』2月6日

70年代の国際政治[1月27日文化講演会講演要旨]『日本講演』660、2月11日

不消化な高校教育[「東風西風」]『読売新聞』2月13日

援助の受け入れ能力[「東風西風」]『読売新聞』2月20日

騒々しい京都[「東風西風」]『読売新聞』2月27日

The Japanese CP: An instructive paradox 『Problems of Communism』19-1、Jan.-Feb.

社会主義という言葉『社会思想研究』22-3、3月1日

文部省アレルギー[「東風西風」]『読売新聞』3月6日

大学生の国語力[「東風西風」]『読売新聞』3月13日

日米関係に思う[「東風西風」]『読売新聞』3月20日

航空自衛隊を訪ねて[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』3月27日

航空自衛隊を訪ねて『広報アンテナ』116、3月31日[『読売新聞[夕刊]』3月27日から転載]

病的完全主義 ただわめきたてるだだっこの心理である[「政治を大事にしよう」]『PHP』263、4月1日

平和と経済成長[「東風西風」]『読売新聞』4月3日

世界は悪くなったか[「東風西風」]『読売新聞』4月10日
知的自由と一党独裁[「東風西風」]『読売新聞』4月17日
レーニンの空想的理想主義[「東風西風」]『読売新聞』4月24日
ニクソン・ドクトリンの試練[「東風西風」]『読売新聞』5月1日
瀬戸物店の巨象[「東風西風」]『読売新聞』5月8日
三十年前の正月[「東風西風」]『読売新聞』5月17日
日中国交の正常化[「東風西風」]『読売新聞』5月22日
中東戦争三周年[「東風西風」]『読売新聞』5月29日
不破哲三氏に聞く日共的革命構想『諸君』2-6、6月1日[不破哲三との対談]
条約“妄想”はいけない[「東風西風」]『読売新聞』6月5日
尊大の無知[「東風西風」]『読売新聞』6月12日
クリフォード前長官と孫子[「東風西風」]『読売新聞』6月19日
独善的な対外強硬論[「東風西風」]『読売新聞』6月26日
便乗外交では 高いがけから転落寸前のバスを見分けよ[「政治を大事にしよう」]『PHP』266、7月1日
猪木防大校長に聞く『朝雲』878、8月27日[インタビュー]
着任式における訓示[要旨]『広報アンテナ』122、9月10日
防衛大学校をシビル・コントロールする『諸君』2-10、10月1日[対談：堂場肇]
防衛問題に歴史の教訓を生かす『国防』19-10、10月1日[堂場肇との対談]
防衛大学校の歴史と指向『軍事研究』5-12、12月1日
防衛大学校に“入学”して『防衛大学校同窓会』会報』8、12月20日[『防衛を考える』収録]
自衛隊は合憲—断乎、破壊思想を排撃—[合同朝礼訓示]『朝雲』896、12月31日

1971（昭和46）年

三島の『檄』に対する所感[1970年12月16日防衛大学校学生への校長訓示全文]『広報アンテナ』126、1月10日
*三分の一世紀の夢『のじり』1月
現憲法下の自衛隊—防衛大学校長訓示全文—『改革者』131、2月1日
河合栄治郎郎をめぐって『社会思想研究』23-2、2月15日[1月9日座談会：江上照彦、土屋清、外山茂、関嘉彦]
“知識の爆発”について『小原台』47、3月18日 [『防衛を考える』収録]
*合同朝礼における学校長講話『季報補導』7月
コロラド・スプリングスとアナポリス『小原台』48、8月1日 [『防衛を考える』収録]
アメリカからみたヨーロッパ『国際時評』77、9月1日 [『現代政治の虚像と実像』収録]

転換期の日米関係の方向を探る『国防』20-10、10月1日[対談：堂場肇]

[10月15日講演「国際情勢雑感」於尚友会会合]『朝雲』938、10月21日

回顧・二五年―社思研の発展と役割『社会思想研究』23-11、11月15日[座談会：江上照彦、音田正巳、関嘉彦、土屋清、外山茂]

欧米士官学校を訪ねて『[防衛大学校同窓会]会報』9、12月20日[『防衛を考える』収録]

1972（昭和47）年

現代史を語る―歴史はくりかえし、かつ、くりかえさない―『社会思想研究』24-1、1月15日[座談会：衛藤藩吉、芳賀紘]

軍国主義の復活とは？『小原台』49、3月15日[『防衛を考える』収録]

仕事熱心であれ[「新入社員に贈る私の人生訓」]『経営者』26-4、4月1日

ウイルソン大統領と私『文芸春秋』50-4、4月1日

猪木防衛大校長に聞く “反戦隊員” 事件の背景と問題点『朝雲』970、6月1日[インタビュー]

防衛問題雑感[3月29日関西経済連合会主催講演会・講演要旨]『経済人』26-6、6月1日

*学生に与うについて『[新聞]小原台』109、6月16日[『合同朝礼』収録]

[近況報告]『日本文化会議・月報』3、6月

ドイツのうまいもの『経済往来』24-7、7月1日

[近況報告]『日本文化会議・月報』4、7月

*政治思想について[講演速記]『修親』15-8～10、8月、9月、10月[加筆して「政治思想の根底的比較」と改題、『七つの決断 現代史に学ぶ』（実業之日本社、1975年）、『著作集』2収録]

第二次大戦後の世界―東ヨーロッパと冷戦の起源―[6月23日講話]『小原台』50、11月10日

管理学と国際関係論『[防衛大学校同窓会]会報』10、12月20日

1973（昭和48）年

“北京” 以後の日本の安全保障問題『国防』22-1、1月1日[座談会：高坂正堯、海原治]

*品格の向上に努めよう―新しい環境の中で『[新聞]小原台』112、2月8日[『合同朝礼』、『著作集』5収録]

緊張緩和と日本の安全保障『国際時評』97、5月1日[『現代政治の虚像と実像』収録]

[近況報告]『日本文化会議・月報』14、5月

“悪玉” 論に頼る急進主義[「正論」]『サンケイ新聞』6月25日[『正論』1、11月1日に転載。「繁栄がまねく政治不安」と改題、『九〇年代に向けて』収録。1998年1月4日付『産経新聞』再録]

防衛と外交―安全保障の考え方―『国民外交』25、7月10日[『安全を考える』、『著作集』5収録]

自衛隊は微動もせず “ナイキ基地判決” をつく『朝雲』1038、9月20日[座談会：林修三、漆山成美]

自衛力を持たない国は孤立する[「長沼基地訴訟 自衛隊違憲判決」談]『週刊朝日』78-41、9月21日

[近況報告]『日本文化会議・月報』18、9月

わが少年時代『時の動き』17-19、10月1日[インタビュー]

西独にみる防衛問題の悩み[「正論」]『サンケイ新聞』10月3日[『正論』2、1974年2月1日に転載]

1974（昭和49）年

“粘土脚”の経済大国[「正論」]『サンケイ新聞』1月5日[『正論』3、5月1日に転載。「脆き経済大国・日本」と改題、『九〇年代に向って』収録]

*歴史の深さを見直そう『月刊総合時事』[8-1]、1月

木村健康先生を偲ぶ『改革者』167、2月1日

[近況報告]『日本文化会議・月報』23、2月

*卒業生を送る－平和国家の理想について－『[新聞]小原台』119、3月20日[『合同朝礼』収録]

[談於河合栄治郎先生三十周忌追悼会]『饗宴』12、3月20日

国家の正しい位置づけを[「正論」]『サンケイ新聞』3月25日[『正論』5、7月1日に転載。「民主社会を守る国家の位置」と改題、『九〇年代に向って』収録]

平和と安全保障[1973年11月講演於日本国際問題研究所]『国際問題講演録』8、4月

忍び寄る“民主主義の危機”[「正論」]『サンケイ新聞』6月25日[『正論』7、9月1日に転載]

予測能力と意志の強さ[「談話ずいひつ」]『正論』5、7月1日

先進国の苦悩－防衛問題－『饗宴』14、7月20日[『安全を考える』、『著作集』5収録]

平和と安全保障『防衛アンテナ』168、7月25日[『国際問題講演録』8から転載]

[近況報告]『日本文化会議・月報』27、7月

“民主主義の危機”について『小原台』53、8月1日[『安全を考える』収録]

[近況報告]『日本文化会議・月報』28、8月

危険な集団ヒステリー[「正論」]『サンケイ新聞』9月11日[『正論』9、11月1日に転載]

[近況報告]『日本文化会議・月報』30、10月

新総裁の選出に要望する[「正論」]『サンケイ新聞』11月29日[『正論』13、3月1日に転載]

わが師を語る『[防衛大学校同窓会]会報』11、12月10日

先進国の苦悩－防衛問題－『防衛アンテナ』173、12月25日[『饗宴』14、7月20日から転載]

力の均衡について『日本文化会議月例懇談会収録集』67、12月25日

The approaching crisis of democracy『Japan Echo』1-2、Winter[「忍び寄る“民主主義の危機”」]『正論』7、9月1日の訳載]

1975（昭和50）年

自由社会における新聞の役割『サンケイ新聞』1月1日

河合栄治郎先生[「国を憂えた人びとくエッセイ特集」]『文芸春秋』53-2、2月1日

独善的な無防備平和論[「正論」]『サンケイ新聞』2月18日[『正論』15、5月1日に転載]

*卒業生に『[新聞]小原台』125、3月21日[『合同朝礼』収録]

国防論議 これだけは知っておきたい—核兵器と通常兵器について—『文芸春秋』53-4、4月1日[座談会：
高坂正堯、桃井真、木内信胤]

先進国の苦悩—防衛問題—[談、「特集 防衛とはなにか」]『月刊自由民主』233、5月15日

[近況報告]『日本文化会議・月報』38、6月1日

新しい保守本流の道を説く 佐藤元総理の逝去を悼んで[「正論」]『サンケイ新聞』6月16日[『正論』18、
8月1日に転載]

ファシズムは幻想か現実か『World』14、7月1日

日本は大丈夫だけれども[「オピニオン」]『諸君』7-7、7月1日

日米信頼確立の時『正論』17、7月1日

米国の困惑と日本の責任—外交と軍事との関係について—『諸君』7-8、8月1日[『安全を考える』収録]

民主主義国家における新しい愛国心『月刊ひろば』20-11、11月1日

昭和“50年”の教訓生かせ[「正論」]『サンケイ新聞』11月11日[『正論』24、1976年2月1日に転載]

非核中級国家・日本の国防『諸君』7-12、12月1日[シンポジウム：高坂正堯、桃井真、木内信胤]

[近況報告]『日本文化会議・月報』44、12月1日

1976（昭和51）年

“国際人”失格『世界週報』57-8、2月24日

*第二十期卒業生諸君へ—柔軟な頭脳と旺盛な気力・体力に期待する—『[新聞]小原台』131、3月20日[『合同朝礼』収録]

諸君は特別の専門職—猪木防大校長式辞—[「防大卒業式の訓示・式辞・祝辞から」]『朝雲』1170、4月1日

“自由世界”への自信持て[「正論」]『サンケイ新聞』4月27日[『正論』29、7月1日に転載。「今こそ自由
世界への自信を」と改題、『九〇年代に向けて』収録]

日本の安全保障について『諸君』8-5、5月1日[『安全を考える』収録]

イタリア “歴史的妥協”は望み薄[「正論」]『サンケイ新聞』6月24日[『正論』32、9月1日に転載]

[近況報告]『日本文化会議・月報』51、7月1日

沖縄返還の決定的瞬間『諸君』8-7、7月1日[『安全を考える』収録]

説得力を増した第二回防衛白書—防衛力整備に初めて理論づけを試みる—『国防』25-8、8月1日[座談会：
水間明、堂場肇]

愛国心の原点について『正論』31、8月1日[『安全を考える』収録]

戦争と平和を考える[「正論」]『サンケイ新聞』8月16日[『正論』34、11月1日に転載]

最近の世界と日本 議会制民主主義下での共産主義について『偕行』305、9月1日

安全保障から見た世界『小原台』57、9月10日[『安全を考える』収録]

*安保を再評価しよう－無視できぬ恐怖の均衡『西日本政経懇話会会報』9月

Japan's national security『Japan Echo』3-3、Autumn[「日本の安全保障について」(『諸君』8-5、5月1日)の訳載]

Japan's national security『Studia Diplomatica』29-2[「日本の安全保障について」(『諸君』8-5、5月1日)の訳載]

[近況報告]『日本文化会議・月報』54、10月1日

ソ連の“脅威”にどう対処するか『中央公論』91-11、11月1日[『安全を考える』、『著作集』5収録]

毛沢東の死去に際して考える『防衛大学校同窓会』会報』13、12月1日[『安全を考える』収録]

ロシア革命と中国革命『文芸春秋』54-12、12月1日[中嶋嶺雄との対談]

1977 (昭和 52) 年

指導者の条件[1976年12月11日講演要旨於第27回全国縦断「正論」講演会於三重県津市商工会議所ホール]『サンケイ新聞』1月1日

防衛「タダ乗り時代」の終り－激変する国際環境と日本の安全保障[「特集われらの安全」]『諸君』9-1、1月1日[座談会：久保卓也、竹内靖雄]

77 安全を考える年[「正論」]『サンケイ新聞』1月4日[『正論』38、3月1日に転載。「危機管理の発想」と改題、『九〇年代に向けて』収録]

風雲児吉田茂[「判断・意見」]『プレジデント』15-2、2月1日

愛国心と防衛意識『防衛アンテナ』198、2月10日[角田房子との対談]

在韓米軍撤退 長期の展望で[「正論」]『サンケイ新聞』3月15日[『正論』42、6月1日に転載]

*二一世紀の挑戦に備えよ『[新聞]小原台』139、3月27日[『合同朝礼』収録]

[近況報告]『日本文化会議・月報』60、4月1日

仮名の活用について[「500字提言」]『PHP』348、5月1日

国の安全と独立 いま若者たちに必要な決断『正論』41、5月20日[『軍事大国への幻想』収録]

[近況報告]『日本文化会議・月報』62、6月1日

技術革新と専守防衛下の防衛意識『防衛アンテナ』203、6月10日[村野賢哉との対談]

生かされぬ朝鮮戦争の教訓[「正論」]『サンケイ新聞』6月25日[『正論』45、9月1日に転載]

中村菊男君を惜しむ『改革者』207・208、7月1日

[近況報告]『日本文化会議・月報』63、7月1日

最近の国際情勢と日本の立場[6月16日講演要旨於日本証券経済倶楽部午餐会]『日本証券経済倶楽部レポート』115、7月12日

憲法と自衛力の限界[「特集 徹底点検 日本の防衛は大丈夫か」]『月刊自由民主』259、7月15日[『軍事大国への幻想』、『著作集』5収録]

[近況報告]『日本文化会議・月報』64、8月1日

自衛隊が日本を守るための課題『改革者』210、9月1日[7月6日於東京銀座レング屋。村松英子との対談]

ソ連、軍拡の心理[「正論」]『サンケイ新聞』9月27日[「正論」48、12月1日に転載]

吉田茂伝『週刊読売』36-44～54、37-1～54、38-1～46、10月15、22、29日、11月5、12、19、26日、12月3、10、17、24日、**1978年**1月1、8、22、29日、2月5日、12、19、26日、3月5、12、19、26日、4月2、9、16、23日、30日、5月14、21、28日、6月4、11、18、25日、7月2、9、16、23、30日、8月6、13、20日、9月3、10、17、24日、10月1、8、15、22、29日、11月5、12、19、26日、12月3、10、17、24日、**1979年**1月1、14、21、28日、2月4、11、18、25日、3月4、11、18、25日、4月1、8、15、22、29日、5月13、20、27日、6月3、10、17、24日、7月1、8、15、22、29日、8月5、12、19、26日、9月2、9、16、23、30日、10月7、14、21、28日、11月4、11日[「評伝吉田茂」上・中巻として刊]

*イデオロギーの時代は終わった『創政』11月[対談]

リーダーシップ喪失時代 戦後保守政治の原点を考える[「昭和史発掘」]『正論』48、12月1日[「軍事大国への幻想」収録]

1978 (昭和 53) 年

吉田茂伝を執筆して思うこと『日本文化会議・月報』69、1月1日

国際協同に徹する年[「正論」]『サンケイ新聞』1月4日[「正論」52、4月1日に転載]

いまこそ見直そう、日本の防衛『文芸春秋』56-3、3月1日[兼高かおるとの対談]

日中“正常”化の反面教師[「正論」]『サンケイ新聞』4月20日[「正論」56、7月1日に転載]

井の中の防衛を知らず[「諸君!」インタビュー]『諸君』10-6、6月1日[インタビュー]

法令の整備が真意なら・・・談、「来栖解任」キ裂走る防衛庁』『読売新聞』7月26日

シベリアン・コントロールを考える『朝雲』1293、8月10日[堂場肇、堀江正夫との鼎談]

学生に対する離任のことば『防衛アンテナ』219、8月10日[「著作集」5収録]

猪木さん大いに語る『防衛アンテナ』219、8月10日[インタビュー]

合同朝礼における講話[1月12日講話]『防衛アンテナ』219、8月10日[「合同朝礼」から転載]

日中条約締結 ムダではなかった6年[「正論」]『サンケイ新聞』8月14日[「正論」60、11月1日に転載]

文民統制を考える 一栗栖統幕議長の解任をめぐってー『文芸春秋』56-9、9月1日[「軍事大国への幻想」、『著作集』5巻、文芸春秋編『「文芸春秋」にみる昭和史 第3巻」(文芸春秋、1988年)収録]

七八年夏 日本の安全を考える[講演]『正論』58、9月1日

国際感覚を大切に 歴史の教訓を生かせ[「木曜評論」]『日経連タイムス』1510、9月7日[「著作集」5収録]

“あの時”の吉田茂さんを語る[吉田茂生誕一〇〇年特集]『月刊自由民主』273、9月15日[座談会：細川隆元、佐藤寛子、福永健司、柴田敏男]

吉田政治と今日 世界に通用する論理『朝日新聞』9月22日

「平和教育」「国防教育」のない日本『月刊ひろば』23-10、10月1日

日中平和友好条約締結に思う『正論』59、10月1日[座談会：法眼晋作、今井彬]

進む自衛隊の世代交代『朝日新聞』10月18日[インタビュー]

*総合安全保障を考える『月刊総合時事』[12-10]、10月

はばたけ民社 民社が伸びれば日本はよくなる『革新』100、11月1日[10月2日座談会：扇谷正造、楳元夫、鈴木俊子、佐々木良作、木内啓伍]

財団法人平和・安全保障研究会の設立について『経団連月報』26-11、11月1日

明治の軍人と昭和の軍人『正論』60～62、11月1日、12月1日、1979年1月1日[『軍事大国への幻想』収録]

明治時代を再評価する『代々木』19-11、11月1日

河合栄治郎 人・生涯・思想『正論』61、12月1日[座談会：土屋清、関嘉彦、江上照彦]

1979（昭和54）年

吉田茂『口上牧野父上様』[「発掘・手紙に残る歴史」]『諸君』11-1、1月1日

近代外交の主役たち 政治的基盤の強弱がカナメ[「特集不確実性時代の日本外交」]『世界週報』60-1、1月2日

一九七九年のアジア[「正論」]『サンケイ新聞』1月4日[『正論』65、4月1日に転載]

安全保障と政治の要諦『改革者』227、2月1日[座談会：春日一幸、吉田忠雄]

日本の防衛を考える[1978年11月20日関西経済連合会第14回臨時総会記念講演要旨]『経済人』33-2、2月1日

開かれた安全保障政策を『ステーツマン』12、2月1日[秦野章との対談]

土着の力『自警』61-2、2月10日

安全保障と平和国家 現実的平和主義めざせ[「正論」]『サンケイ新聞』2月19日[『正論』66、5月1日に転載。「軍備管理で平和国家を」と改題、『九〇年代に向けて』収録]

アジアの不安定と日本『経済倶楽部講演』361、3月20日

節度ある質の高い防衛力を[「正論」]『サンケイ新聞』3月21日[『正論』67、6月1日に転載]

阿川弘之著米内光政[書評]『文化会議』118、4月1日

安全保障論争、興すべし 森嶋・関“日英”往復平和論議を評す『正論』65、4月1日[『軍事大国への幻想』、「平和主義の類型—森嶋・関論争について」と改題して『著作集』5収録]

民主社会主義の政治『改革者』230、5月1日[第20回民主社会主義全国研究会議くなぜ民主社会主義を選ぶか>第2部会：林卓男、ジェームズ・スチュアート、堀江湛]

フォード前米大統領を迎えて 太平洋圏時代の到来 日米80年代の課題と展望『正論』66、5月1日[座談会：フォード、宮沢喜一、鹿内信隆、草柳大蔵]

日ソ関係とアジア情勢—恐怖の連鎖反応どう制御『月刊自由民主』281、5月15日[座談会：佐伯喜一、矢野暢、奥田敬和]

日中関係について[「随想」]『月刊カレント』16-6、6月1日

防衛原点としての青少年教育『月刊政界』1-6、6月1日[田崎喜朗との対談]

無敵ではなかった“皇軍” 自衛隊の装備近代化を急げ[「正論」]『サンケイ新聞』6月4日[『正論』70、9月1日に転載]

元号と心の“鎖国”『文化会議』121、7月1日

防衛力整備は国際的責任 ミンスク恐れて対応誤るな[「正論」]『サンケイ新聞』8月1日[『正論』72、11月1日に転載]

* “一億総教育評論家”の中で『創政』9月

新内閣に望む 国際危機多き八〇年代 派閥を超越した防衛努力を[「正論」]『サンケイ新聞』11月10日[『正論』75、1980年2月1日に転載]

八〇年代をどう生きるか[基調講演]『ひろば』[東北原子力懇談会発行広報誌]26、11月20日

八〇年代をどう生きるか『ひろば』[東北原子力懇談会発行広報誌]26、11月20日[パネル討論会：竹内宏、西丸震哉、藤原房子、草柳大蔵]

八〇年代の防衛を考える『国民外交』66、11月30日

*ご挨拶『[財団法人平和・安全保障研究所]講演集』1、月日未詳

1980（昭和55）年

吉田茂『正論』74～91、93～96、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、1981年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日[『評伝吉田茂』下巻として刊]

生存を欲すれば危機に備えよ 日米関係 一層の緊密化を[「正論」]『サンケイ新聞』1月4日[『正論』77、4月1日に転載]

混迷深める世界とわが国の対応—理性的行動と協調で破局への歯止めを—『国防』29-2、2月1日[座談会：神谷不二、堂場肇]

過大評価されるソ連軍勢力 いぜん米国が優勢 自由世界、一丸で平和守れ[「直言」]『山形新聞[夕刊]』3月4日

1980年代の防衛を語る—国際軍事情勢と日本『経済同友』379、3月25日

八〇年代の安全保障を考える『自由思想』15、5月9日

ソ連式思考法の傲慢性 強権振るう独善的官僚組織[「正論」]『サンケイ新聞』3月7日[『正論』79、6月1日に転載]

実業家の発言『文化会議』130、4月1日

世界の中の日本[講演]『北陸経済研究』24、5月25日

連合時代の安全保障 政策協定で自衛力強化を[「正論」]『サンケイ新聞』5月26日[『正論』81、8月1日に転載。「安全保障のための内政」と改題、『九〇年代に向けて』収録]

見逃すな静かな巨人インド 着々進む近代化 後ろ向きの中国と違う[「直言」]『山形新聞[夕刊]』5月28日

揺るがぬ米国の核戦略 ソ連優位は虚像 宣伝に惑わされまい[「直言」]『山形新聞[夕刊]』7月30日

御宅を訪ねたころ[「蠟山政道先生を追悼する」]『改革者』245、8月1日

[インタビュー「いま何していますか？」]『実業の日本』83-15、8月1日

危機管理体制の確立を急げ[「鈴木政権に望む」]『月刊自由民主』296、8月15日

脱皮した防衛アレルギー 西側の怠慢こそ脅威招く[「正論」]『サンケイ新聞』8月28日[「正論』84、11月1日転載、『著作集』5収録]

“総合安全保障研究グループ”の報告書について[「総合安全保障研究グループ報告書」中]『国防』29-9、9月1日

空想的平和主義から空想的軍国主義へ[「特集現代国家論の条件」]『中央公論』95-11、9月1日[「軍事大国への幻想』、『著作集』5収録]

真の防衛政策は何か 行き過ぎた軍事大国論を批判する[「特集日本の防衛」]『月刊自由民主』297、9月15日[坂田道太との対談]

最近の国際情勢について[9月5日講演於東京銀行協会銀行倶楽部]『銀行倶楽部』275、10月21日

マルクス主義者の硬直志向 “教条”奉じて“現実”見失う[「正論」]『サンケイ新聞』10月31日[「正論』86、1981年1月1日に転載]

キエフで見た愛国心教育 戦士の碑まもる高校生 悲惨な体験、若い世代に[「直言」]『山形新聞[夕刊]』11月4日

[参考人意見]『第93回国会衆議院 安全保障特別委員会議録』4、11月5日

国際的に怠慢な日本[「インタビュー安全保障私論」]『エコノミスト』58-48、11月20日[インタビュー]

日本、米国、NATOに共通する安全保障の諸問題—共同研究と提言(平和・安全保障研究所、米国大西洋会議)序文[ケニス・ラッシュとの連名]『世界週報』61-52、12月9日

防衛費伸び率 大蔵省、国を誤るか? 国際的に通用しない七増[「正論」]『サンケイ新聞』12月12日[「正論』88、1981年3月1日に転載]

防衛 米の対日要請いよいよ露骨に[「1981年の20大潮流を衝く—政治経済社会はこうなる—」]『週刊ダイヤモンド』68-53、12月20日

最近のソ連について『財団法人平和・安全保障研究所講演集』3、12月

From utopian pacifism to utopian militarism 『Japan Echo』7-4、Winter[「空想的平和主義から空想的軍国主義へ」(『中央公論』95-11、9月1日)の訳載]

1981 (昭和56) 年

日本の進路—「危機の八〇年代前半」をいかに生き抜くか—『改革者』250、1月1日[討議：関嘉彦、田久保忠衛、土屋清]

防衛論議の虚実『中央公論』96-1、1月1日[「軍事大国への幻想」収録]

年頭に思う「広くて深い世界」 “防衛の怠慢” 取り戻す年に[「正論」]『サンケイ新聞』1月5日[「正論』90、4月1日に転載]

信頼できる軍事小国へ[「インタビュー 安全保障 平和戦略」]『朝日新聞』1月15日[「ソ連は「脅威」か』<平和戦略1>(朝日新聞社、1982年4月20日)収録]

安全保障—九つの誤解『時事評論』12-10、1月20日

防衛論議について[1980年11月20日如水会定例晩餐会講演要旨]『如水会会報』610、2月1日

歴史の重み『文化会議』140、2月1日

憲法論議にみる危険性 幼稚極まる一元論 何を改正するかを冷静に[「直言」]『山形新聞[夕刊]』2月3日

現実的平和主義のディフェンス・ミニマム論—総合安全保障体制をどう構築するか—『週刊東洋経済』4283、3月21日[内田忠雄との対談]

Du pacifisme utopique au militarisme utopique 『Cahiers du Japon』3-7、printemps[「空想的平和主義から空想的軍国主義へ」(『中央公論』95-11、1980年9月1日)の訳載]

少な過ぎる防衛予算 見当違いの外圧論 国力相応の備えを急げ[「直言」]『山形新聞[夕刊]』4月6日

日米首脳会談を成功させよう 首相は防衛計画の明示を[「正論」]『サンケイ新聞』4月30日[『正論』93、7月1日に転載]

KGBの策謀、清水幾太郎氏ら“危機屋”を斬る『週刊現代』23-24、5月28日[藤原弘達との対談。「“危機屋”の脅しに乗るな—現実味のある防衛政策を打ち出せ」と改題、藤原弘達『弘達激談』(講談社、1982年)収録]

経済成長と競争の原理 勤労意欲奪う公営 社会主義の泣きどころ[「直言」]『山形新聞[夕刊]』6月8日

怠慢に過ぎた日本の防衛『正論』92[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』1]、6月15日[『著作集』5収録]

楯としての防衛力『中央公論』96-8、7月1日[上山春平との対談]

主権・独立と首相の指導性 平和条約調印三十年に思う[「正論」]『サンケイ新聞』7月29日[『正論』96、10月1日に転載]

再び緊張ポーランド 食料不足が引き金 秋口にかけて高まる不安[「直言」]『山形新聞[夕刊]』8月12日

告訴をめぐって[「猪木・中川防衛論争 上」]『世界日報』9月1日[インタビュー]

どう見るソ連の脅威[「猪木・中川防衛論争 中」]『世界日報』9月2日[インタビュー]

憲法改正は是か非か[「猪木・中川防衛論争 下」]『世界日報』9月3日[インタビュー]

今こそ欲しい指導力[「二つの吉田茂論 著者に聞く」]『朝日新聞[夕刊]』9月7日

偏見が作用する国際関係 日韓の間にもある 謙虚に反省し友好強化を[「直言」]『山形新聞[夕刊]』10月12日

誤解を与える米国のソ連資料 脅威と合わせ弱点の公表も[「正論」]『サンケイ新聞』10月14日[『正論』100、1982年1月1日に転載]

サンフランシスコの吉田茂[「特集 講和条約三十年を迎えて」]『月刊自由民主』310、10月15日

三高のころ[「思い出の一枚」]『革新』136、11月1日

どう展開対ソ戦域核交渉 米国が平和攻勢 対話の継続に意義がある[「直言」]『山形新聞[夕刊]』12月7日

1982 (昭和 57) 年

国際情勢と防衛力強化[いま日本が直面する課題を考える]『経営者』36-1、1月1日

おびえるクレムリン 独裁政権に“危機”—ポーランドでもろさ示す[「直言」]『山形新聞[夕刊]』1月6日

戦術的な失策と構造的な危機 解体たどるソ連帝国主義[「正論」]『サンケイ新聞』1月22日[『正論』104、4月1日に転載]

戦前と戦後『文化会議』152、2月1日

[公述人意見]『第96回国会衆議院 予算委員会公聴会議録』1、2月12日

自衛隊の防衛力は欠陥—20年間の怠慢には20%の増率を—[「衆院予算委員会公聴会 防衛・減税に関しての公述」]『国会月報』29-3、3月1日

“戦争と平和”の問題を考える 安易な悲観論にとらわれるな[「正論」]『サンケイ新聞』3月16日[『正論』106、6月1日に転載。「戦争と平和の問題」と改題、『九〇年代に向って』収録]

引退こそ最大の貢献[「田中角栄をどう思いますか?」]『諸君』14-4、4月1日

国守の通常兵器「核」には思わぬ弱点—フォ紛争に役立たず[「直言」]『山形新聞[夕刊]』4月26日

[田原総一郎のインタビュー記事「猪木正道(前防衛大学校長)に「日本=武士国家論」をぶつける!」中の発言]『週刊ポスト』14-19、5月7日

重い安全保障での日本の責務 沖縄復帰十周年に思う[「正論」]『サンケイ新聞』5月13日[『正論』109、8月1日に転載]

「日米同盟の危機」を煽るべからず—宿命的対立論も安保改定論も間違っている—『改革者』267、6月1日[インタビュー]

反核運動のゆがみを正す “二つのこと” [「正論」] 106、6月1日[『核兵器禁止への道—II—』<日本原爆論大系 5>(日本図書センター、1999年)収録]

共産主義者の術中にはまるな 狙いは自由世界の分割・支配[「正論」]『サンケイ新聞』8月6日[『正論』112、11月1日に転載。「共産主義者の挑戦」と改題、『九〇年代に向って』収録]

「中東問題」の核心 カギ握るイスラエル—対エジプト関係に注目[「直言」]『山形新聞[夕刊]』8月9日

教科書と安全保障[「教科書問題をどう思いますか?」]『諸君』14-10、10月1日

自民党総裁の選択基準は何か 高い政治倫理と政策判断力[「正論」]『サンケイ新聞』10月6日[『正論』115、1983年1月1日に転載]

徳川家康と吉田茂[「エッセイ」]『週刊現代』24-46別冊、11月20日

軍拡から農工業へ アンドロポフの課題—ソ連経済どう再建[「直言」]『山形新聞[夕刊]』11月22日

中曽根内閣への懸念と期待[「論壇」]『朝日新聞』11月29日

第三次世界大戦は起るか 英知と防衛努力とで防げ[「正論」]『サンケイ新聞』12月15日[『正論』117、1983年3月1日に転載]

1983 (昭和 58) 年

積極的能動的な平和国家をめざせ[「特集 八三年・日本と日本人への提言」]『経営者』37-1、1月1日[『著作集』5収録]

新内閣がいまやるべきこと [「正論」] 115、1月1日[高坂正堯との対談]

半世紀前の世界と日本 [「文化会議」] 163、1月1日

日本の道、国際協調 急げ摩擦解消—50年前の歴史、教訓に[「直言」]『山形新聞[夕刊]』1月4日

流動する世界—“曲がり角”—一九八三年を予測する—『国防』32-2、2月1日[座談会: 田久保忠衛、新井弘一、大倉清次]

ドイツと日本 五〇年前といま 孤立脱し平和と国際協調へ[「正論」]『サンケイ新聞』2月23日[『正論』120、5月1日に転載。『九〇年代に向って』収録]

教育と校内暴力 幼年期から懸命に働く親の姿見せよう[「直言」]『山形新聞[夕刊]』3月9日

Give Nakasone a chance 『Japan Echo』10-1、Spring[「中曽根内閣への懸念と期待」(『朝日新聞』1982年11月29日)の訳載]

西側の平和戦略を確立せよ 先進国首脳会談を出発点に[「正論」]『サンケイ新聞』5月14日[『正論』124、8月1日に転載]

吉田さんの名誉回復[「ずいひつ」]『月刊自由民主』329、5月15日

“おしん”から学ぶ 我慢の美德こそ—現代の青年に必要[「直言」]『山形新聞[夕刊]』5月17日

[「首相の防衛努力訴える演説」に対する談話]『朝日新聞』6月7日

ヒトラーとドイツ社会民主党[「研究余滴」]『青山学報』114、7月15日

日中友好の在り方 過去の歴史踏まえ—互いの理解が不可欠[「直言」]『山形新聞[夕刊]』7月20日

政府高官の任期は短すぎる 国家の安全保障に大害も[「正論」]『サンケイ新聞』7月27日[『正論』126、10月1日に転載。『著作集』5収録]

全体主義の現実 ナチス運動にみる一底が浅い画一統制[「直言」]『山形新聞[夕刊]』9月20日

幻想の世界に住む独裁政権 ソ連とヒトラーとの共通点[「正論」]『サンケイ新聞』9月29日[『正論』129、12月1日に転載]

日米協力の前にこわいものはない—レーガン大統領を迎えて[「世界の焦点」]『世界週報』64-45、11月8日

火を噴く第三世界 今年より来年…瀬戸際に行く米ソ対立 『東洋経済』4486、11月12日[座談会：法眼晋作、永井陽之助]

満点に近い中曽根外交 『内外情勢』2-8、11月20日[田久保忠衛との対談]

ベルリンに東西文化研究所を 旧大使館で西側の活性化に[「正論」]『サンケイ新聞』11月28日[『正論』131、1984年2月1日に転載]

安保問題の難しさ 防衛政策の「効果」—複眼的発想が必要[「直言」]『山形新聞[夕刊]』11月29日

“ほんものの防衛力” 整備への着手[「1984年の20大潮流 防衛」]『週刊ダイヤモンド』71-50、12月31日

1984（昭和59）年

見出しと内容とのズレ[「私達が新聞を信じない理由」]『諸君』16-1、1月1日

平和と環境の問題の為に[「(財)日本文化会議創立十五周年に寄せて」]『文化会議』175、1月1日

日本の保守政党 強固な存続基盤—人間の本性に根ざす[「直言」]『山形新聞[夕刊]』1月17日

日本の安全保障問題を考える 『実業界』660、661、2月1日、3月1日[インタビュー]

軍事力の意味—不使用の効用— 『文化会議』177、3月1日

無難な議院内閣制 米国などの大統領制—人気投票に陥る危険[「直言」]『山形新聞[夕刊]』3月14日

ヒトラーの政治思想 『青山国際政経論集』1、3月30日[『独裁の政治思想[増訂版]』、『著作集』2収録]

情報戦と日本の防衛『正論』133[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』9]、3月30日[『九〇年代に向って』収録]

文革の失敗から学んだ中国 革命の輸出あきらめ現代化[「正論」]『サンケイ新聞』4月17日[『正論』137、7月1日に転載]

平和・安全保障防衛の哲学『バンガード』5-5、5月1日[飯塚毅との対談]

米中ソとの外交[「直言」]『山形新聞[夕刊]』5月15日[『著作集』5収録]

日ソ専門家会議を終えて[「OPINION」]『世界週報』65-26、7月3日

墮落した政治の品位高めよう テロ・暴力・金権を排す[「正論」]『サンケイ新聞』7月10日[『正論』141、10月1日に転載]

僭主と君主の違い 分割ドイツの運命—ヒトラーに委ねた運命[「直言」]『山形新聞[夕刊]』7月18日

防衛庁・自衛隊は近代化せよ『正論』138[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』10]、7月30日[座談会：法眼晋作、丸山昂]

わが議会政治は順調?![「REVIEW 政治」]『This is』1-5、8月1日

妥当な訴訟指揮[「アンケート特集『角栄裁判』論争をどう思いますか」]『諸君』16-9、9月1日

ドイツに三重の安全性求めるソ連 過ぎたるは及ばざるが如し[「正論」]『サンケイ新聞』9月7日[『正論』144、12月1日に転載]

ドイツ語と私『経済往来』36-10、10月1日

われわれはほんとうに同盟国を知っているか—アメリカ研究の勧め『正論』141、10月1日[『著作集』5収録]

総裁選への疑問 次元低い派閥争い—英国の制度に学べ[「直言」]『山形新聞[夕刊]』10月8日

ソ連をなめるな恐れるな[インタビュー記事、「論壇第一線」]『内外情勢』3-7、10月20日

中曽根・レーガン再選に思う 指導制、世論、対ソ政策など[「正論」]『サンケイ新聞』11月20日[『正論』146、1985年2月1日に転載]

1985（昭和60）年

米ソ関係の新しい始まり『THIS IS』2-1、1月1日[座談会：岡崎久彦、伊藤憲一]

1985年は“慎重な楽観主義”の年[「正論」]『サンケイ新聞』1月4日[『正論』149、4月1日に転載。「慎重な楽観主義論」と改題、『九〇年代に向って』収録]

ヤルタ協定四十年[「直言」]『山形新聞[夕刊]』1月7日[『九〇年代に向って』収録]

言論の自由を守る[「中央公論100年によせて」]『中央公論』100-3、3月1日

文民統制について『文化会議』189、3月1日

90年目標に非核防衛力整備を[「正論」]『サンケイ新聞』3月14日[『正論』151、6月1日に転載]

新書記長に期待 若返ったソ連指導者—西側を知る世代[「直言」]『山形新聞[夕刊]』3月18日

防衛力の効率的増強を 三つの提言文書を読んで『正論』148[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』12]、3月30日[『著作集』5収録]

高校教育のゆがみと高等教育[「視点」]『内外情勢』4-1、4月20日

米ソ関係と日本の安全[1985年4月26日講演要旨於第127回全国縦断「正論」講演会於札幌市北海道経済センター、「日本を考える一億人の提言」]『サンケイ新聞』5月4日

戦後40年 自由世界の団結とは 米大統領西独墓地訪問に思う[「正論」]『サンケイ新聞』5月4日[『正論』154、8月1日に転載]

感情より理性代弁 立法府決議に望む—米下院の暴走教訓に[「直言」]『山形新聞[夕刊]』5月21日[「立法府決議にのぞむ」と改題、『九〇年代に向って』収録]

堂場肇先生を偲びて『青山国際政経論集』3、6月10日

ゴルバチョフ新政権の行方 新時代到来に光明—有能手ごわい相手『政策研究』93、6月15日

異常なソ連の秘密主義[「直言」]『山形新聞[夕刊]』7月29日[「ソ連秘密主義の疑問」と改題、『九〇年代に向って』収録]

広島・長崎40周年を考える 銘記すべき核戦争抑止の役割[「正論」]『サンケイ新聞』8月3日[『正論』157、11月1日に転載。「核戦争抑止への道」と改題、『九〇年代に向って』収録]

テレビへのハンディキャップ[「新聞エンマ帖」]『文芸春秋』63-11、10月1日

当事者能力を回復したソ連 日本はダイナミックに対応を[「正論」]『サンケイ新聞』10月4日[『正論』160、1986年1月1日に転載]

機能重視で「大綱」能力を目指す[「中期防衛力整備計画を語る」]『国防』34-11、11月1日[座談会：西広整輝、阪中友久]

米ソ関係に新しい展望 両首脳、対決から対話へ[「直言」]『山形新聞[夕刊]』12月2日

核時代の安全保障[「光と闇の新世界」]『大阪読売新聞』12月10～13日[『九〇年代に向って』収録]

1986（昭和61）年

1986年の世界と日本 まず国内態勢を固めよ[「正論」]『サンケイ新聞』1月4日[『正論』163、4月1日に転載]

復権めだつ保守主義[「直言」]『山形新聞[夕刊]』2月3日[「保守主義がもたらす平和」と改題、『九〇年代に向って』収録]

僭主から民主への道は遠い フィリピンの混迷に思う[「正論」]『サンケイ新聞』2月17日[『正論』165、5月1日に転載]

愛国心の歴史教育『正論』164[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』15]、4月5日

政党の責任『月刊自由民主』364、4月15日

正統を戴く国の安定感[「天皇“再発見”の試み 日本文化・思想の核心を解く」]『Voice』101、5月1日[インタビュー]

政治家の建前と本音 民主政治の原点に返れ[「直言」]『山形新聞[夕刊]』5月5日

自民党総裁公選の問題点三つ 首相在任中、避けるのが鉄則[「正論」]『サンケイ新聞』5月24日[『正論』168、8月1日に転載]

“成熟”した有権者 自民圧勝と社党の惨敗[「直言」]『山形新聞[夕刊]』7月14日

宰相の条件『正論』168、8月1日[「大宰相への条件」と改題『九〇年代に向って』収録。『政治の文法』収録]

ゴ書記長訪日とソ連の挑戦 いまや軍事力だけが頼り[「正論」『サンケイ新聞』9月13日[『正論』172、12月1日に転載]

複雑怪奇な軍備管理[「直言」『山形新聞[夕刊]』9月22日[「軍備管理の隘路」と改題、『九〇年代に向って』収録]

政治指導者への提言 これだけすれば大宰相になれる『正論』170、10月1日[『九〇年代に向って』、『政治の文法』収録]

史観と史眼『文化会議』208、10月1日

成熟した日本型議会政治 機能する“多数・少数決” [「正論」『サンケイ新聞』11月27日[『正論』174、1987年2月1日に転載。「日本型議会政治への提言」と改題、『九〇年代に向って』収録]

日本外交は軟弱か[「直言」『山形新聞[夕刊]』12月3日[「外交に必要な国民意識」と改題、『九〇年代に向って』収録]

共産主義研究五十五年『歴史と未来』13、12月7日

1987（昭和62）年

世界平和の条件とは何か「ベストはベターの敵」だ[「正論」『サンケイ新聞』1月3日[『正論』176、4月1日に転載。「世界平和への条件」と改題、『九〇年代に向って』収録]

危険潜む平和攻勢 ソ連の狙い見極める[「直言」『山形新聞[夕刊]』3月9日

学兄、仁兄[「土屋清氏を追悼する」]『改革者』323、5月1日[「学兄、仁兄を失う」と改題、『土屋清』（土屋清追悼集刊行委員会、1988年3月10日）収録]

社会主義の歴史12 関嘉彦著[「本の月旦」]『Kakushin』201、5月1日

安全保障条約の原点に戻れ 緊迫する日米関係を考える[「正論」『サンケイ新聞』5月2日[『正論』180、8月1日に転載]

「盲信」を粉砕した「ある体験」[「特集 人生観の訂正」]『新潮45』6-7、7月1日

極東ソ連軍を削減せよ 日ソ関係改善の大前提 [「直言」]『山形新聞[夕刊]』7月13日

米ソの“冷戦”的共存を認識せよ ラジカセ破壊事件の背景[「正論」]『サンケイ新聞』7月29日[『正論』182、10月1日に転載]

日中関係を考える『文化会議』218、8月1日

他人事でない対米悲観論 ヨーロッパで考えたこと[「正論」]『サンケイ新聞』10月6日[『正論』185、1988年1月1日に転載]

平和への大きな一歩 米ソのINF基本合意 [「直言」]『山形新聞[夕刊]』10月8日

総裁選に「違憲」の疑い『文芸春秋』65-14、11月1日

最近に於ける東西関係『神陵文庫』4、11月20日

民主主義の土台を崩す「住民パワー」[「そろそろ民主主義亡国論」]『新潮45』6-12、12月1日

吉田さん逝去二十年[「随想」]『内外情勢』6-9、12月20日

衰退する社会主義思想 ロシア革命から 70 年 [「直言」]『山形新聞[夕刊]』12 月 22 日

1988 (昭和 63) 年

核軍拡から地球防衛へ 1988 年の視点をさぐる[「正論」]『サンケイ新聞』1 月 5 日[『正論』188、4 月 1 日に転載]

*ロシア革命七〇年—国家死滅の悪夢『日本国際政治学会ニュース・レター』2 月

条件つきで賛成する[「社・民和解」の是非を問う—民社党への提言]『改革者』332、3 月 1 日

“西風は東風を圧す”の認識を 歯切れ悪い NATO 最終宣言[「正論」]『サンケイ新聞』3 月 10 日[『正論』190、6 月 1 日に転載]

代償大きい“自由化” ゴルバチョフ改革の明暗[「直言」]『山形新聞[夕刊]』3 月 22 日

鎖国政策を変えさせよ[「見た・聞いた・考えた 北朝鮮と金王朝」]『現代』22-4、4 月 1 日

モスクワ米ソ会談の大きな意義 成果を急ぐ両首脳の背景[「正論」]『産経新聞』5 月 31 日[『正論』193、9 月 1 日に転載]

崩れそうもない自由圏の優位 正論欄 15 周年記念日を迎えて[「正論」]『産経新聞』6 月 25 日[『正論』193、9 月 1 日に転載]

政治・経済大国へ指針 内外に粘り強い努力[「直言」]『山形新聞[夕刊]』7 月 28 日

自衛隊が反省すべきこと 潜水艦と釣り船の衝突に思う[「正論」]『産経新聞』8 月 1 日[『正論』195、11 月 1 日に転載]

「最大の罪は情報の遅れだ」[談「潜水艦衝突で浮上した制服組の「常識」の非常識」]『週刊読売』47-34、8 月 14 日

正念場の中国現代化 経済協力は必要不可欠[「直言」]『山形新聞[夕刊]』10 月 18 日

経済超大国から政治大国へ『正論』195、11 月 1 日[『政治の文法』収録]

[「ケネディと私 あの日あの時そして現在」談]『朝日ジャーナル』30-50、12 月 2 日

1989 (昭和 64・平成元) 年

「膨張主義」の禍根を絶つ 国を救った“無私”のご決断[「正論」]『産経新聞』1 月 12 日[『正論』200、4 月 1 日に転載]

心から敬愛申し上げていた[「10 氏が語るわたしの天皇感覚」]『朝日ジャーナル』31-3、1 月 20 日

陛下は憲法と法秩序を尊重[「時代の目 昭和のこころ」]『毎日新聞[夕刊]』1 月 27 日[『昭和のこころ』(毎日新聞社、1989 年 7 月 25 日)収録]

天皇・軍部・近代化『国防』38-3、3 月 1 日

昭和史の天皇『正論』199、3 月 1 日[『政治の文法』収録]

象徴 歴史が生んだ知恵[「昭和から平成へ」]『THIS IS』6-3、3 月 1 日[『政治の文法』収録]

冷戦に勝ったアメリカ 強固な西側同盟を背景に[「直言」]『山形新聞[夕刊]』3 月 14 日

過去を正しく理解・評価せよ[「論壇」]『朝日新聞』3 月 30 日

冷戦の彼方『文化会議』238、4月1日

自衛隊員の階級改称は可能 精神的な処遇こそ根本問題[「正論」]『産経新聞』4月5日[「正論」203、7月1日に転載]

ソ連はなぜ冷戦に敗れたか『正論』201、5月1日[「政治の文法」収録]

世界の危機への対処が緊要 宇野新内閣に期待するもの[「正論」]『産経新聞』6月7日[「正論」205、9月1日に転載]

戦後責任—十五年戦争と植民地支配責任の受けとめ方『法律時報』61-9、8月1日[座談会：和田春樹、内海愛子、大沼保昭]

革命の明暗[「随想」]『内外情勢』8-5、8月20日

スターリン帝国は解体する ポーランド政変が持つ意味[「正論」]『産経新聞』8月31日[「正論」208、12月1日に転載]

消費税の大幅修正を貫き存在意義をはっきりさせよ[「民社党再建への道—私の提言」]『改革者』351、10月1日

自民党は再起できるか『正論』206、10月1日[「政治の文法」収録]

レーニン[「随筆」]『経済往来』41-11、11月1日

ネオ・ナショナリズムを警戒する[「特集 平成元年を採点する」]『文芸春秋』67-13、12月1日[「冷戦の終結と日米対立」と改題、『政治の文法』収録]

ソ連帝国は正当性を失った 米ソ首脳マルタ会談に思う[「正論」]『産経新聞』12月8日[「正論」211、1990年3月1日に転載]

Can the LDP recover? 『Japan Echo』16-4、Winter [「自民党は再起できるか」] (『正論』206、10月1日)の訳載]

1990 (平成2) 年

日華平和条約の締結『青山国際政経論集』15、1月1日

ソ連の破産と冷戦以後[1989年11月28日講演「米ソ関係と日本」於経団連会館]『正論』210、2月1日[「ソ連の破産—講演『米ソ関係と日本』」と改題、『政治の文法』収録]

権力亡者に安楽死を『文芸春秋』68-3、2月20日

余白を語る 頭で青写真を描く社会改革は無理だ[談]『朝日新聞』2月23日

総選挙を考える 国民は何を審判すべきか『文芸春秋』68-4、3月1日[林健太郎との対談]

逃げ腰・自民党は猛省せよ 日米構造協議は挙党的課題[「正論」]『産経新聞』3月9日[「正論」214、6月1日に転載]

低迷する民社党を叱る[「特集 総選挙で国民は何を選択したのか」]『中央公論』105-4、4月1日

ドストエフスキーの世界 自分と出会う『朝日新聞』4月2日

ソ連圏の崩壊『日本工業倶楽部第九二四回木曜講演会講演要旨』4月26日(講演於日本工業倶楽部)[「政治の文法」収録]

ポスト冷戦時代の国家安全保障『読売新聞』5月14日[座談会：進藤栄一、佐藤昌盛、中嶋嶺雄、武者小

路公秀]

日本の責任の所在は明快に 盧大統領へのお言葉に思う[「正論」『産経新聞』5月17日[「正論」215、7月1日に転載]

1990年代の宰相論『政策研究』100、5月21日[『政治の文法』収録]

[記事「痛惜の念」思いさまざま……識者の声」中の談]『読売新聞』5月25日

元号を再考する『文化会議』252、6月1日

「日本の責任により」の一句を…[「5.24 盧泰愚来日 「お言葉」問題でわかった韓国人の心の奥」]『週刊読売』49-22、6月3日

経済超大国の礎に「摩擦」含め将来も安全に寄与[「日米安保30年」]『日本経済新聞』6月10日

ソ連の前途は不透明である 混迷を露呈したソ連の共産党大会[「正論」]『産経新聞』7月18日[「正論」218、10月1日に転載]

正しい日米関係のために 両国間の文法を尊重しよう『正論』216、8月1日[「日米関係の文法」と改題、『政治の文法』収録]

「信頼される国家」を目指せ[「論壇」]『朝日新聞』8月14日

Taking the democratic socialists to task 『Japan Echo』17-2、Summer[「低迷する民社党を叱る」](『中央公論』105-4、1990年4月1日)の訳載]

一九九〇年代の安全保障[「特集 1990年代の安全保障」]『新防衛論集』18-2、9月15日[『政治の文法』収録]

日本の孤立[「随筆」]『経済往来』42-10、10月1日

憲法を逃げ口上に使うな[「日本の踏み絵」]『文芸春秋』68-11、10月1日[田原総一郎のインタビュー]

平和協力法と日本の試練『読売新聞』10月14日[座談会：大沼保昭、ゲブハルト・ヒルシャー]

集団的自衛権否定できない[談「自衛隊の海外派遣 学者の見方」]『朝日新聞』10月16日

偉大な成果あげた正論路線 言論人・鹿内信隆の真骨頂[「正論」]『産経新聞』10月30日[「正論」221、1991年1月1日に転載]

独裁56年[最終講義]『青山国際政経論集』18、10月31日[『政治の文法』収録]

政治思想について－保守主義、自由主義、民主主義、共産主義『防衛学研究』4、11月30日

共産主義の幻想と解体『正論』220、12月1日[『政治の文法』収録]

1991（平成3）年

積極的平和主義への転換[「憲法を考える」]『THIS IS 読売』1-10、1月1日[「湾岸危機によせて」と改題、『政治の文法』収録]

人物評価に同感[「昭和天皇独白録－私たちの衝撃」]『文芸春秋』69-1、1月1日

本当の平和国家への元年に 行き詰まった九条平和主義[「正論」]『産経新聞』1月7日[「正論」223、3月1日に転載]

戦乱で協力できるのは自衛隊のみ[「論壇」]『朝日新聞』1月24日

ブッシュの勇断を高く評価したい[「湾岸戦争 私はこう考える」]『週刊文春』33-4、1月31日

河合栄治郎・西尾末広生誕百周年と民社党[「特集 いま民社党の初心を問う」]『Kakushin』246、2月1日

ある自由主義者の肖像 生誕百周年に河合栄治郎をしのぶ『正論』223、3月1日[「河合栄治郎生誕百周年」と改題、『政治の文法』収録]

真珠湾 50 周年を記念しよう 日本国民守るのは日米同盟[「正論」]『産経新聞』3月7日[『正論』225、5月1日に転載]

連邦解体から日ソの新構築へ[「大特集 引き裂かれるソ連」]『サンサーラ』2-3、3月10日[「ソ連の解体と日ソ関係」と改題、『政治の文法』収録]

歴史的壮挙としての戦争『文芸春秋』69-4、4月1日[北岡伸一との対談]

人的国際貢献最後の機会だ[「破られたタブー 自衛隊掃海艇派遣」]『毎日新聞』4月25日

日本の対米依存をどうみるか『世界』554、5月1日[ロナルド・ドーアとの対談。ロナルド・ドーア編『日本との対話 不服の諸相』(岩波書店、1994年)収録。英訳: Reviewing the structure of Japan-U.S. relations 『Japan Echo』19-Special issue]

自衛隊の参加は不可欠だ 積極的にになったPKO議論[「正論」]『産経新聞』5月29日[『正論』228、8月1日に転載]

自衛官の処遇を改善しよう[「直言」]『世界週報』72-21、6月4日

政治家は軍事を、自衛隊は政治を『季刊アステイオン』21、7月1日[インタビュー]

対ソ援助の機は熟していない[「直言」]『世界週報』72-28、7月23日

軍・産複合体の粉砕がカギ サミット対ソ支援の有効性[「正論」]『産経新聞』7月24日[『正論』230、10月1日に転載]

併立制と併用制『文化会議』266、8月1日

自衛隊 法律を整備し有事即応の能力を[談「地球儀から日本を考える」]『朝日新聞[夕刊]』8月7日

大国として生き残るロシア エリツィンの尋常でない力[「正論」]『産経新聞』8月28日[『正論』231、11月1日に転載]

The gulf war and pacifist Japan 『Japan Echo』18-2、Summer[「歴史的壮挙としての戦争」(『文芸春秋』69-4、1991年4月1日)の訳載]

「党官僚」のゴルビーには民衆の心理が分からない[「ソ連崩壊 私はこう考える」]『週刊文春』33-33、9月5日

民主主義の正当性[「直言」]『世界週報』72-36、9月24日

真珠湾五十周年とこれからの日本『ディフェンス』10-1、10月10日

目測力、情熱、責任感を 自民党の宮沢新総裁に望む[「正論」]『産経新聞』10月28日[『正論』233、1992年1月1日に転載]

小選挙区制への妄信は危い[「随筆」]『経済往来』43-11、11月1日

「ユートピア」の葬送『諸君』23-11、11月1日[座談会: 林健太郎・武藤光朗。『諸君!』の30年 1969～1999』(文芸春秋、1999年)収録]

共産党の解体とソ連の行方[「今月の巻頭言」]『正論』231、11月1日

マルクス・レーニンへの弔辞[「共産主義大研究「20世紀の虚構」]『THIS IS 読売』2-8、11月1日
世界新秩序と日本[「論点」]『読売新聞』11月1日
PKFにも積極参加を[「日曜論争」]『毎日新聞』11月17日
難しい日米関係に対処する宮沢首相[「直言」]『世界週報』72-44、11月19日
必敗の確信と国民の義務と[「大特集 私の十二月八日」]『正論』232、12月1日
辻清明君を想う[「追悼辻清明」]『みずず』33-12、12月15日

1992（平成4）年

“かけがえない人格”を求めて—河合榮治郎さんの筋金入りの自由主義に触れた[「私の生き方」]『公研』30-1、1月1日[インタビュー]
共産党独裁の幻想と実態『警察公論』47-1～3、1月5日、2月5日、3月5日
自国の利益を犠牲にし黙々と国際社会に奉仕[「二世対話」]『読売新聞[夕刊]』1月9日
「法則」熟知とは倣岸な 最低生活保障努力は評価を[「インタビュー 社会主義のゆくえ」]『朝日新聞[夕刊]』1月16日[『どうみる社会主義のゆくえ』(朝日新聞企画報道室)新興出版社、1992年6月25日)収録]
陰徳を積む年[「直言」]『世界週報』73-3、1月28日
許せない皇国史観の復活[「直言」]『世界週報』73-12、3月24日
首相しか務まらない—徹な反軍国主義者[吉田茂「吉田か鳩山か比較論断」]『THIS IS 読売』3-1、4月1日
平和のために冷戦に“敗北” 敗軍の将ゴルバチョフの手際[「正論」]『産経新聞』4月11日[『正論』239、7月1日に転載]
賛成 中国国民も心開く アジアの安定に寄与[「保守の対立なお深く どうなる天皇訪中」]『朝日新聞』5月21日
自衛隊アレルギーの克服[「直言」]『世界週報』73-20、5月26日
日本軍侵略地へ自衛隊出すな[談「カンボジア支援」]『朝日新聞』6月2日
二つの占領軍史観[「直言」]『世界週報』73-28、7月21日
お言葉心配ない[談「天皇訪中、期待と懸念」]『日本経済新聞』8月11日
中国人が心を開く機となる 天皇陛下ご訪中と日中関係[「正論」]『産経新聞』8月26日[『正論』244、12月1日に転載]
憂うべき青少年人口の減少[「直言」]『世界週報』73-36、9月22日
自前防衛の必要痛感[「軍拡」図るアジア各国]『毎日新聞』9月26日
平清盛—陽性な大器[「大特集 私の好きな日本人」]『正論』242、10月1日
中国人の心開くお言葉『産経新聞』10月24日
防衛学研究会第1回発表会20周年『防衛学研究』8、10月27日
中国人民の心開いた[「陛下ご訪中の意義」]『産経新聞』10月29日

金権・腐敗は右傾・孤立招く 自民党ドタバタ劇の危険性[「正論」]『産経新聞』11月4日[『正論』245、1993年1月1日に転載]

外国に包囲されないために[「直言」]『世界週報』73-44、11月17日

派閥の効用と弊害[「想う」]『商工ジャーナル』18-12、12月1日

1993（平成5）年

ヴェーラ・フィグネル『回想記・暗黒ロシア』[「特集 懐かしい本懐かしい一冊」]『正論』245、1月1日

社会党も憲法論議参加を[談]『産経新聞』1月14日

単純小選挙区制を断固排す[「論壇」]『朝日新聞』1月19日

社会党が統治能力を持つ条件[「直言」]『世界週報』74-3、1月26日

小選挙区制への疑問『経済往来』45-2、2月1日

民族主義の栄光と悲慘[「直言」]『世界週報』74-12、3月23日

日米同盟はなぜ必要か[「直言」]『世界週報』74-20、5月25日

野球とサッカー[「想う」]『商工ジャーナル』19-6、6月1日

妖怪共産主義の打倒に成功 正論は今後一つから多数へ[「正論」]『産経新聞』6月25日[『正論』253、9月1日に転載]

“暴風雨”に耐えうる内閣を[「私の緊急組閣案」]『正論』251、7月1日

日本と国連『文化会議』289、7月1日

社会党委員長に訴える[「直言」]『世界週報』74-28、7月20日

安保政策は一貫性重要[談]『産経新聞』8月12日

細川首相が果たした歴史的使命[「直言」]『世界週報』74-36、9月21日

反省のない自民党と社会党[「正論」]『産経新聞』11月16日

大蔵省的発想の光と影[「直言」]『世界週報』74-44、11月16日

1994（平成6）年

第一次大戦の独から学ぶ教訓[「正論」]『産経新聞』1月17日

大戦略の欠落と被虐症[「直言」]『世界週報』75-2、1月25日

河合教授没後 50年を迎えて[「論壇」]『朝日新聞』2月15日

侵略戦争論議の視点[「直言」]『世界週報』75-11、3月22日

昔の日本、今の日本[「想う」]『商工ジャーナル』20-4、4月1日

歴史の歪曲と偽造[「直言」]『世界週報』75-20、5月31日

いまだシデオロジーからの解放[「直言」]『世界週報』75-25、7月5日

マルクス主義と個人独裁 金日成主席の死をめぐって『朝日新聞[夕刊]』7月12日

首相の自衛隊合憲発言は英断[「正論」]『産経新聞』7月27日
日本外交のハンディキャップ[「日本外交への提言」インタビュー]『外交フォーラム』7-8、8月5日
侵略の否定は孤立を招く[「直言」]『世界週報』75-33、9月6日
派遣自衛隊の機関銃数再考を[「正論」]『産経新聞』9月19日
独裁の概念について『防衛学研究』12、13、10月31日、1995年3月31日
日本の医療[「想う」]『商工ジャーナル』20-11、11月1日
国際条約を厳守する義務[「直言」]『世界週報』75-41、11月1日
軍国主義と空想的平和主義[「回想・戦後五十年」]『正論』268、12月1日
新進党の政策を問う[「直言」]『世界週報』75-49、12月27日

1995（平成7）年

大震災で感動したこと[「想う」]『商工ジャーナル』21-3、3月1日
首相官邸と自衛隊の距離[「直言」]『世界週報』76-8、3月7日
歴史からの警告 自称平和主義者の偽善えぐる[林健太郎『歴史からの警告』の書評]『産経新聞』4月30日
不戦決議への疑問[「座標」]『世界週報』76-16、5月2日
ヒトラーと科学技術『DISA』3-1、6月10日
百兆円の国土改造計画[「座標」]『世界週報』76-22、6月20日
日米関係を考える[「正論」]『産経新聞』6月27日
日本の教育に欠けているもの—古典と現代史[「想う」]『商工ジャーナル』21-8、8月1日
改憲論議[「戦後50年日本の実像」]『読売新聞』8月18日
社会党が乗り越えるべきもの[「座標」]『世界週報』76-31、8月29日
第二次世界大戦—誤算の連続—『DISA』3-2、9月10日
アメリカ研究のあり方『天理大学アメリカス学会ニューズレター』6、9月15日
安保条約破棄は日本の亡国[「正論」]『産経新聞』10月24日
防衛学の研究と学習について『防衛学研究』14、10月31日
避けたい“米中対立”という最悪のシナリオ [「APEC 大阪会議をにらむそれぞれの事情—ASEAN 諸国」]『フォーブス日本版』4-11、11月1日
空想的平和主義[「座標」]『世界週報』76-41、11月7日
自衛隊の“名存実亡”化を憂慮[「正論」]『産経新聞』11月8日
日本の外交路線 日米安保を原点に近隣国の信頼を[「21世紀 日本の夢と挑戦」]『東洋経済』5318、11月18日
沖縄の抗議にこたえる道[「論点」]『読売新聞』11月22日

冷戦と科学・技術『DISA』3-3、12月10日

ヘーゲル法哲学批判序論[「古典礼賛」]『読売新聞』12月10日

1996（平成8）年

近隣諸国との友好について[「想う」]『商工ジャーナル』22-1、1月1日

外国の日本不信[「座標」]『世界週報』77-1、1月9日

橋本新内閣に対する注文[「正論」]『産経新聞』1月15日

『翔ぶが如く』[「追悼大特集 司馬遼太郎 大いなる遺産 各界司馬ファンが薦める「私の一冊」」]『週刊文春』38-8、2月29日

歴史から学ぶ[巻頭言]『軍事史学』31-4、3月1日

教育を考える『DISA』3-4、3月10日

不透明性は脅威のもと[「座標」]『世界週報』77-11、3月26日

集団的自衛権の怪を克服せよ[「正論」]『産経新聞』4月9日

二つの世界大戦『DISA』4-1、6月10日

空想的平和主義に決別を[「集団的自衛権」]『This is 読売』7-4、7月1日

吉田茂の呪縛[「21世紀へのコンセプト」]『Voice』223、7月1日[インタビュー]

“平和主義”の危険な猛毒[「正論」]『産経新聞』8月1日

ドイツで生れた二人の先生[「想う」]『商工ジャーナル』22-8、8月1日

軍国日本の興亡を考える『DISA』4-2、9月10日

橋本・クリントン会談への期待[「正論」]『産経新聞』9月23日

人間は一回限りのもの[「生老病死の旅路」]『読売新聞[夕刊]』9月28日

二人の恩師[高坂正堯追悼文]『季刊アステイオン』42、10月1日

ロシア革命とは何だったのか[「日本外交への提言」]『外交フォーラム』9-11、10月5日

ヒトラーとスターリン—二十世紀の二大悪魔『DISA』4-3、12月10日

上級公務員を一括採用せよ[「正論」]『産経新聞』12月12日

1997（平成9）年

胃病と巨人軍[「想う」]『商工ジャーナル』23-1、1月1日

日本が発言し、行動する年[「正論」]『産経新聞』1月18日

教育を考える—アメリカ教育の特長—『DISA』4-4、3月10日

近頃驚いたこと—議会政治について[「想う」]『商工ジャーナル』23-4、4月1日

戦争を「放棄」した半世紀の福音と反省『This is 読売』8-3、5月1日

ヒトラーと妻の死『DISA』5-1、6月10日

宗教の衰微と社会教育の欠如『商工ジャーナル』23-8、8月1日

日本の新聞『DISA』5-2、9月10日

妙高と黒姫[「随想」]『This is 読売』7-10、10月1日

「改憲する側の論理」談『週刊現代』39-42、11月15日

日本の教育『DISA』5-3、12月10日

1998（平成10）年

リーダーを待望する[「正論」]『産経新聞』1月7日

デフレーションの猛毒『DISA』5-4、3月10日

一刻も早く長期減税を[「正論」]『産経新聞』4月8日

ドイツ文化の粋が集まる町[「想う」]『商工ジャーナル』24-5、5月1日

文科と理科『DISA』6-1、6月10日

正論が示した日本の進路[「正論」]『産経新聞』6月25日

バスに乗り遅れるな！『DISA』6-2、9月10日

ドイツとフランス[「想う」]『商工ジャーナル』24-10、10月1日

猪木正道回顧録『外交フォーラム』11-10～12、13-1～4、10月1日、11月1日、12月1日、**2000年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日[『私の二十世紀 猪木正道回顧録』（世界思想社、2000年）刊]

正論とデマゴギー[「創刊25周年記念巻頭論文 正論大賞受賞者のメッセージ」]『正論』315、11月1日

日本とドイツ—運命の共同体？—『DISA』6-3、12月10日

1999（平成11）年

日本の政治をよくするには[「正論」]『産経新聞』1月4日

私が戦った空想的平和主義者たち[「20世紀の証言」]『This is 読売』9-12、3月1日

関東と関西『DISA』6-4、3月10日

無意味な議論が多すぎる[「防衛力を考える ガイドライン・私の視点」]『毎日新聞』3月24日

一党独裁の崩壊[「想う」]『商工ジャーナル』25-4、4月1日

アメリカの復元力『DISA』7-1、6月10日

空想的平和論と軍事力『RIPS Newsletter』131、6月28日

妄想からの解放[「想う」]『商工ジャーナル』25-9、9月1日

マルクスからの解放『DISA』7-2、9月10日

猪木正道回顧録『外交フォーラム』12-11、12、13-1～4、10月1日、11月1日、2000年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日[『私の二十世紀 猪木正道回顧録』（世界思想社、2000年4月10日）刊]

資本主義と社会主義『DISA』7-3、12月10日

2000（平成 12）年

- 20 世紀の教訓に学ぶ[「正論」]『産経新聞』1 月 3 日
- 日本外交を想う[「想う」]『商工ジャーナル』26-3、3 月 1 日
- 異様な日本の精神的状況『DISA』7-4、3 月 10 日
- 指導力備えた政治家出でよ[「正論」]『産経新聞』3 月 22 日
- 歴史の歪曲『防衛調達と情報管理』1-1、5 月 15 日
- 「護憲」を高唱するのは時代錯誤 問題点を論議し、憲法改正に着手せよ[「正論」]『産経新聞』6 月 2 日
- 20 世紀は人類にとって“痛い時代” その痛みを日本人は忘れていないか[「書想倶楽部」]『Sapio』12-11、6 月 28 日[インタビュー]
- 占領軍の就職要請に「ノー」[「国家喪失の原点を問う 進駐軍がやって来た！－80 人の証言」]『諸君』32-7、7 月 1 日
- 緊張感を取り戻し “たるみ” を一掃せよ[「正論」]『産経新聞』7 月 14 日
- 私の満十七歳[「想う」]『商工ジャーナル』26-8、8 月 1 日
- 空想的平和主義からの決別を 自戒しつつ、憲法改正に着手せよ[「正論大賞受賞者から 21 世紀日本人への伝言」]『正論』336、8 月 1 日[『日本の正論 21 世紀日本人への伝言』（産経新聞ニュースサービス、2001 年）収録]
- 人種的偏見『防衛調達と情報管理』1-2、8 月 15 日
- これからの日露関係 辛抱強く、粘り強く交渉が正道[「正論」]『産経新聞』9 月 20 日
- 一億民主制を考える『防衛調達と情報管理』1-3、11 月 15 日
- ヒトラーと日本の自爆『外交フォーラム』13-13、12 月 1 日
- 二十世紀をふり返る[「想う」]『商工ジャーナル』26-12、12 月 1 日

2001（平成 13）年

- 日本は 21 世紀を生き残れるか[「正論」]『産経新聞』1 月 8 日
- 平和と軍事力『防衛調達と情報管理』1-4、2 月 15 日
- もう凡庸な首相は要らない[「正論」]『産経新聞』3 月 22 日
- 首相公選制を推す[「首相公選制私はこう見る」]『国民新聞』3 月 25 日
- 想う…たるみー日本と世界…『防衛調達と情報管理』2-1、5 月 15 日
- 戦前悪かったこと良かったこと『防衛調達と情報管理』2-2、8 月 15 日
- “海の力” と安全保障『防衛調達と情報管理』2-3、11 月 15 日

2002（平成 14）年

- 孫の結婚披露宴『防衛調達と情報管理』2-4、2 月 15 日
- 日本外交の百年『防衛調達と情報管理』3-1、5 月 15 日

サッカーを考える『防衛調達と情報管理』3-2、8月15日

ノーベル賞と日本『防衛調達と情報管理』3-3、11月15日

2003（平成15）年

教育は難しい『防衛調達と情報管理』3-4、2月15日

「戦争と平和」を考える『防衛調達と情報管理』4-1、5月15日

マルクス主義という悪霊『防衛調達と情報管理』4-2、8月15日

ふりかえって『防衛調達と情報管理』4-3、11月15日

ヒトラーとスターリン『RIPS' Eye』[財団法人平和・安全保障研究所ホームページエッセイ]12、12月19日

2005（平成17）年

民主制と市場経済『防衛調達と情報管理』5-4、2月15日

IV. 評論集初出

*評論集の収録評論と初出とを掲げた。評論集収録時に改題されているものについては原題を示した。
単純な表記上の差(漢字/かな、漢数字/アラビア数字など)やサブタイトルだけの修正は無視した。
収録時に加筆・修正されているものもある。

『共産主義の系譜』みすず書房、1949年5月10日

第1章 マルクス主義思想	『社会思想史十講』社会思想研究会出版部、1948年5月1日
第2章 フォイエルバッハと死の思想	「解説」および「フォイエルバッハの生涯」『死と不死について』鬼怒書房、1948年6月25日
第3章 ラッサールの生涯と思想	解説『学問と労働者』日本評論社、1949年2月10日
第4章 スターリンとソヴィエト共産主義	スターリンと共産主義『現代社会思想十講』社会思想研究会、1949年2月25日

『戦う社会民主主義－共産主義との対決－』実業教科書、1949年10月10日

社会民主主義の使命と運命－二匹の怪物との戦い－	『中央公論』64-4、1949年4月1日
共産主義・反共産主義－動機型の分析－	『思索』21、1949年4月1日
共産主義の真理と誤謬－小泉信三とヒストリカス－	『思索』25、1949年8月1日
命令なき服従－日本人の機会主義－	『思索』20、1949年3月1日
戦闘的社会民主主義	戦闘的民主社会主義『社会思想研究会月報』3、1948年11月25日
社会党の進路	1949年4月頃
社会党は労働党になれ	社会党は右派を切つて真の労働党になれ！『社会思想研究会月報』9、1949年5月25日
暴力・ファシズム・共産主義	『中央公論』63-12、1948年12月1日
共産主義の暴力性－プロレタリアートの物神化－	『展望』44、1949年8月1日
戦争とマルクス主義	戦争とマルキシズム『展望』43、1949年7月1日
戦うオーストリア社会党－リンツ綱領に学ぶ－	戦う社会民主主義－オーストリア社会党に学ぶ－『評論』34、1949年7月1日
誰がヒットラーを助けたか－社会ファシズム論の帰結－	『表現』2-7、1949年8月1日
社会民主主義の墮落－社会改良主義との戦い－	『朝日評論』4-8、1949年8月1日
社会民主主義の課題－文明の擁護－	

『三つの共産主義 レーニン・トロツキー・スターリン』養徳社、1951年5月30日

第一章 レーニン	書下し
第二章 トロツキーとトロツキズム	トロツキーの『裏切られた革命』－社会主義学派とマルクスとの対決点『自由国民』29、1950年6月
第三章 スターリンとスターリン主義	スターリンと共産主義『現代社会思想十講』社会思想研究会、1949年2月25日
付録	
共産主義問答	『改造』31-5、1950年5月1日
社会科学とマルクス主義	『社会科学入門』みすず書房、1949年10月15日
平和問答	『人間』5-7、1950年7月1日

『日本の方向 反動に抗して』<フォルミカ選書 4>創文社、1953年1月10日

第一部 民主主義のために	
革命と道徳	『群像』7-4、1952年4月1日
革命と大学	『群像』7-5、1952年5月1日
革命と暴力	『群像』7-6、1952年6月1日
社会民主主義と国会の保守性	『社会思想研究』4-8、1952年10月15日
総選挙を顧みて－左派社会党の進出	『[大阪]毎日新聞』1952年10月6日

ひとごとではない	『地上』6-10、1952年10月1日
革命問答	『改造』33-11、1951年8月1日
反動問答	『改造』32-8、1951年7月1日
この数年間民主主義は日本において進歩しつつあるか	『郵政』3-12、1951年12月1日
第二部平和主義のために	
民族主義と国際連帯主義	日本の方向―民族主義と国際連帯主義―『中央公論』67-4、1952年4月1日
内乱	『中央公論』66-13、1951年12月1日
思想の争いは必ず戦争になるか	『郵政』4-7、1952年7月1日
アメリカとソヴェトはどういうわけで協調できないのか	[1952年2月15日講演於京都・商工会議所]
平和論争の盲点	『新大阪』1952年5月9～11日
私の愛国心	『教育技術』7-3、1952年6月1日
毛沢東と中国革命―竹内好『毛沢東評伝』を読む―	『人間』6-6、1951年6月1日
日本・中国・ロシア	『改造』33-3、1952年2月1日

『増訂版 共産主義の系譜』<角川文庫>角川書店、1953年6月30日

第1章 マルクス主義思想	前掲『共産主義の系譜』（みすず書房、1949年5月10日）参照。
第2章 フォイエルバッハと死の思想	
第3章 ラッサールの生涯と思想	
第4章 レーニンとレーニン主義	レーニン『三つの共産主義 レーニン・トロツキー・スターリン』養徳社、1951年5月30日
第5章 トロツキーとトロツキー主義	トロツキーの『裏切られた革命』―社会主義学派とマルクスとの対決点『自由国民』29、1950年6月、のち、一部を削除して「トロツキーとトロツキー主義」と改題、『三つの共産主義 レーニン・トロツキー・スターリン』（養徳社、1951年5月30日）収録
第6章 スターリンとスターリン主義	スターリンと共産主義『現代社会思想十講』社会思想研究会、1949年2月25日、のち、「スターリンとスターリン主義」と改題、『三つの共産主義 レーニン・トロツキー・スターリン』（養徳社、1951年5月30日）収録
第6章付 スターリンなきロシア	『中央公論』68-4、1953年4月1日

『塩尻公明・木村健康・猪木正道集』<現代随想全集 16>東京創元社、1954年12月5日

リベラリスト・ミリタント	『河合栄治郎伝記と追想』（社会思想研究会出版部、1948年）収録
共産主義の暴力性	『展望』44、1949年8月1日
革命と道徳	『群像』7-4、1952年4月1日
革命と大学	『群像』7-5、1952年5月1日
共産主義問答	『改造』31-5、1950年5月1日
反動問答	『改造』32-8、1951年7月1日
私の愛国心	『教育技術』7-3、1952年6月1日
毛沢東と中国革命―竹内好「毛沢東評伝」を読む	『人間』6-6、1951年6月1日
ソ連を見る眼	『改造』34-9、1953年6月25日

『人間尊重のために―西欧に学ぶもの―』<河出新書>河出書房、1955年7月31日

I ヨーロッパの政治と学問	
ヨーロッパにおける東西の対立	『社会思想研究』7-3、5、6、1955年3月15日、5月15日、6月15日
イギリス議会の傍聴する	英国議会の傍聴する『毎日新聞』1954年7月7日
ヨーロッパにおける保守と革新	『郵政』7-4、1955年4月1日
国際政治学会の印象	
私が出会った学者たち	欧州と日本の問 独・英遊学記『改造』35-12、1954年12月1日
II ドイツ社会民主党	
ドイツ社会民主党から学ぶもの	『民主社会主義』22、1955年2月1日
ドイツ社会民主党とマルクス主義	

ドイツ社会民主党大会に出て	
ベントベルクを訪ねて	
人間の権利と尊厳	
Ⅲヨーロッパ通信	
ドイツ人の民族意識	
西ドイツの学生生活	『学園新聞』777、1954年11月1日
ヨーロッパ便り	『郵政』6-8~10、1954年8月1日、9月1日、10月1日
ドイツに十ヵ月住んでみて	

『政治学新講』<有信堂文庫>有信堂、1956年9月15日【付録として、時評11篇を収録】

共産党の戦術転換	『[大阪]朝日新聞』1955年1月22日
民主政治の前途に光明あり —革新勢力の着実な成長—	『[大阪]朝日新聞』1955年3月1日
苦悶する保守政党	『京都新聞』1955年3月25~27日
日本共産党はどこへ行く —余りにも日本的—	日本共産党どこへ行く『[大阪]読売新聞』1955年8月20日
統一社会党の綱領草案を見て	『[大阪]朝日新聞』1955年9月19日
統一社会党に望む	民主主義を防衛せよ 憲法擁護を第一義に[「統一社会党に望む」]『[大阪]朝日新聞』1955年10月12日
統一社会党に注文する	統一社会党に望む『民主社会主義』30、1955年10月1日
二大政党制に望む	『京都新聞』1955年11月18日
新保守党論	『[大阪]読売新聞』1955年11月14日
二院制と二大政党	『[大阪]読売新聞』1956年6月18日
日本の平和革命論	『[大阪]読売新聞』1956年7月3日

『国際政治の展開』<有信堂文庫>有信堂、1956年10月25日

スターリン批判後の共産主義世界	『婦人公論』41-9、1956年9月日
マルクス・レーニン主義と個人崇拜	個人崇拜とマルクス・レーニン主義『中央公論』71-9、1956年8月15日
共産主義の発展不均衡 —その適地と不適地—	世界の共産主義と日本の共産主義—日本は共産主義の適地か—『知性』3-7、1956年6月1日
マルクス主義と暴力	『世界』115、1955年7月1日
ベリヤ事件に思う(I) —独裁の心理と論理—	独裁の心理と論理—恐怖心の連鎖反応—『日本週報』255、1953年8月5日
ベリヤ事件に思う(II) —それでも平和攻勢は変わらない!—	『改造』34-11、1953年9月1日
自由主義者シュトレゼマン —党派政策か国民協同体か—	『世界』64、1951年4月1日
ヒットラー・ドイツにおける抵抗運動の一考察	『法学論叢』60-1・2、1954年5月1日
チトー	評伝チトー『中央公論』71-4、1956年4月1日
日露戦争からの五十年	1955年12月
日本の外交に望む	『中央公論』71-8、1956年8月1日

付録

日ソ交渉の問題点	『[大阪]読売新聞』1955年3月24日
チャーチルの消えた世界	『[大阪]読売新聞』1955年4月7日
平和共存の思想的基盤	『[大阪]読売新聞』1955年5月6日
中立化を推進するソ連外交	『[大阪]読売新聞』1955年5月17日
英労働党の敗因とその将来	『[大阪]読売新聞』1955年5月28日
ソ連とユーゴ	『[大阪]朝日新聞』1955年6月3日
日本中立化は問題となるか	『[大阪]読売新聞』1955年6月7日
巨頭会談とドイツの将来	『[大阪]読売新聞』1955年7月17日
巨頭会談後の世界	『社会思想研究』7-8、1955年8月15日
強硬な対ソ平和条約草案	『[大阪]読売新聞』1955年8月13日
ソ連・西独会談の成果	『[大阪]読売新聞』1955年9月15日
日韓関係打開の道	『大阪新聞』1955年9月10日
独ソ関係の根は深い	『京都新聞[夕刊]』1955年10月1、3日
アルジェリア問題の意味するもの	『[大阪]読売新聞』1955年10月6日

軍縮のゆくえを探る	1955年12月?
ブルガーニンの対米友好条約提案	『[大阪]読売新聞』1956年1月31日
フルシチョフ報告を読んで	『[大阪]読売新聞』1956年2月15日
変容するソ連	『京都新聞』1956年2月20日
ソ連両首脳演説の意味	ミコヤン演説 振捨てられた“重荷”『[大阪]読売新聞』1956年2月20日
ソ連は民主化されるか	『中部日本新聞』1956年4月9日
対ソ外交の再検討	『[大阪]読売新聞』1956年4月2日
コミンフォルムの解散	共産主義の発展不均等—コミンフォルムの解散— 『[大阪]読売新聞』1956年4月19日
英ソ会談・成果は今後	『[大阪]読売新聞』1956年4月29日

『民主的社会主義のために』<文化新書>有信堂、1958年5月25日

第一部 民主的社會主義の立場	
第一章 日本デモクラシーの運命をかけて	『世界』147、1958年3月1日
第二章 議会を通じたの革命 —民主的社會主義の革命論—	『革命と行動の社會主義』(河出書房、1956年)
第三章 河合榮治郎 —民主的社會主義の先駆者—	河合榮治郎—民主主義的社會主義の先覚者—『中央公論』70-11、1955年11月1日
補論	
総評大会批判	戦線を統一して新理論を「大会を顧みて」『[大阪]毎日新聞』1957年8月7日
社会党大会批判	社会党大会に注文する 政権受入れ体制確立せよ 『[大阪]朝日新聞』1958年2月23日
宗教と社会政策	
民主的社會主義の二問題	『社会思想研究』9-4、1957年4月15日
第二部 西歐の民主的社會主義から学ぶもの	
第四章 ドイツ社会民主党的脱皮	
第五章 オーストリアの社会党	ドイツ・オーストリアの社会党『社会主義の理論と歴史』<社会主義教科書第1巻 原理編>春秋社、4月20日
第六章 スカンジナビアの民主的社會主義	
第三部 民主的社會主義はソ連、中国をどう見るか?	
第七章 ヨーロッパから見たソ連と中国 —ソ連研究会議に出席して—	『中央公論』72-11、1957年9月1日
付	
恐怖の満場一致 —少数派にない言論の自由—	ソ連政変と西独総選挙『[大阪]読売新聞』1957年7月25日
インテリの阿片	『東京新聞』1957年7月28日
第八章 社会主義から共産主義への漸次的移行 —ソ連経済学教科書の批判のために—	『「経済学教科書」の問題点 下」(中央公論社、1956年) 所収
第九章 擬似社会主義と真性社会主義	
第十章 東欧反乱の背景	『新政経』84、1956年12月1日
付 かけがえのない人間の生命の無視	『婦人公論』42-2、1957年2月1日
第十一章 ソ連との協定は無意味か? —日ソ中立条約をふりかえって—	『世界』148、1958年4月1日
第十二章 マルクス主義の理論と現実 —十二カ国共産党の共同宣言を読んで—	『朝日新聞』1957年12月2日
補論	
一 今年のソ連 —ほんものの社会主義への道はけわしい—	『[大阪]朝日新聞』1958年1月28日
二 米外交の転換を期待 —NATO 声名とグルモイコ演説を読んで—	『[大阪]読売新聞』1957年12月23日
三 立ちすくむ日本外交 —打開の道は中国にある—	『読売新聞』1958年3月2日
四 フルシチョフ独裁	『[大阪]読売新聞[夕刊]』1958年3月28日
付録 アメリカ紀行	
一 人種と民族	『東京新聞』1957年9月8日
二 アメリカの黒人問題	『東京新聞』1957年9月15日
三 ウィルソンと私	
四 国連総会を傍聴する	『京都新聞[夕刊]』1957年10月6、7日

五 ポストン便り	『京都新聞[夕刊]』1957年10月8日
六 徹底した人格教育 ーアーマスト大学を訪ねて	アーマスト大学を訪ねて『東京新聞[夕刊]』1957年11月15、16日
七 フットボールを見物 ーミシガン大学にてー	
八 ミシガン、イリノイ両大学を訪ねて	『京都新聞[夕刊]』1957年11月4日
九 修道院で過ごした二日間ーセントルイス	『東京新聞[夕刊]』1958年3月6日
十 米ソのリーダーシップ ーシーソーゲームの連続かー	『エコノミスト』36-1、1958年1月4日

『増訂新版 共産主義の系譜』＜角川文庫＞角川書店、1959年7月30日[省略、後掲『増補版 共産主義の系譜 マルクスから現代まで』(角川書店、1984年4月30日)、参照]

『新訂 政治学新講』＜有信堂全書＞有信堂、1959年10月10日[付録として、時評10篇を収録]

二大政党史論	『朝日新聞』1959年1月3日
二大政党史論に望む	『京都新聞』1955年11月18日
二院制と二大政党	『[大阪]読売新聞』1956年6月18日
新保守党論	『[大阪]読売新聞』1955年11月14日
新自民党内閣に望む	新内閣に望む『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1958年6月13日
自民党に望む	『[大阪]毎日新聞』1959年1月27日
統一社会党に与ふ	民主主義を防衛せよ 憲法擁護を第一義に[「統一社会党に望む」]『[大阪]朝日新聞』1955年10月12日、憲法擁護を第一義に[「統一社会党に望む」]『朝日新聞』1955年10月12日
社会党の理論斗争	『[大阪]読売新聞』1959年1月17日
社会党の進む道	『[大阪]毎日新聞』1959年1月21日
日本共産党はどこへ行く ー余りにも日本的ー	日本共産党どこへ行く『[大阪]読売新聞』1955年8月20日

『民主的社會主義』中央公論社、1960年5月20日

第1部 民主的社會主義の立場 (I)	
第1章 民主的社會主義とは何か	書き下ろし
第2章 民主的社會主義の主張	
第3章 マルクス主義との対決	
むすび 民主的社會主義の反省	
第2部 民主的社會主義の立場 (II)	
第1章 独裁に関する覚書	『自由』2-1、1960年1月1日
第2章 神話からの解放	『日本労働協会雑誌』2-2、1960年2月1日
第3章 権力への責任ーワイマル共和国の崩壊と社会民主党の立場	『思想の科学』2、1959年2月1日
第4章 資本主義と社会主義ー社会体制と人間	資本主義と社会主義『人間と歴史』(1959年)
第3部 社会党と民主社会党	
第1章 社会党に望む ー三分の一の壁をどう破るか?	社会党の進路『[大阪]読売新聞』1960年3月26日
第2章 民主社会党に望む	『全労』19、1960年1月15日
付(1)民社新党に望むー社会党と平和競争をー	『東京新聞』1960年1月24日
付(2) 西尾新党の将来	『コウロン』1959年12月1日
付録	
1 西欧民主的社會主義政党史の課題 ー社会主義インターナショナル書記長アルバート・カーシー氏との対談	西欧革新政党史の課題 カーシー、猪木両氏に聞く『京都新聞』1959年12月8、9日
2 社会党大会を見てー向坂逸郎氏との対談	『社会思想研究』11-10、1959年10月15日
3 西尾新党の方向ー西尾末広氏との対談	『[大阪]読売新聞』1959年11月7~9日

『議會政治を守るために』＜文化新書＞有信堂、1961年2月1日

第一部 議會政治の危機	
政治的危機の底にあるもの	『中央公論』75-9、1960年8月1日

護憲内閣で政局收拾を	『中央公論』75-7、1960年7月1日
この暴挙は許せない	『世界』175、1960年7月1日
「実力乱用」で議会主義は守れぬ	護憲運動展開せよ[「実力乱用」で議会主義は守れぬ]『東京新聞』1960年6月3日
議会政治と実力行使 —議会政治擁護内閣をつくれ—	『[大阪]読売新聞』1960年6月5日
池田内閣の発足	『[大阪]読売新聞』1960年7月24日
第二部 選挙の意義と争点	
一九六〇年総選挙	
十一月総選挙の意義—最大の争点は中立論争—	『南日本新聞』1960年11月7日
怒りの爆発を恐れる	現代の象徴「無法者の国」怒りの爆発を恐れる『東京新聞』1960年11月6日
私はこの党を支持する—民社党—	『毎日新聞』1960年11月17日
三党に望む	『[大阪]産業経済新聞』1960年11月22日
政局の進路と希望	『京都新聞』1960年11月23日
一九五九年参院選挙	
政党の公約—“静観”ではすまされぬ日中関係—	『大阪新聞』1959年1月1日
地方選挙から参議院選挙へ	『中部日本新聞』1959年5月12日
自民党に望む	『産業経済新聞』1959年6月5日?
足ぶみする社会党	『京都新聞』1959年6月4日
一九五八年総選挙	
一・五大政党から二大政党へ—総選挙の意義—	『[大阪]読売新聞』1958年4月30日
今次総選挙の意義	今総選挙の意義『京都新聞』1958年4月28日
なぜ社会党は足ぶみしたか	『[大阪]産業経済新聞』1958年5月24日
第三部 社会主義政党と議会政治	
二大政党と社会主義政党	民主社会主義研究会・講演、1960年1月8日
社会主義政党のあり方	1958年6月、NHK文化講座於岡山市
社会党に直言する	『河北新報』1959年6月18日
向坂理論は孤立化への道 —社会党は団結の力で正しい進路を—	『[大阪]読売新聞』1959年9月13日
統治能力ある反対党へ—社会党大会に望む—	『東京新聞』1959年9月12日
社会党大会をみて	『京都新聞』1959年9月16日
社会党大会を見て —鈴木・浅沼両氏は完全失格—	リーダーシップを欠く鈴木委員長と浅沼書記長 『産経新聞』1959年9月16日
社会党大会に重ねて望む	『東京新聞』1959年10月16日
西尾派脱党と二大政党の転機	『毎日新聞』1959年10月20日
社会党と西尾新党の将来	『京都新聞』1959年10月19日
民社新党に望む	『東京新聞』1960年1月24日
カギは若い世代にある	『[大阪]読売新聞』1960年1月25日
社会党の進路	『[大阪]読売新聞』1960年3月26日
社会主義のプログラム（座談会）	『社会思想研究』1960年4月15日
第四部 日本政治の病理	
政治的テロを排す —浅沼委員長の遭難に思う—	速かに立法措置 連鎖反応を抑えよ[「政治的テロを排す 浅沼委員長の遭難に思う」]『読売新聞』1960年10月13日
日本社会党に望む—浅沼委員長の死を悼んで—	『京都新聞』1960年10月13日
テロを封じよう	『世界』180、1960年12月1日
現代知識人の責任—三池争議の完敗に思う—	『自由』2-11、1960年11月1日
日本の政治は異常か—多数の横暴と少数の暴力—	『[大阪]読売新聞』1959年12月13日
石橋処分論と自民党 —日ソ、日中関係悪化は放置できぬ—	『[大阪]読売新聞』1960年3月13日
臨時国会・社党性格論争 —何もかもグラグラしている—	すべてがグラグラしている 臨時国会と社党性格論争『[大阪]読売新聞』1959年7月5日
日本の民主主義	『神戸新聞』1959年10月10日
日本政治の病理現象	『なにわ』1959年12月1日、1960年1月1日

『政治学ノート I—民族主義と中立主義』<文化新書>有信堂、1962年10月5日

民族主義について	
新しい欧州と日本の孤立感	『中央公論』77-5、1962年4月1日
米ソの平和競争 —どちらが有利な立場にあるか?—	『新気流』16、1962年4月1日

民族主義の行くえ	『東京新聞[夕刊]』1961年12月14～16日
日本の民族主義は可能か	『自由』4-3、1962年3月1日
後進国の民族革命とアメリカ	『エコノミスト』39-30、1961年7月25日
東南アジアの民族主義を見る	東南アの民族主義を見る『読売新聞』1961年2月8日
沖縄に学ぶ	『[大阪]読売新聞』1960年12月18日
中立主義について	
日本の中立は可能か？ ー民衆のムード・中立主義ー	『文芸春秋』38-8、1960年8月1日
付 安保特別委員会口述	『第34回国会衆議院 日米安全保障条約等特別委員会公聴会議録』2、1960年5月14日
東南アジアの中立主義	東南アジア『中立及び中立主義』日本国際連合協会京都本部、1961年6月25日
ドイツ・ソ連・中国	
「ドイツ問題」の底にあるもの	『外交季刊』4-4、1959年10月25日
スターリンとフルシチョフ ーそのちがいは暴政か全体的独裁かでしかないー	『文芸春秋』40-1、1962年1月1日
中・ソの政治関係	『季報ソ連問題』3-4、1960年2月10日
国家は死滅するか	『月刊共産圏問題』6-1、1962年1月1日
論壇時評	
総選挙の分析と評価	多い総選挙の分析と評価『朝日新聞』1960年12月21日
ボールド氏の良識ー国際問題道徳主義を排すー	『朝日新聞』1960年12月22日
脱皮するマルクス主義者 ーモスクワ声名に問題点四つー	『朝日新聞』1961年1月17日
中国革命と東欧革命	『朝日新聞』1961年1月18日
日中関係に好論文	『朝日新聞』1961年2月25日
優れた中国報告(エドガー・スノー) ー松本氏のアメリカ論もー	『朝日新聞』1961年2月26日
狂信的な暴力を究明ー福田氏のインテリ批判ー	『朝日新聞』1961年2月27日
言論の自由と暴力	『朝日新聞』1961年3月18日
中国革命の恐怖感ー宇都宮論文と毛・周会見記ー	『朝日新聞』1961年3月19日
社会科学から社会学へ	『朝日新聞』1961年3月20日
生き残りへの執念	『朝日新聞』1961年4月26日
まず日本観は正ー日米のずれをなくするにはー	『朝日新聞』1961年4月27日
確立せぬ国家観ー現代日本のゆがみー	『朝日新聞』1961年4月29日
機動性を欠くー国際問題と総合雑誌ー	『朝日新聞』1961年5月23日
ゲリラ戦の重視へーアメリカの戦術転換ー	『朝日新聞』1961年5月24日
革新陣営の反省ー闘争の結晶・太田論文ー	『朝日新聞』1961年5月25日
革新インテリの不毛性 ー安保改定一年後もわらぬー	『朝日新聞』1961年6月25日
生産的・創造的な視角 ー福田・尾高・松下各氏の力作ー	『朝日新聞』1961年6月26日
観念的エリートの不毛性・実務的エリートの退歩性	『朝日新聞』1961年6月27日
世界危機と米外交	『朝日新聞』1961年7月19日
日本経済のゆがみ	『朝日新聞』1961年7月20日
公私経済部門間のアンバランスをつく	『朝日新聞』1961年7月22日
戦争ゲームから戦争心理へ	『朝日新聞』1961年8月19日
公正・正直な外交をー大局誤る民族主義の貧困ー	『朝日新聞』1961年8月20日
四つの史観掘り下げ ー大東亜戦争“戦後”も含め考察ー	『朝日新聞』1961年8月21日
稀少価値もつ竹山・勝田論文 ーわが論壇のゆがみについてー	『朝日新聞』1961年9月19日
米外交硬直のナゾ ーニクソン氏中心の対談“危機意識”を突くー	『朝日新聞』1961年9月20日
中級国家として日本の方向づけ ー松本論文と森発言ー	『朝日新聞』1961年9月21日
虚構からの解放	『朝日新聞』1961年10月19日
ソ連と西独を見直す	『朝日新聞』1961年10月20日
権力政治と日本の途 ー森・三木・カー氏も示唆多い発言ー	『朝日新聞』1961年10月21日

すぐれた憲法論議 －改正めぐる勝負はこれから－	『朝日新聞』1961年11月16日
国際認識の欠如と戦争体験 －スポールディング・久野論文の示唆するもの－	『朝日新聞』1961年11月17日
独創的な日本・米・ソ連 －本年度のベスト・スリー－	『朝日新聞』1961年11月18日

『激動する世界と日本－政治学ノートⅡ』<文化新書>有信堂、1965年6月15日

一 ソ連と共産主義	
スターリンとフルシチョフ	『中央公論』79-12、1964年12月1日
戦争と革命－両者の政治力学的関係について	『中央公論』78-2、1963年2月1日
共産主義と国家の問題	『中央公論』78-12、1963年12月1日
二 日本の位置	
「明治」の世界史的意義	『文芸春秋』43-1、1965年1月1日
半強国日本	『自由』5-11、1963年11月1日
日本の民族主義は可能か	『自由』4-3、1962年3月1日
日本社会党に関する覚書 －緩慢ながら脱皮しつつある	『自由』5-2、1963年2月1日
老人支配と日本の政党	『中央公論』77-8、1962年7月1日
三 南北問題と日本	
南北問題と世界平和	『自由』6-12、1964年12月1日
アジアと日本－近代化を中心として－	『同盟』72、1964年6月15日
四 ヨーロッパと日本	
ヨーロッパ合衆国なるか	『新政経』147、1962年9月1日
新しい欧州と日本の孤立感	『中央公論』77-5、1962年4月1日
オーストリアの政情	『オーストリア』1、1964年
五 世界の方向	
一九六四年の世界	『文芸春秋』41-12、1963年12月1日
世界は動く	『新政経』161、1964年1月1日
東西関係はどう動く	『国際問題』48、1964年3月15日

『随想 世界と日本』有信堂、1965年7月20日

世界と日本	『熊本日日新聞』1964年7月7～29、30日、8月1～30日、9月1～11、13～22、24～30日、10月1～18日
時のことば	
なぜ急ぐのか	『京都新聞[夕刊]』1960年12月17日
ツェリウスさんを送る	『京都新聞[夕刊]』1961年6月17日
民主政治を破壊するもの	『京都新聞[夕刊]』1962年3月1日
冷遇されるお医者さん	『京都新聞[夕刊]』1962年5月7日
私の大学	『京都新聞[夕刊]』1962年6月16日
旅に病んで	『京都新聞[夕刊]』1962年10月10日
ドイツと日本	『京都新聞[夕刊]』1962年10月24日
アメリカの学者たち	『京都新聞[夕刊]』1962年12月20日
三冊の本	『京都新聞[夕刊]』1963年10月5日
危険な徴候	『京都新聞[夕刊]』1964年3月12日
青年の国アメリカ	他山の石 アメリカの学者造り『毎日新聞[夕刊]』1963年7月2日
日本を代表する人間	『ユネスコ新聞』335、1961年7月15日
百年前の世界と日本	1962年1月
社会主義の明暗	1964年
わが青春	『[大阪]読売新聞[夕刊]』1961年7月3日
悪筆、苦手のソロバン	
日本の理想と日本の民主主義	
平和国家	『読売新聞』1964年2月29日、3月2日
文化国家	『読売新聞』1964年3月3日
日本の民主主義	『山陽新聞』1964年3月17～20、22～24、26～28日

『政治をみる眼』〈現代政治シリーズ〉世界思想社、1968年2月10日[評論集]

日本の革命は可能か	『東京新聞』1961年3月19日
批評と現代—中心酔型とアメリカ型	『読売新聞[夕刊]』1961年6月15、16日
池田首相を送る	『信濃毎日新聞』1961年6月18日
日米共同声明を読んで	『京都新聞』1961年6月24日
一九六二年の憲法問題	『新護憲』13、1962年1月15日
日本の政治家	『産経新聞[夕刊]』1962年2月2、3日
日本政治の病理	『朝日新聞』1962年4月12、13日
まず国家観を確立	政策本位の政治を『朝日新聞』1962年5月7日
日本型—五大政党の将来	“一・五大政党制”の行くえ『朝日新聞[夕刊]』1962年7月3日
議会政治の発展のために	重大な政党の責任『朝日新聞』1962年7月9日
日本は変わった	『東京新聞[夕刊]』1962年8月13、14日
司法制度の改革について	“長すぎる裁判”『朝日新聞』1962年8月27日
トルコと日本 —政治的近代化の国際会議に出席して—	『産経新聞[夕刊]』1962年10月6日
日本社会党の新政策	新ビジョン求めて手さぐりする社会党『朝日新聞』1962年10月15日
新しい“未来像”への道	自由こそ未来の道“人づくり”に寄せて『朝日新聞』1962年11月19日
日本外交方針の変遷 —基本線を着実に進め—	基本線を着実に進め『読売新聞』1963年9月15日
政治の近代化と選挙制度改革の必要性	選挙制改革に進め “三木答申” 実現への道『朝日新聞』1963年10月21日
総選挙を判定する	自民、猛省のとき 敗北の社党は脱皮せよ[「総選挙 わたしはこう判定する」]『産経新聞』1963年11月23日
国会正常化の条件	『読売新聞』1963年12月2日
ケナン博士と日本の知識人	『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1964年6月20日
「近代化論」の役割	『東京新聞[夕刊]』1964年7月4、5日
自民党総裁選に思う	『[大阪]読売新聞』1964年7月7日
池田改造内閣に望む	ILO批准急げ 沖縄の施政権返還に全力[「池田改造内閣に望む」]『京都新聞』1964年7月21日
行政の近代化と具体策 —臨時行政調査会の答申をめぐって	臨時行政調査会の答申『読売新聞』1964年9月30日
日本の安全保障について	『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1964年10月23、24日
世界の中の日本	『信濃毎日新聞』1965年1月5、6日
激動する世界と日本の知識人	『東京新聞[夕刊]』1965年1月8、9日
選挙の浄化について	『朝日新聞』1965年4月1～4、6、7日
選挙区改革案をめぐって —小選挙区比例代表制を—	『政経時報』1965年6月3日
参議院選挙と選挙制度	全国区を比例代表制に『中日新聞』1965年6月28日
参院選を前に—政党化は当然—	『西日本新聞』1965年7月1日
公正な国民の審判	『京都新聞』1965年7月6日
日本の進路を考える —参議院選挙後の内政と外交—	『山陽新聞』1965年7月11～15日
歴代宰相論	
東久邇稔彦—見事な終戦処理	“屈辱の時代”『産経新聞』1965年8月6日
片山哲—苦悩する理想主義	苦悩する理想主義『産経新聞』1965年8月8日
吉田茂—きびしい現実政治	きびしい現実政治『産経新聞』1965年8月15日
石橋湛山—自由主義に試練	自由主義に試練『産経新聞』1965年8月7日
岸信介—不幸な時代	不幸な時代『産経新聞』1965年8月12日
池田勇人—合理主義の登場	合理主義の登場『産経新聞』1965年8月13日
あの戦争を何と呼ぶべきか —敗戦二十年をむかえて—	第二次大戦」がよい 大東亜戦争肯定論に反対する『産経新聞[夕刊]』1965年8月14日
日韓条約をめぐって —韓国管轄権を明確に—	韓国政府の管轄権こそ問題『読売新聞』1965年10月2日
新聞と国民感情	『朝日新聞』1965年10月18日
日韓条約承認に寄せて	日韓友好への道—条約承認に寄せて—『京都新聞』1965年12月12日
内閣制度八十年の教訓	『読売新聞』1965年12月19日
ソ連との友好に思う	『読売新聞』1966年1月20日
内閣改造に望む	『読売新聞』1966年5月3日

戦後二十一年を顧みて —わが政党の功罪—	『読売新聞』1966年8月12日
戦後二十一年の政治を概観して	政治 勇断をもって政界浄化[「昭和四十年代・日本の課題 終戦記念日に寄せて」]『産経新聞』1966年8月15日
近代化と非近代化 —日本と中国とを比較して—	『中日新聞』1966年9月17日
二大政党の猛省を促す	『読売新聞』1966年10月13日
新聞の政治批判	『読売新聞』1966年10月25日
政治責任不在の総裁選挙	『[大阪]読売新聞[夕刊]』1966年11月22日
改造内閣の課題	『京都新聞』1966年12月5日
解散・総選挙に思う	『神戸新聞』1966年12月28日
総選挙と政局	『産経新聞』1967年1月31日、2月1日
沖縄問題の焦点 —九十五万同胞の人権を守ろう—	『中日新聞』1967年2月25日
市民の運命がかかっている —京都市長選挙をめぐって—	『京都新聞』1967年2月25日
地方政治に望む	『産経新聞[夕刊]』1967年3月20日
核拡散防止条約と日本	『中日新聞』1967年3月22日
美濃部新都知事に望む	『産経新聞[夕刊]』1967年4月19日
新学問のすすめ	『産経新聞[夕刊]』1967年4月22日
日米関係を深めよう —講和条約十五年に思う—	『中日新聞』1967年4月23日
政党と政治資金規正	『産経新聞[夕刊]』1967年5月15、16日
安保条約に期限はあるか	『[大阪]読売新聞[夕刊]』1967年5月20日
中国との平和共存	『中日新聞』1967年7月16日?
終戦記念日を迎えて	『産経新聞[夕刊]』1967年8月14、15日
学生運動の暴走に思う	『京都新聞』1967年10月13日
自民党の猛省を促す	『産経新聞[夕刊]』1967年10月19、21日
中ソ対立と吉田茂	『中日新聞』1967年10月31日
日米首脳会談に望む	『[大阪]読売新聞』1967年11月12日
ジョンソン・佐藤共同声明を読んで	共同声明を読んで『読売新聞[夕刊]』1967年11月16日
暴力と自由	無法者を排除しよう 暴力と自由とは決して両立しない 『中日新聞』1967年11月19日
防衛問題の考え方	『産経新聞[夕刊]』1967年11月29、30日

『国際政治をみる眼』<現代政治シリーズ>世界思想社、1968年2月10日[評論集]

第一部 国際政治をみる眼 概観	
なぜ振るわぬ先進国の革新政党	『東京新聞』1961年8月27日?
民族主義の行くえ	『東京新聞[夕刊]』1961年12月14~16日
多元化する国際政治	『[大阪]朝日新聞』1963年1月21日
国際政局と日本の立場	『神戸新聞』1964年1月1日
アジアと日本—外交の基本姿勢	外交の基本姿勢[「アジアと日本」]『毎日新聞』1964年2月15日
論争二十年	スターリン批判のこだま『朝日新聞[夕刊]』1965年8月20日
日本の国際的孤立	日本の国際的地位『読売新聞』1965年12月11日
アジアの近代化は自力で	『東京新聞』1966年1月31日
神話の国際政治学	『朝日新聞』1966年9月19日
1967年の国際情勢	『熊本日日新聞』1967年1月1日
社会主義国家と合法性	『[大阪]朝日新聞[夕刊]』1967年3月27日
中東戦争と国際政局	『京都新聞』1967年6月18日
“地上の平和”第二回会議に出席して	『毎日新聞[夕刊]』1967年6月20日
「地上の平和」会議	『産経新聞[夕刊]』1967年6月23、24日
米ソ首脳会談の成果	『京都新聞』1967年6月27日
世界史におけるロシア革命	『[大阪]産経新聞[夕刊]』1967年11月7日
第二部 各国政治をみる眼	
ソ連	
中ソ関係の新段階?	『読売新聞』1961年7月12日?
ソ連新綱領草案を読んで	『[大阪]読売新聞』1961年8月3日
共産主義の発展不均等	『読売新聞』1961年12月13日
農業問題に苦しむソ連	『[大阪]読売新聞』1962年3月8日

ソ連はどこへ行く？	『読売新聞』1962年12月24日？
中ソ対立と日本	『毎日新聞』1963年1月16日
中ソ対立の将来と日本	『読売新聞』1964年4月22日
スターリン批判十周年	『読売新聞』1966年2月24日
共産党独裁の将来 ーブレジネフ報告を読んでー	『中日新聞』1966年4月1日
ロシア革命五十年に思う	『産経新聞[夕刊]』1967年7月24、25日
革命五十周年のソ連	『中日新聞』1967年9月22日
ソ連の印象	『産経新聞[夕刊]』1967年9月27、28日
ソ連の進路を考える	『[大阪]読売新聞』1967年11月28日
アメリカ	
国連総会と米国および日本	『大分合同新聞』1961年9月18日
日米関係の将来を思う	『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1963年1月7、8日
大西洋偏向の米国	『朝日新聞』1963年3月18日
バーミングハムの白黒紛争に思う	大きい世論の動き 米の黒白紛争に思う『朝日新聞』1963年5月27日
アメリカの黒人革命	『[大阪]読売新聞』1963年7月2日
成長したアメリカ国民	成長したアメリカ人『毎日新聞[夕刊]』1963年9月9、10日
暗殺と民主政治 ーケネディの死に思うー	“民主制” 守護への警鐘『毎日新聞』1963年11月28日
アメリカー九六四年 ー軍縮と後進国革命にどう対処するかー	『毎日新聞[夕刊]』1964年1月21日
沖縄とアメリカのアジア政策	『沖縄タイムズ』1965年1月21日
日米関係の将来と中国問題	日米関係の将来『読売新聞』1965年10月31日
「ヴェトナム」での米の活路	持ちこたえ作戦 「ベトナム」で米の活路『読売新聞』1966年2月6日
アメリカ外交の反省 ーマック・ジョージ・バンディ氏と会ってー	『中日新聞』1966年5月17日
日米会議と中国代表権問題	『読売新聞』1966年5月31日
ヴェトナム戦争の曲がりかど ージョンソン大統領の太平洋諸国歴訪ー	『中日新聞』1966年10月15日
ワシントンの印象	『中日新聞』1967年5月9日
ヴェトナムの悪夢	『オブザーバー』14、1967年5月14日
黒人暴動を考える	『中日新聞』1967年8月9日
佐藤首相訪米に望む	米戦略の転換を迫れ 首相訪米に望む『中日新聞』1967年11月12日
ヨーロッパ	
ゲルマンとスラブの闘争	『毎日新聞』1961年8月31日
ドイツは変わった	『読売新聞』1962年8月15、17、18日
社会主義と科学・技術革命	『毎日新聞』1963年10月15日
英労働党大勝の教訓 ー社会党にほしい統治能力ー	英労働党の勝利と日本社会党ー統治能力、リーダーシップの役割『読売新聞』1966年4月10日
移行社会の民主主義 ーフラスカーティ会議に出席してー	『読売新聞[夕刊]』1966年4月19日
ドゴール外交の背景	『読売新聞』1966年7月19日
政治的危機に思う ー日本と西独を比較してみるとー	『中日新聞』1966年11月8日
ドイツ統一問題の難しさ ー“地上の平和” 第二回会議に出席してー	『オブザーバー』20、1967年6月25日
中国	
国連と中国	『読売新聞』1965年11月27日
中国の水爆実験と日本	『[大阪]毎日新聞』1966年5月11日
中共の全体主義独裁 ー“紅衛兵の夜” に思うー	『中日新聞』1966年8月28日
中国文化大革命の進路 ー毛沢東化と非毛沢東化ー	毛沢東化と非毛沢東化『産経新聞』1966年9月3日
中ソの革命独裁を比較する	『毎日新聞[夕刊]』1967年1月17日
中共の“非毛沢東化”	『中日新聞』1967年2月7日
文化大革命の行くえ	『産経新聞[夕刊]』1967年3月3日
東南アジア	

東南アジアの独裁政治 －タイとビルマとを比較して－	『[大阪]朝日新聞』1961年2月14日
タイ国紀行 －東南アジア一九六五年の希望－	『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1965年1月9日
変動する東南アジアの将来	『[大阪]読売新聞』1965年6月5日
インドシナ三国の印象 －ブノンペンからサイゴンまで	『熊本日日新聞』1965年9月28～30日、10月1、2日
国連とヴェトナム問題	『読売新聞』1966年10月1日
拡大続くヴェトナム戦争 －一九六七年をふりかえる －ヴェトナム戦争を中心として－	『中日新聞』1967年1月20日 『産経新聞[夕刊]』1967年12月27、28日

『歴史の転換点』文芸春秋、1968年7月5日

どう変わる米国のアジア政策	『文芸春秋』46-6、1968年6月1日
アメリカの東南アジア政策	『中央公論』80-4、1965年4月1日
中国とソ連を対比する	『文芸春秋』45-1、1967年1月1日
非毛沢東化と非スターリン化	『中央公論』82-4、1967年3月21日
革命五十年の評価	『自由』9-11、1967年11月1日
ナショナリズムと共産主義	『国際時評』29、1967年9月1日
社会主義の変貌	『潮』83、1967年5月1日
『資本論』百年の逆説	『潮』58、1965年4月1日
日本人の中国観	チャンコロから偉大なる中国まで『文芸春秋』43-8、 1965年8月1日
東南アジアにおける日本の将来	『自由』7-5、1965年5月1日
自民党が野党になる日	『自由』9-2、1967年1月1日
政治指導者の条件	『別冊潮』8、1968年1月1日
知識層と外交	『国際時評』37、1968年5月1日
国際危機と平和の条件	『自由』9-8、1967年8月1日
大国主義 内からの崩壊	『自由』10-6、1968年6月1日

『新增訂版 共産主義の系譜 マルクスから毛沢東まで』角川書店、1970年9月30日[省略、後掲『増補版 共産主義の系譜 マルクスから現代まで』(角川書店、1984年4月30日)、参照]

『防衛を考える』防衛大学校、1972年8月3日[評論集]

学校長紹介時の挨拶	1970年8月6日
着任式における訓示	1970年9月7日
防衛大学校に“入学”して	『[防衛大学校同窓会]会報』8、1970年12月20日
第十八回開拓記念式典における式辞	1970年11月8日
三島「檄」に関する訓示	1970年12月18日
防衛大学校本科第十五期学生及び理工学研究科第八期学生卒業式における式辞	1971年3月21日
“知識の爆発”について	『小原台』47、1971年3月18日
第十五期生を送る	『[新聞]小原台』101
防衛大学校本科第十九期学生及び理工学研究科第十期学生入校式における式辞	1971年4月5日
合同朝礼における講話	1971年4月13日
欧米士官学校を訪ねて	『[防衛大学校同窓会]会報』9、1971年12月20日
コロラド・スプリングスとアナポリス	『小原台』48、1971年8月1日
善行ほう賞授与式における訓示	1971年8月7日
合同朝礼における講話	1971年9月10日
合同朝礼における講話(ニクソン訪中に関する所見)	1972年2月18日
軍国主義の復活とは?	『小原台』49、1972年3月15日
空想的平和主義	『[新聞]小原台』107
合同朝礼における講話	1972年4月14日

『現代政治の虚像と実像』<Sekaishiso seminar>世界思想社、1974年4月1日

緊張緩和と日本の安全保障	『国際時評』97、1973年5月1日
--------------	--------------------

知識層と外交	『国際時評』37、1968年5月1日
アメリカ知識人の沖繩観	『諸君』1-2、1969年8月1日
アメリカからみたヨーロッパ	『国際時評』77、1971年9月1日
“開いた社会”のゆがみ	『諸君』1-6、1969年12月1日
反米ナショナリズムを排す	『改革者』118、1970年1月1日
強迫観念からの解放を	『諸君』2-2、1970年2月1日
共産主義の多元性	『現代のエスプリ』28、1967年11月1日
共産諸国の自由	『国際時評』42、1968年10月1日
マルクス主義と終末論	『自由』12-2、1970年2月1日
ナショナリズムと共産主義	『国際時評』29、1967年9月1日
再スターリン化?	『自由』10-10、1968年10月1日
世界の情勢と日本の立場	『信濃教育』957、1966年8月1日
アメリカから帰って	『国際関係委員会講演』34、1969年12月
当面するわが国の内政、外交、防衛問題	『当面するわが国の内政、外交、防衛問題』<第22回例会講演於八戸グランドホテル>デーリー東北政経懇話会、1972年12月5日

『安全を考える』朝雲新聞社、1977年3月30日

日本の安全保障について	『諸君』8-5、1976年5月1日
米国の困惑と日本の責任 -外交と軍事との関係について-	『諸君』7-8、1975年8月1日
ソ連の脅威にどう対処するか	『中央公論』91-11、1976年11月1日
沖繩返還の決定的瞬間	『諸君』8-7、1976年7月1日
安全保障から見た世界	『小原台』57、1976年9月10日
毛沢東の死去に際して考える	『[防衛大学校同窓会]会報』13、1976年12月1日
愛国心について	愛国心の原点について『正論』31、1976年8月1日
民主主義の危機について	『小原台』53、1974年8月1日
先進国の苦悩-防衛問題-	『饗宴』14、1974年7月20日
吉田茂と日本の安全保障	『防衛開眼-平和ボケからの脱出-』隊友会、1976年3月3日
日本人の防衛意識と青少年教育	『続防衛開眼 平和ボケからの脱出』隊友会、1976年6月1日
防衛と外交 -安全保障の考え方-	『国民外交』25、1973年7月10日

『軍事大国への幻想 真に国を守るには』東洋経済新報社、1981年2月19日

空想的平和主義から空想的軍国主義へ	『中央公論』95-11、1980年9月1日
安全保障論争、興すべし -森嶋・関“日英”往復平和論議を評す-	『正論』65、1979年4月1日
文民統制を考える -栗栖統幕議長解任をめぐって-	『文芸春秋』56-9、1978年9月1日
憲法と自衛力の限界	『月刊自由民主』259、1977年7月15日
防衛論議の虚実	『中央公論』96-1、1981年1月1日
リーダーシップ喪失時代 -戦後保守政治の原点を考える-	『正論』48、1977年12月1日
明治の軍人と昭和の軍人	『正論』60~62、1978年11月1日、12月1日、1979年1月1日
国の安全と独立 -いま若者たちに必要な決断-	『正論』41、1977年5月20日
祖国について	『人生というもの』(潮出版社、1973年)

『増補版 共産主義の系譜 マルクスから現代まで』角川書店、1984年4月30日

第1章 マルクス主義思想	前掲『共産主義の系譜』(みすず書房、1949年5月10日)参照。
第2章 フォイエルバッハと死の思想	
第3章 ラッサールの生涯と思想	
第4章 レーニンとレーニン主義	前掲『増訂版 共産主義の系譜』<角川文庫>角川書店、1953年6月30日
第5章 トロツキーとトロツキー主義	
第6章 スターリンとスターリン主義	評伝チトー『中央公論』71-4、1956年4月1日
第7章 チトーとチトー主義	

第 8 章 フルシチョフとスターリン	フルシチョフとスターリンとはどこが違うか『婦人公論』43-6、1958年6月1日
第 9 章 マルクスの革命理論とアジアの社会主義思想	『法学論叢』79-1、1966年4月1日
第10章 非毛沢東化と非スターリン化	『中央公論』82-4、1967年3月21日
第11章 現代の共産主義	

『猪木正道著作集 1 共産主義の系譜』力富書房、1985年3月5日

共産主義の系譜	
第一章 マルクス主義思想	『増補版共産主義の系譜 マルクスから現代まで』(角川書店、1984年)第1～6章
第二章 フォイエルバッハと死の思想	
第三章 ラッサールの生涯と思想	
第四章 レーニンとレーニン主義	
第五章 トロツキーとトロツキズム	
第六章 スターリンとスターリン主義	
ドイツ共産党史－西欧共産主義の運命	『ドイツ共産党史－西欧共産主義の運命』(弘文堂、1950年)
ロシア革命史	新版『ロシア革命史－社会思想史的研究』<現代政治シリーズ>世界思想社、1967年。
共産主義の暴力性	『展望』44、1949年8月1日、のち『戦う社会民主主義』(実業教科書、1949年)収録

『猪木正道著作集 2 独裁の研究』力富書房、1985年5月5日

独裁の政治思想	
第1章 序説	
1 独裁の概念	『法学論叢』64-1、1958年4月1日、のち『独裁の政治思想』第1章収録
2 独裁の政治思想	『法学論叢』65-3、1959年6月1日、のち『独裁の政治思想』第2章収録
第2章 独裁の政治思想	
1 マルクス・レーニン主義の革命独裁理論	『政治変動論』(世界思想社、1953年)第3章第1節、のち『独裁の政治思想』第3章収録
2 マルクス革命・独裁理論の修正－マルクス主義と大衆意識－	マルクス主義と大衆意識『年報政治学 1957 国家体制と階級意識』、のち『独裁の政治思想』第4章収録
3 レーニン、スターリンにおけるプロレタリアート独裁理論の発展	『スラヴ研究』4、1960年3月15日、のち『独裁の政治思想』第5章収録
4 レーニン主義と毛沢東思想	『法学論叢』67-4、5、1960年7月1日、8月1日、のち『独裁の政治思想』第6章収録
5 ヒトラーの政治思想	『青山国際政経論集』1、1984年3月30日、のち『独裁の政治思想[増訂版]』第7章収録
独裁の政治過程と独裁	
第1章 独裁の政治過程	
1 政治権力の変革過程	『政治変動論』(世界思想社、1953年)第1章、のち『独裁の政治思想』補論第1章収録
2 独裁の政治過程	『独裁の研究』(創文社、1957年)、のち『独裁の政治思想』補論第2章収録
3 政治権力と社会階級	『法学論叢』62-1、1956年4月1日、のち『独裁の政治思想』補論第3章収録
第2章 独裁者	
『独裁者』(筑摩書房、1963年)	
我が国議会政治の病理と危機状況	
第1章 政治的危機の底にあるもの	『中央公論』75-9、1960年8月1日
第2章 向坂理論は孤立化への道－社会党は団結の力で正しい進路を	『[大阪]読売新聞』1959年9月13日
第3章 現代知識人の責任－三池争議の完敗におもう	『自由』2-11、1960年11月1日
政治思想の根底的比較	防衛大学校講話速記(「政治思想について」『修親』15-8～10、1972年8月、9月、10月)に加筆して「政治思想の根底的比較」と改題、『七つの決断 現代史に学ぶ』(実業之日本社、1975年)収録

『猪木正道著作集 3 冷戦と共存』力富書房、1985年6月5日

戦後の国際政治	
冷戦と共存	『冷戦と共存』(文芸春秋、1969年)
共産主義の世界	
第1章 チトーとチトー主義	『増補版 共産主義の系譜 マルクスから現代まで』(角川書店、1984年)第7~11章
第2章 フルシチョフとスターリン	
第3章 マルクスの革命理論とアジアの社会主義思想	
第4章 非毛沢東化と非スターリン化	
第5章 現代の共産主義	
第6章 ナショナリズムと共産主義	
民族主義と中立主義	
第1章 民族主義のゆくえ	『東京新聞[夕刊]』1961年12月14~16日、のち『民族主義と中立主義』(有信堂、1962年)収録
第2章 日本の民族主義は可能か	『自由』4-3、1962年3月1日、のち『民族主義と中立主義』(有信堂、1962年)収録
第3章 東南アジアの中立主義	東南アジア『中立及び中立主義』(日本国際連合協会 京都本部、1961年)、のち『民族主義と中立主義』(有信堂、1962年)収録
第4章 インドシナ三国の印象 —ブノンペンからサイゴンまで	『熊本日日新聞』1965年9月28~30日、10月1、2日、のち『国際政治を見る眼』(世界思想社、1968年)収録
アメリカの苦悩	
第1章 後進国の民族革命とアメリカ	『エコノミスト』39-30、1961年7月25日
第2章 アメリカの東南アジア政策	『中央公論』80-4、1965年4月1日
第3章 アメリカ知識人の沖繩観	『諸君』1-2、1969年8月1日

『猪木正道著作集 5 国を守る』力富書房、1985年7月5日

私の祖国愛	
第1章 私の愛国心 —愛国心の基本条件	『教育技術』7-3、1952年6月1日
第2章 日本の理想 —平和国家と文化国家	『読売新聞』1964年2月29日、3月2、3日
第3章 私の祖国愛	祖国について『人生というもの』(潮出版、1973年)
国を守る	
第1章 これからの防衛	『国を守る』(実業之日本社、1972年)
第2章 先進国の防衛政策	
第3章 日本の安全を保証する条件	
安全保障の考え方—空想的平和主義の陥穽	
第1章 防衛と外交	『国民外交』25、1973年7月10日
第2章 神話の国際政治学	『朝日新聞』1966年9月19日
第3章 知識層と外交	『国際時評』37、1968年5月1日
第4章 平和主義の類型 —森嶋・関論争について	安全保障論争、興すべし 森嶋・関“日英”往復平和論議を評す『正論』65、1979年4月1日
第5章 空想的平和主義から空想的軍国主義へ	『中央公論』95-11、1980年9月1日
第6章 軍国主義	『ブリタニカ国際大百科事典 6』(ティビエス・ブリタニカ、1973年)収録
現行防衛体制の評価—「安全を考える」	
第1章 憲法と自衛力の限界	『月刊自由民主』259、1977年7月15日、のち『軍事大国への幻想』収録
第2章 文民統制を考える —来栖統幕議長解任をめぐって	『文芸春秋』56-9、1978年9月1日、のち『軍事大国への幻想』収録
第3章 日本の防衛	『国際関係』(文芸春秋、1981年)収録
第4章 怠慢に過ぎた日本の防衛 —一年二〇パーセントの防衛費増加を	『正論』92[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』1]、1981年6月15日
第5章 政府高官の任期は短すぎる —国家の安全保障に大害も	『サンケイ新聞』1983年7月27日
第6章 防衛力の効率的増強を —三つの提言文書を読んで	『正論』148[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』12]、1985年3月30日
防大生と「防衛を考える」	
第1章 着任式における訓示	

第2章 三島「檄」に関する訓示	
第3章 歴史を広い眼で見よ	
第4章 品格の向上に努めよう —新しい環境の中で	『[新聞]小原台』112、1973年2月8日
第5章 チャーチルとドゴールから学ぶ	
第6章 『翔ぶが如く』を読んで	
第7章 日本の主権と独立を守ろう	
第8章 離任に伴う学生に対する訓話	
日本のとるべき道—現実的平和主義をめざせ	
第1章 日本の中立は可能か？ —民衆のムード・中立主義	『文芸春秋』38-8、1960年8月1日、のち『政治学ノートⅡ—民族主義と中立主義』収録
第2章 ソ連の“脅威”にどう対処するか	『中央公論』91-11、1976年11月1日
第3章 先進国の苦悩—防衛問題	『饗宴』14、1974年7月20日、のち『安全を考える』収録
第4章 国際感覚を大切に —歴史の教訓を生かせ	『日経連タイムス』1510、1978年9月7日
第5章 脱皮した防衛アレルギー —西側の怠慢こそ脅威招く	『サンケイ新聞』1980年8月28日
第6章 積極的能動的な平和国家をめざせ	『経営者』37-1、1983年1月1日
第7章 米中ソとの外交 —日本の対応姿勢	『山形新聞[夕刊]』1984年5月15日
第8章 われわれはほんとうに同盟国を知っているか—アメリカ研究の勧め	『正論』141、1984年10月1日

『猪木正道著作集4 歴史・人物・決断』力富書房、1985年7月15日

現代史の構造	
第1章 戦争と革命	『戦争と革命』雲井書店、1952年〔再刊：社会思想研究会出版部、1953年〕
第2章 『資本論』百年の逆説	『潮』58、1965年4月1日
二十世紀を彩った人々	
第1章 スターリン—評伝	『中央公論』66-1、1951年1月1日、のち『スターリン』(社会思想研究会出版部、1951年)、『スターリン・毛沢東・ネール』(要書房、1951年)収録
第2章 自由主義者シュトレゼマン	『世界』64、1951年4月1日
第3章 河合先生と第二次世界大戦について	『社会思想研究』19-11、1967年11月15日
第4章 河合教授とそのころの私	河合教授とその頃の私『わが学生の頃』三芽書房、1957年
第5章 今上天皇—国民統合の立憲君主	『新生日本の立役者』(ティビーエス・ブリタニカ、1983年)所収
歴史的決断	
第1章 七つの決断—現代史に学ぶ	『七つの決断』(実業之日本社、1975年)
第2章 歴代宰相論	初出は下記『産経新聞』、のち『政治を見る眼』収録時に「歴代宰相論」と改題
東久邇稔彦—見事な終戦処理	“屈辱の時代”『産経新聞』1965年8月6日
片山哲—苦悩する理想主義	苦悩する理想主義『産経新聞』1965年8月8日
吉田茂—きびしい現実政治	きびしい現実政治『産経新聞』1965年8月15日
石橋湛山—自由主義に試練	自由主義に試練『産経新聞』1965年8月7日
岸信介—不幸な時代	不幸な時代『産経新聞』1965年8月12日
池田勇人—合理主義の登場	合理主義の登場『産経新聞』1965年8月13日
論壇時評	
中国の姿勢、鋭く分析	『朝日新聞[夕刊]』1967年12月20日
対立する中国革命観	『朝日新聞[夕刊]』1967年12月21日
米中対決の本質つく	『朝日新聞[夕刊]』1966年1月25日
毛戦略と核武装の間	『朝日新聞[夕刊]』1966年1月26日
自主外交の道を分析	『朝日新聞[夕刊]』1966年2月21日
審議会の欠陥にメス	『朝日新聞[夕刊]』1966年2月22日
競ってソ連に焦点	『朝日新聞[夕刊]』1966年3月21日
大学の使命を問う	『朝日新聞[夕刊]』1966年3月22日
防衛論議が本格化	『朝日新聞[夕刊]』1966年4月22日
インドネシア論活発	『朝日新聞[夕刊]』1966年4月23日
勢力均衡論への批判	『朝日新聞[夕刊]』1966年5月25日

明治百年の行過ぎ反省	『朝日新聞[夕刊]』1966年5月26日
盛んな「中国の整風」論	『朝日新聞[夕刊]』1966年6月22日
収穫あった「日米関係」	『朝日新聞[夕刊]』1966年6月23日
経済の進路をさぐる	『朝日新聞[夕刊]』1966年7月22日
現実主義、正しく評価	『朝日新聞[夕刊]』1966年7月23日
“信頼への賭”には条件	『朝日新聞[夕刊]』1966年8月22日
独裁者の支配想起—大島論文	『朝日新聞[夕刊]』1966年8月23日
中ソの比較論にズレ	『朝日新聞[夕刊]』1966年9月29日
“中国の矛盾”をつく	『朝日新聞[夕刊]』1966年9月30日
文化大革命へ一致点	『朝日新聞[夕刊]』1966年10月25日
権力者の腐敗をつく	『朝日新聞[夕刊]』1966年10月26日
腐敗への抵抗力評価	『朝日新聞[夕刊]』1966年11月28日
社会党の責任を問う	『朝日新聞[夕刊]』1966年11月29日

『九〇年代に向けて』力富書房、1987年2月4日

現代政治の条件	
情報戦と日本の防衛	『正論』133[特別増刊『DEFENSE INFORMATION』9]、1984年3月30日
核時代の安全保障	『[大阪]読売新聞』1985年12月10～13日
大宰相への条件	宰相の条件『正論』168、1986年8月1日
政治指導者への提言	『正論』170、1986年10月1日
世界はこう動く	
繁栄がまねく政治不安	“悪玉”論に頼る急進主義『サンケイ新聞』1973年6月25日
脆き経済大国・日本	“粘土脚”の経済大国『サンケイ新聞』1974年1月5日
民主社会を守る国家の位置	国家の正しい位置づけを『サンケイ新聞』1974年3月25日
今こそ自由世界への自信を	“自由世界”への自信持て『サンケイ新聞』1976年4月27日
危機管理の発想	77 安全を考える年[「正論」]『サンケイ新聞』1977年1月4日
軍備管理で平和国家を	安全保障と平和国家『サンケイ新聞』1979年2月19日
安全保障のための内政	連合時代の安全保障『サンケイ新聞』1980年5月26日
戦争と平和の問題	“戦争と平和”の問題を考える『サンケイ新聞』1982年3月16日
共産主義者の挑戦	共産主義者の術中にはまるな『サンケイ新聞』1982年8月6日
ドイツと日本—五〇年前と今—	『サンケイ新聞』1983年2月23日
慎重な楽観主義論	1985年は“慎重な楽観主義”の年『サンケイ新聞』1985年1月4日
ヤルタ協定四十年	『山形新聞[夕刊]』1985年1月7日
立法府決議にのぞむ	感情より理性代弁『山形新聞[夕刊]』1985年5月21日
ソ連秘密主義への疑問	異常なソ連の秘密主義『山形新聞[夕刊]』1985年7月29日
核戦争抑止への道	広島・長崎40周年を考える『サンケイ新聞』1985年8月3日
保守主義がもたらす平和	復権めだつ保守主義『山形新聞[夕刊]』1986年2月3日
軍備管理の隘路	複雑怪奇な軍備管理『山形新聞[夕刊]』1986年9月22日
日本型議会政治への提言	成熟した日本型議会政治『サンケイ新聞』1986年11月27日
外交に必要な国民意識	日本外交は軟弱か『山形新聞[夕刊]』1986年12月3日
世界平和への条件	世界平和の条件とは何か『サンケイ新聞』1987年1月3日

『政治の文法 日本・アメリカ・ソ連』 <Sekaishiso seminar>世界思想社、1991年9月5日

I ソ連の解体と冷戦後	
ソ連はなぜ冷戦に敗れたか	『正論』201、1989年5月1日
共産主義の幻想と解体	『正論』220、1990年12月1日
冷戦の終結と日米対立	ネオ・ナショナリズムを警戒する『文芸春秋』67・13、1989年12月1日
湾岸危機によせて	積極的平和主義への転換『THIS IS 読売』1・10、1991年1月1日
ソ連の解体と日ソ関係	連邦解体から日ソの新構築へ『サンサーラ』2・3、1991年3月10日
II 日本とアメリカー冷戦終結後の世界	
日米関係の文法	正しい日米関係のためにー両国間の文法を尊重しよう 『正論』216、1990年8月1日
経済超大国から政治大国へ	『正論』195、1988年11月1日
一九九〇年代の安全保障	『新防衛論集』18-2、1990年9月15日
III 日本ー現代政治諸相	
宰相の条件	『正論』168、1986年8月1日
政治指導者への提言	『正論』170、1986年10月1日
自民党は再起できるか	『正論』206、1989年10月1日
一九九〇年代の宰相論	『政策研究』100、1990年5月21日
IV 昭和史より	
昭和史の天皇	『正論』199、1989年3月1日
河合栄治郎生誕百周年	ある自由主義者の肖像ー生誕百周年に河合栄治郎をし のぶ『正論』223、1991年3月1日
付ー講演四編	
ソ連の破産ー講演「米ソ関係と日本」	ソ連の破産と冷戦以後『正論』210、1990年2月1日
ソ連圏の崩壊	『日本工業倶楽部第九二四回木曜講演会講演要旨』1990年4月26日講演
象徴 歴史が生んだ知恵	『THIS IS』6-3、1989年3月1日
独裁五十六年ー青山学院大学最終講義より	『青山国際政経論集』18、1990年10月31日